

授 業 内 容

2019年度

横浜女子短期大学



目 次

教 養 科 目

§ 1. 教養科目

キリスト教の精神 I	1
教養演習	2・3
哲学	4
日本国憲法	5
心理学	6
生物学	7
情報機器の操作	8

§ 2. 外国語

英語 I	9・10
英語 II	11・12

§ 3. 保健体育

体育実技	13・14
体育講義	15・16

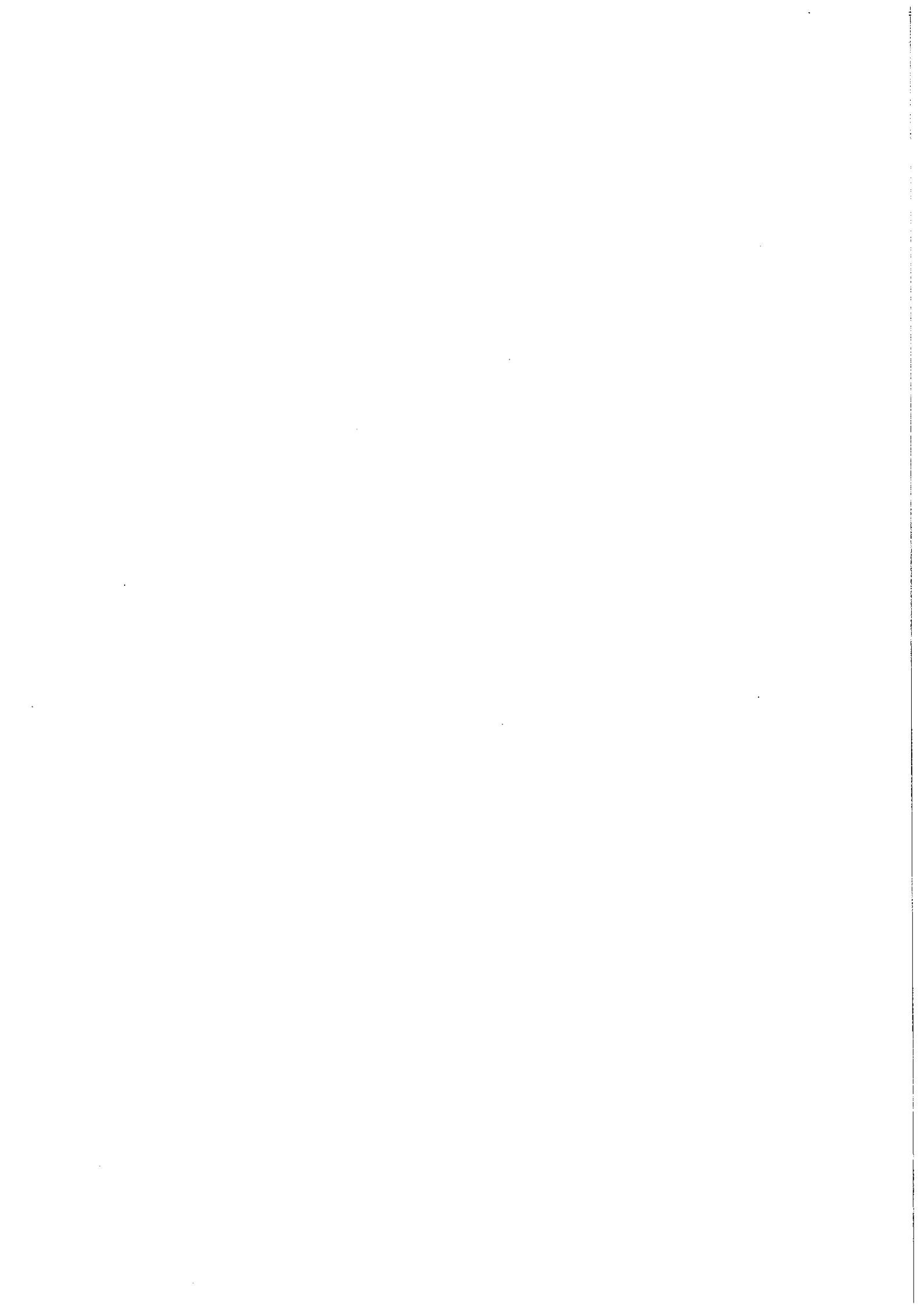
専 門 教 育 科 目

§ 4. 専門教育科目

保育原理	17
教育原理	18
保育者論	19
カリキュラム論	20
保育方法論	21
保育相談支援	22
障害児保育	23・24
社会福祉	25
相談援助	26
子ども家庭福祉	27
子ども家庭支援論	28
家庭支援論	29
社会的養護 I	30
社会的養護内容	31
子どもの保健	32
子どもの保健 II	33・34
子どもの保健 III	35
子どもの食と栄養 A	36

子どもの食と栄養 I B	37
子どもの食と栄養 II	38
乳児保育 I	39・40
乳児保育 II	41・42
教育心理学	43
保育の心理学 (発達)	44
保育の心理学 (学習)	45
教育相談	46
子どもの理解と援助	47
保育・教職実践演習 (幼稚園)	48
保育環境構成技術 (音楽) I	49・50
音楽 II B (ピアノ)	51・52
音楽 II A (ML・合奏)	53・54
音楽表現	55・56
音楽表現の指導法	57・58
声楽 II	59・60
図画工作	61・62
小児体育	63・64
保育内容総論	65・66
保育内容研究	67
健康	68・69
健康 II (指導法)	70
人間関係	71
人間関係の指導法	72
人間関係 (指導法)	73
環境	74
環境の指導法	75
環境 (指導法)	76
言葉	77
言葉の指導法	78
造形表現	79
造形表現の指導法	80・81
保育実習指導 I・保育実習 I	82・83
保育実習指導・保育実習 II	84
保育実習指導・保育実習 III	85
教育実習指導・教育実習	86

§ 1. 教養科目



授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 1単位	担当教員名 佐藤 寛之
キリスト教の精神 I (教養科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 通年	松川 和義 滝口 節子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>聖書よりキリスト教における隣人愛について学び、本学の建学の精神であるキリスト教の「愛と奉仕」の精神を理解する。</p> <p>そして、一人の人間として、保育者として、どのように隣人と生きるのかということ深く考察し理解する。</p>					
授業の概要					
<p>入学式から卒業式までの（一年間に及ぶ）、一連の行事における佐藤学長・松川牧師のお話を通して、一人の人間として、保育者として、目の前の人間とどう向き合い、社会や周囲の人たちに対してどう関わっていくべきかを深く学ぶ。</p> <p>また、聖書やその話を通して、キリスト教において、人間の成り立ちとその使命はどうなっており、その人間がどのように生きているのか、その手本をどこに見出すのか、ということ学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>自分は一人で生きているのではないことを自覚し、身の周りや社会の出来事に関心をもって、日々ニュースを見るとともに、(図書館にある) 保育、福祉、教育等を中心とした雑誌等にも目を通すよう心掛ける。</p>					
授業計画					
第 1 回目： 入学式					
第 2 回目： 修養会（ギテオン聖書贈呈）					
第 3 回目： } 聖書からの学び①（松川牧師の集中講義）					
第 4 回目： }					
第 5 回目： 月例集会（5月）					
第 6 回目： } 聖書からの学び②（松川牧師の集中講義）					
第 7 回目： }					
第 8 回目： 月例集会（5月）					
第 9 回目： 月例集会（7月）					
第 10 回目： 前期終業集会					
第 11 回目： 後期始業集会					
第 12 回目： 月例集会（11月）					
第 13 回目： クリスマス集会					
第 14 回目： 新年集会					
第 15 回目： 卒業式					
テキスト					
ギテオン協会より贈呈される新約聖書、讃美歌集					
参考書・参考資料等					
日本聖書協会旧約新約聖書新共同訳					
学生に対する評価					
参加姿勢・態度（60%）とレポート試験（40%）の総合評価					

授業科目名 教養演習 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 全専任教員
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 通年	

授業の到達目標及びテーマ

- ・ 保育者になるための2年間の学びの見通しと自己の学習課題をもち、学習へのモチベーションを高める。
- ・ 学生生活を送るための基礎力、言語表現スキル、各実習に向かう社会人としてのマナー等の基礎を身につける。

授業の概要

- ・ 保育者養成における「初年次教育」と「実習に向けた準備教育」の充実を図るため、「ゼミ」(少人数の)授業と「全体授業」とを組み合わせで行う。
- ・ ゼミ授業の実施により、きめ細かい学習支援、生活支援、実習支援等を行う。
- ・ ゼミ授業は、全専任教員が担当し、共通のプログラムを実施する。

事前・事後学習の内容

事前にテキストの指定箇所について目を通しておく。また、授業後には、再度同箇所目を通す。

授業計画

第1回目：【全体】 修養会「保育者になるための学び①」

第2回目：【全体】 修養会「保育者になるための学び②」

第3回目：【全体→ゼミ】 自己紹介、「あなたが学ぶ学校とは」「あなたはどんな人ですか」(pp.10～13)

第4回目：【全体】 履修登録 /
キャリアガイダンス①(ライフキャリアプランニングシート「自分自身を振り返る」記入)

第5回目：(ゼミ) 将来の進路、自己管理しよう(pp.14～23)

第6回目：【全体→ゼミ】「授業を受けるマナー、基礎的マナー、情報モラル」教員からの話 ⇒ 各ゼミで(27～32)

第7回目：(ゼミ) 言語表現の学び①(保育者の言葉づかい、敬語表現、話し言葉と書き言葉)(38～39、43)

第8回目：【全体→ゼミ】キャリアガイダンス②(「就職ガイド」配布・説明) ⇒ 各ゼミで(キャリアガイダンスの確認)

第9回目：(ゼミ) 施設見学

第10回目：(ゼミ) 言語表現の学び②(わかりやすい文章の書き方、基礎的な漢字の読み書き)(pp.44～53)

※ 第11回目：【全体→ゼミ】「図書館オリエンテーション」 ⇒ 各自図書館で資料を探し、レポートを作成

第12回目：(ゼミ) 各自レポートを作成・完了し提出

第13回目：(ゼミ) 提出レポート返却(レポート指導) / 保育祭の概要説明他

第14回目：【全体→ゼミ】定期試験オリエンテーション / 実習提出資料の確認、本人修正し、次回提出

第15回目：【全体→ゼミ】前期授業のまとめ ⇒ 各ゼミで 前回授業の提出物確認、前期ゼミの振り返り

(8月末、実習先への提出資料等の確認) 最終確認は実習オリエンテーションで行う

※(第10～12回目について)

全体を大きく2つのグループに分けて、

- 一つのグループは「第10→第11→第12」の順で、
- もう一つのグループは「第11→第12→第10」の順で授業を展開する。

- 第16回目：〔全体→ゼミ〕 諸連絡（後期の予定、秋季特別研修の連絡）／ 自己紹介、お礼状の書き方
- 第17回目：【全体】 秋季特別研修
- 第18回目：〔全体→ゼミ〕 履修カルテ（自己評価）の実施 ⇒ 各ゼミで（履修カルテと今後の学習に向けて）
- 第19回目：【全体】 キャリアガイダンス③ 外部講師
- 第20回目：〔全体→ゼミ〕 「保育祭」の準備・実施に向けての全体連絡 ⇒ 個別に分かれて準備の打ち合わせ
- 第21回目：〔全体→ゼミ〕 「保育者らしさとは」教員からの話 ⇒ 各ゼミでディスカッション（pp.108～110）
- 第22回目：（ゼミ） 「保育祭」の準備活動
- 第23回目：（ゼミ） 「保育祭」の準備活動
- 第24回目：（ゼミ） 「保育祭」の準備活動
- 第25回目 【全体】（附属幼稚園クリスマス会見学）
- 第26回目 （ゼミ） 「保育祭」の準備活動
- 第27回目：【全体】 「保育祭」（地域の子どもたちを迎えて）
- 第28回目：（ゼミ） 「保育祭」の反省会
- 第29回目：【全体】 キャリアガイダンス③（「就職ガイド」持参）／ 定期試験の連絡・注意事項
- 第30回目：（ゼミ） 初年次の振り返り（授業の取り組み、自己診断など）（pp.132～134）

テキスト

谷田貝公昭・大沢裕監修、大沢裕・越智幸一・中島朋紀編著『保育者養成のための初年次教育ワークブック』
一藝社、2018年

参考書・参考資料等

「2019年度 横浜女子短期大学 学生便覧」、「実習ガイド 横浜女子短期大学 2019・2020年度版」
「就職ガイド 2019年度 横浜女子短期大学」他

学生に対する評価

演習・学習活動における積極的・自主的取り組みの度合い、学習目標達成に向けた意欲的努力の度合いを基準に評価を行う。

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名
哲学 (教養科目)	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期： 1学年 前期	富山豊
授業の到達目標及びテーマ 哲学・倫理学の問題に対する議論の仕方を学ぶことで、「ある意見を支持する理由がどれくらい正当な理由になっているか」、「隠れた前提が潜んでいないか」といった粘り強く論理的に物事を考える技術を身に付けてもらう。こうした論理的思考の訓練を通じて、自分が賛成・反対のどちらかを感覚的に決めてしまうのではなく、異なる意見にもそれなりの言い分がないか、寄り添って耳を傾ける姿勢を何よりも養って欲しい。					
授業の概要 友人同士の意見の対立や将来担当する児童同士の採め事、家族内のトラブルなどの身近な出来事から、脳死と臓器移植などの医療倫理、社会の中の差別や偏見、それらに関わる様々な法制度の問題まで、具体的な事例を議題として取り上げて議論する。議論のヒントとして歴史上の哲学者たちの学説も紹介するが、それらを覚えることが目的ではなく、賛成・反対それぞれのメリット・デメリットを論理的に検討する練習を重視する。					
事前・事後学習の内容 特に事前・事後の課題は指定しない。					
授業計画 第 1 回目：イントロダクション 授業の進め方と、大まかな内容について説明する。 第 2 回目：ルールを守る意義 杓子定規にルールを守ることが正しくない場合はないだろうか。 第 3 回目：少数者の権利 みんなの利益のために少数派に我慢を強いるのは正しいだろうか。 第 4 回目：バレない悪事 被害者も気がつかない完全犯罪は、そもそも悪ではないのだろうか。 第 5 回目：個人の自由とお節介 明らかに本人のためにならないことでも、周囲が止めるのは自由の侵害か。 第 6 回目：誠実さの意味 守ることで誰も得をしない状況になってしまったとしても、約束は守るべきか。 第 7 回目：情と正義 家族や親しい友人への情によって判断が左右されるのは、正義に反することだろうか。 第 8 回目：[前半の振り返り] 第 2－7 回の授業について振り返りと小テスト 第 9 回目：差別ってなんだろう 正当な基準で人を「区別」することと不当な「差別」の違いは何か。 第 10 回目：男女差別を考える (1) 日本社会の慣習・法制度に根強く残る性差別について考えてみる。 第 11 回目：男女差別を考える (2) 性差別に対抗する様々な制度のメリットとデメリットを考えてみる。 第 12 回目：差別問題の多様性 少数者や弱者への差別にはどのようなものがあるだろうか。 第 13 回目：法と国家 これまで議論して来た問題を、法制度の側面から考えてみる。 第 14 回目：命と倫理 これまでに扱えなかった命と医療をめぐる倫理的問題について取り上げる。 第 15 回目：[後半の振り返り] 第 9－14 回の授業についての振り返りと小テスト					
テキスト 指定しない。					
参考書・参考資料等 授業全体に深く関わり推薦できるものとして、 ジェームズ・レイチェルズ 他 著『新版 現実をみつめる道徳哲学』 晃洋書房 他、各回の進度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。					
学生に対する評価 授業への参加度および授業内提出物 (30%) と授業内テスト (70%) による総合評価。					

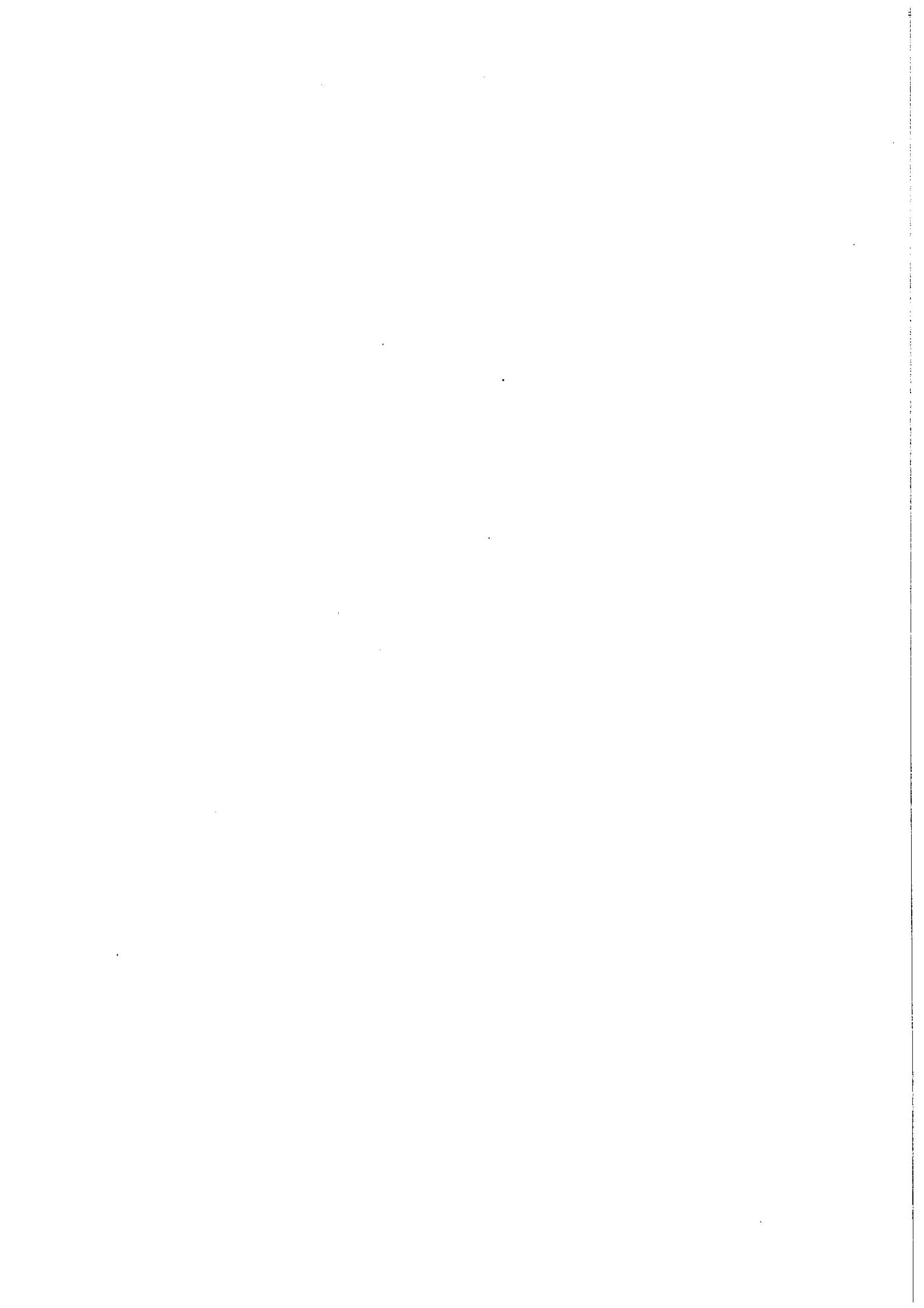
授業科目名 日本国憲法 (教養科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名 飯島 倫子
	選択 必修	必修	選択 必修	開講期：1学年 前期	
授業の到達目標及びテーマ					
<p>日本国憲法の基本理念を理解し、実際の社会生活において憲法がどのように関わっているのかを理解する。様々な社会問題が憲法上どのような点（条文、趣旨、判例等）において問題になるのかを理解する。習得した知識を基にして、様々な社会問題について自分で考える力を養うことを到達目標とする。</p>					
授業の概要					
<p>まず、各回のテーマに関連する憲法の条文を確認した上で、その意味するところを解説する。次に、各テーマについて問題になる事例（主に判例）を挙げて、判例等がどのような見解を示しているのかを紹介し、どのように考えていったらよいのかを検討する。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>テキストの該当箇所をキーワードを確認しながら、一読して授業に臨むことが望ましい。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：憲法入門 ガイダンス／憲法の基本原理 第2回目：人権享有主体性 子どもの人権,外国人の人権 第3回目：新しい人権 幸福追求権,プライバシー権,自己決定権,環境権 第4回目：法の下での平等 差別と区別,平等原則 第5回目：精神的自由 信教の自由,表現の自由 第6回目：経済的自由 職業選択の自由 第7回目：社会権 生存権,教育を受ける権利,労働基本権 第8回目：参政権 選挙権 第9回目：国民の義務／平和主義 教育の義務,勤労の義務,納税の義務 / 憲法九条の解釈 第10回目：三権分立／立法 権力分立の意義と日本における権力分立 / 国会 第11回目：行政 内閣 第12回目：司法 司法権の独立,裁判を受ける権利,違憲審査制の内容 第13回目：天皇／財政 天皇 / 財政 第14回目：地方自治 地方自治の本旨(住民自治,団体自治),住民投票制 第15回目：憲法改正 憲法改正の手續・限界</p>					
定期試験					
テキスト					
<p>初宿正典、大沢秀介、高橋正俊、常本照樹、高井裕之編著『目で見える憲法 第5版』有斐閣</p>					
参考書・参考資料等					
<p>芦部信喜 高橋和之補訂『憲法』（第7版）岩波書店 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ』『憲法判例百選Ⅱ』（第6版）有斐閣</p>					
学生に対する評価					
<p>授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（20%）、筆記試験（80%）の総合評価。</p>					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名
心理学 (教養科目)	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期：1学年 前期	佐藤寛之
授業の到達目標及びテーマ					
<p>認知過程、人格、社会的影響過程、対人関係といった心理学の研究の枠組みに沿い、人間の心理過程、基礎的な法則性について理解する。特に、個人内に生起する過程としての、感覚、知覚、記憶、思考、感情等の概念によって記述される「認知」（知ること）と、個人間に生起する過程としての「対人行動」にかんする知見を中心に学び、さらに、それらの相互関係についての理解を形成する。そして、「自己」にかんする認知の重要性、「パーソナリティ」とは何かについて基本的な理解を形成する。</p>					
授業の概要					
<p>本講義では、現代の心理学によってみいだされた心理学的知見を紹介していく。認知過程、人格、社会的影響過程、対人関係といった心理学の研究の枠組みに沿い、人間の心理過程、法則性を解説。特に、個人内に生起する過程としての、感覚、知覚、記憶、思考、感情等の概念によって記述される「認知」（知ること）と、個人間に生起する過程としての「対人行動」にかんする知見を中心に紹介し、さらに、それらの相互関係について説明する。そして、「自己」にかんする認知の重要性、「パーソナリティ」とは何かについて解説する。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>私たちが、普段していること、「見る」、「聞く」、「思い出す」、「考える」、「決断する」、「好きになる・仲良くなる」こと、人との違い等がどうなっているのかについて考えてみるなり、自分なりに調べ授業に臨み、受講後にその内容に基づき、自身の体験と照らし合わせて、事前の考え等について再考をしてみる。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：心理学入門 ガイダンス、心とは何か、心理学が扱う問題と方法 第2回目：感覚と知覚① 知覚の恒常性、プルズウィックの確率論的機能論、錯視現象の意味 第3回目：感覚と知覚② 知覚過程；知覚のボトムアップ過程とトップダウン過程の相互的循環 第4回目：感覚と知覚③ 感覚器官と適刺激、絶対閾と弁別閾、明るさの対比現象、精神物理学的法則 第5回目：記憶過程① 記憶の機能的区分（感覚記憶、短期記憶、長期記憶）と内容的区分 第6回目：記憶過程② 長期記憶とスキーマ概念；認知の自動的ガイドと無意識 第7回目：記憶過程③ 想起の構成的過程～再構成される記憶、虚偽記憶、下意識と記憶 第8回目：パーソナリティ① 個人差の測定；Y-G性格検査の実施と自己分析 第9回目：パーソナリティ② 簡易式エゴグラム・テストの実施と自己分析、2つの検査の違い 第10回目：パーソナリティ③ パーソナリティの概念；気質、性格とパーソナリティの関係 第11回目：意志決定における合理性① 判断・意志決定の合理性と心的方略、ヒューリスティックス 第12回目：意志決定における合理性② 確率判断におけるヒューリスティックスと認知的錯覚の例 第13回目：意志決定における合理性③ 意志決定と態度、態度の一貫性、認知的不協和の低減 第14回目：親密化過程① 対人関係の進展、対人関係の機能、対人魅力の規定因 第15回目：親密化過程② 自己開示と親密化過程、LETS-2の実施、自己分析、リーの恋愛の類型理論</p>					
テキスト					
指定しない。別途説明用資料を授業内で配布。					
参考書・参考資料等					
<p>横浜国立大学『情報と人間』プロジェクトチーム 編著『情報社会と次世代ライフスタイル』電通 長谷川寿一 他 著『はじめて出会う心理学』有斐閣アルマ 無藤隆 他 著『心理学』New Liberal Arts Selection 有斐閣</p>					
学生に対する評価					
課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（33%）とレポート試験（67%）の総合評価					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名
生物学 (教養科目)	選択 必修	選択 必修	選択 必修	開講期：1学年 後期	梅原正美
授業の到達目標及びテーマ 自然を通して生物の生活を知り、自然環境の大切さや命の尊さを理解する。季節に合った植物の栽培を通して、食に対する意識を深める。また、季節の自然物を利用して、遊びの楽しさを知り、創造力を培う。					
授業の概要 季節に合わせた身近な動・植物を教材に取り入れ、採取したり、飼育したり、料理したりと自然に対する興味関心を深め、生物の基礎知識を習得する。さらに、習得した知識を利用して、遊びの創造力を高める。					
事前・事後学習の内容 五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）を研ぎ澄まして、四季の変化による自然環境の移り変わりを自分なりに感じ取り、気づいたことを調べてみる。自然物を使った遊びを試みる。					
授業計画 第 1 回目：ガイダンス 生物について幅広く知る 第 2 回目：身近な野菜の種類や特徴を知る 第 3 回目：3歳未満児が興味を持つ、身近な四季別の昆虫における生態や飼育方法について学ぶ 第 4 回目：3歳以上児が興味を持つ、身近な四季別の昆虫における生態や飼育方法について学ぶ 第 5 回目：身近な危険な動・植物について学ぶ 第 6 回目：どんぐりの種類を知り、食すまでを学ぶ 第 7 回目：どんぐり の大きさや形の違いを利用して、コマを制作して楽しむ 第 8 回目：イチョウの葉を使った造形やイチョウの実を採取し食すまでを学ぶ 第 9 回目：さつま芋、落花生の生態を知り、栽培から食すまでを学ぶ 第 10 回目：さつま芋や落花生を使ったお菓子作り、発表をする 第 11 回目：松ぼっくりを利用したクリスマス用の置物を作り、発表をする 第 12 回目：春の七草を知り、生態や特徴、食した時の影響を学ぶ 第 13 回目：身近な海洋生物について学ぶ 第 14 回目：身近な自然物を利用した遊びを研究し、発表をする 第 15 回目：保育における「生物」に触れる重要性についてのまとめ					
テキスト 指定しない。					
参考書・参考資料等 鈴木 孝仁 監修 『生物図録（視覚でとらえるフォトサイエンス）』 数研出版 『昆虫（新・ポケット版 学研の図鑑）』 学研教育出版					
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(30%)と レポート試験(70%)の総合評価					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：2単位	担当教員名
情報機器の操作 (教養科目)	選択 必修	必修	選択 必修	開講期：1学年 前期 又は 後期	小野目如快
授業の到達目標及びテーマ					
<p>コンピュータの基本操作を十分理解し、保育現場での様々な作業に応用できるようになること。特に、Officeソフトを用いた以下の操作ができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Wordを用いて各種文書やグラフィクスが活用できる ・Excelを用いて図表の作成等ができる ・PowerPointを用いた発表資料の作成ができる 					
授業の概要					
<p>昨今のパソコンの低価格化とインターネットの発達により、様々な場所でパソコンの操作を求められることが多くなっている。しかし、パソコンの理解は実際に機器に触れての操作が必須である。本講座では、演習をとおして、Windowsの基本操作や、ワープロ、表計算の利用方法等を学習する。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>コンピュータ教室は授業時間以外は、自由に利用可能なので、毎回課される課題以外にも、積極的にコンピュータ室を利用し、パソコンに触れる機会を作ること。特に、タイピングが苦手な人は、できるだけ多くの文章を入力練習することで、タイピング速度を速めることが出来る。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：Windowsの基本操作 ガイダンス、電源のON,OFF、各種アプリの起動方法 第2回目：ファイル操作 エクスプローラによるファイル操作方法 第3回目：ワープロ① Wordの基本編集 第4回目：ワープロ② Wordのワープロ専用機能 第5回目：ワープロ③ Wordによる表と罫線 第6回目：ワープロ④ Wordによる地図作り 第7回目：ワープロ⑤ Wordでのオブジェクト処理 第8回目：プレゼンテーション PowerPointを利用した紙芝居作成 第9回目：表計算① Excelの基本入力と編集 第10回目：表計算② Excelによるグラフ作成 第11回目：表計算③ Excelによるデータベース処理 第12回目：表計算④ Excelでの日時処理、シリアル値、条件付き書式 第13回目：総合演習 Office検定 第14回目：画像処理① PhotoShopの基本操作、レイヤー処理 第15回目：画像処理② PhotoShopによる画像加工</p>					
テキスト					
小野目如快 著『Office2013で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版					
参考書・参考資料等					
必要により、別途説明用資料を授業内で配布。					
学生に対する評価					
毎回課題を課す (100%)					

§ 2. 外 国 語



授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	担当教員名
英語 I (外国語)	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 通年	北本洋子

授業の到達目標及びテーマ

保育の現場での子どもへの言葉かけや保護者との会話、情報伝達に役立つ英語を身につける。

授業の概要

保育園の生活を題材にしたストーリーを読み、読解のポイントを確認しながら内容を理解する。
保育現場に密着した語彙を学ぶ。語句の並べ替えや穴埋めで口語文を作り、子どもや保護者との対話練習をする。
英語を聞いて課題を解くリスニング練習や基本的な文法の復習をおこなう。

事前・事後学習の内容

各課のストーリーを下読みし、読解のポイントの解答を日本語で書いておく。
Words & Idioms で扱う語句の意味を、教科書巻末の Words & Idioms INDEX で調べ、書いておく。

授業計画

- 第 1 回目：ガイダンス 授業の進め方、自己紹介
- 第 2 回目：L1 新学期 初対面のあいさつ、園の人々と設備
- 第 3 回目：L2 登園 登園時の会話、家族、人物描写
- 第 4 回目：L3 室内遊び 室内遊びと玩具、欠席の電話連絡
- 第 5 回目：L4 砂遊び・園庭 外遊びの指導、園庭の遊具と身近な植物
- 第 6 回目：L5 けんか ゲームの指導、様々な行為とけんか
- 第 7 回目：文法のおさらい 1 (1) 一般動詞
- 第 8 回目：文法のおさらい 1 (2) be 動詞
- 第 9 回目：L6 昼食 昼食時の指導と会話、食材や食器
- 第 10 回目：L7 着替え 衣類や持ち物についての連絡
- 第 11 回目：L8 昼寝 トイレの指導、衣類と持ち物
- 第 12 回目：L9 病気 病気への対処、身体各部の名称
- 第 13 回目：L10 緊急連絡 保護者への緊急連絡、気持ちと様子
- 第 14 回目：文法のおさらい 2 疑問文・否定文・命令文
- 第 15 回目：復習とまとめ
- 第 16 回目：L11 行事の案内 行事の案内状、電話連絡
- 第 17 回目：L12 運動会 さまざまな運動
- 第 18 回目：L13 散歩 1 (1) 付近の建物や施設
- 第 19 回目：L13 散歩 1 (2) 場所の表現
- 第 20 回目：L14 散歩 2 道案内
- 第 21 回目：L15 お絵かき 色々な形、作業の指示
- 第 22 回目：文法のおさらい 3 (1) 前置詞
- 第 23 回目：文法のおさらい 3 (2) 前置詞
- 第 24 回目：L16 工作 文房具、作業の指示
- 第 25 回目：L17 降園 降園時の会話、クラスからのお知らせ
- 第 26 回目：L18 連絡帳 連絡帳の記入、乳児室の物品
- 第 27 回目：L19 家庭調査書 家庭調査書の書式、園行事
- 第 28 回目：L20 園だより 年間行事と園だよりの書き方
- 第 29 回目：文法のおさらい 4 疑問詞を使った疑問文

第30回目：復習とまとめ

テキスト

森田和子 著『新・保育の英語』三修社

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に配付する。

学生に対する評価

教課ごとに行う「振り返りテスト」の成績 80%、受講態度（授業や予習・復習への取り組み）20%

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	担当教員名
英語Ⅱ (外国語)	選択		選択	開講期：2学年 通年	北本洋子

授業の到達目標及びテーマ
海外旅行で役立つ英語表現を身につける

授業の概要

海外旅行に必要な語彙を学ぶ。
海外旅行でしばしば出会う表現を学び、発音練習、会話練習をおこなう。
旅行中によく見かけるパンフレットや書類などから必要な情報を読み取る練習をする。
ビデオ教材も併用し、旅の雰囲気を感じながら、聞き取りや会話の練習をする。

事前・事後学習の内容

Warm-up と Vocabulary で扱う単語の意味を調べておく。

授業計画

- 第 1 回目：ガイドダンス、旅の準備をしよう
- 第 2 回目：機内にて
- 第 3 回目：(ビデオ) 飛行機に搭乗する
- 第 4 回目：(ビデオ) 機内サービスを受ける
- 第 5 回目：到着と入国審査
- 第 6 回目：(ビデオ) 入国手続きをする
- 第 7 回目：(ビデオ) 税関を通る
- 第 8 回目：両替をしよう
- 第 9 回目：ホテルにチェックインしよう
- 第 10 回目：ホテル内の施設を利用しよう
- 第 11 回目：食事をしよう
- 第 12 回目：(ビデオ) ホテルで朝食をとる
- 第 13 回目：(ビデオ) ファーストフードの店で昼食をとる
- 第 14 回目：(ビデオ) レストランで夕食をとる
- 第 15 回目：まとめ
- 第 16 回目：観光に行こう
- 第 17 回目：会話を楽しもう
- 第 18 回目：ショッピングをしよう
- 第 19 回目：(ビデオ) デパートで服を買う
- 第 20 回目：(ビデオ) お土産を買う
- 第 21 回目：体調を崩してしまったら
- 第 22 回目：街を歩いてみよう
- 第 23 回目：(ビデオ) 観光案内所を訪れる
- 第 24 回目：(ビデオ) バスに乗る
- 第 25 回目：(ビデオ) タクシーに乗る
- 第 26 回目：(ビデオ) 道を尋ねる
- 第 27 回目：ホテルをチェックアウトしよう
- 第 28 回目：帰途にて
- 第 29 回目：旅について話そう
- 第 30 回目：まとめ

テキスト

Diane H. Nagatomo、村瀬文子 著

『*Simply Traveling—Communication Anytime, Anywhere!*

(場面別フレーズで学ぶ はじめての海外英会話)』 金星堂

参考書・参考資料等

必要に応じて授業時に配布する。

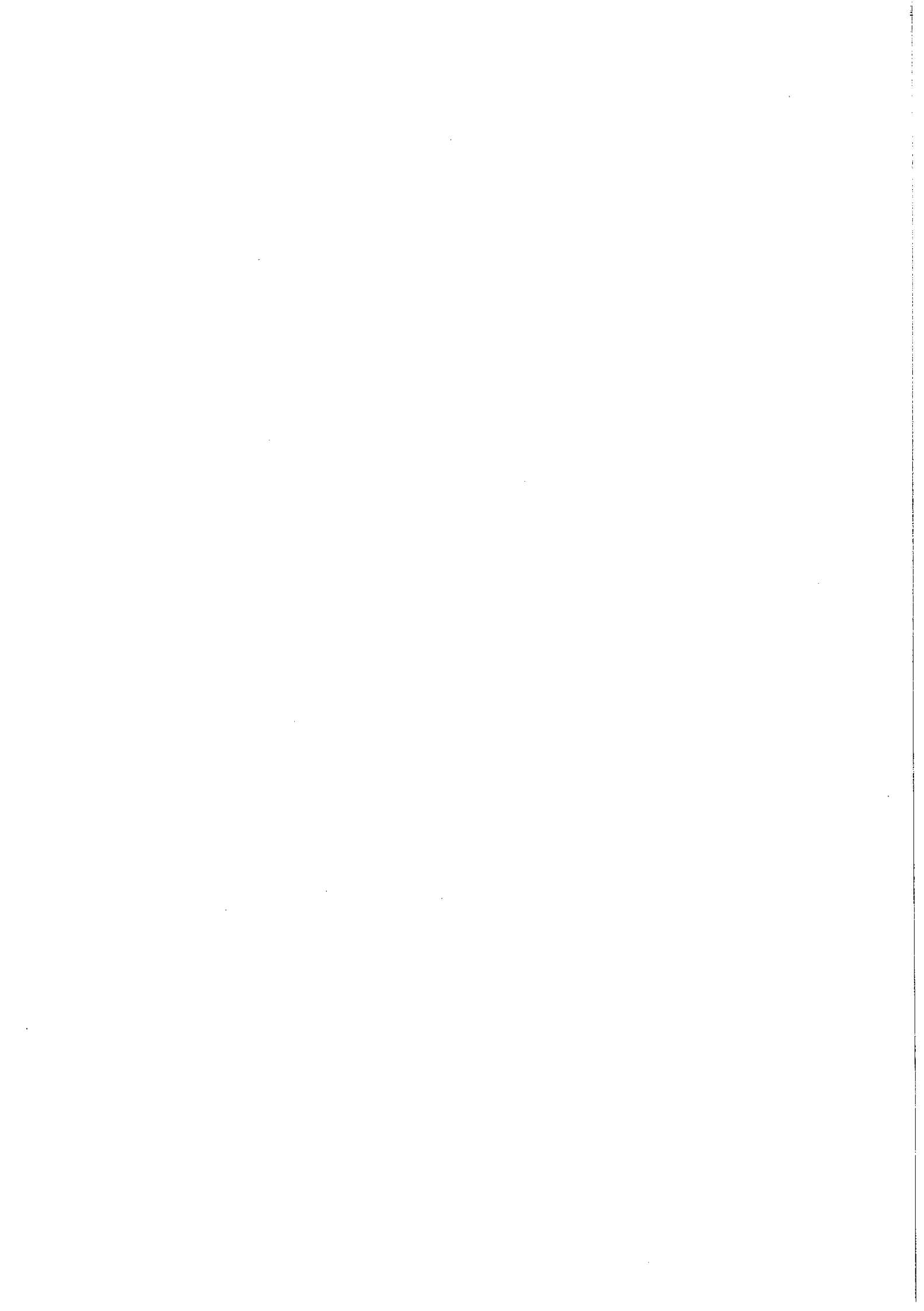
学生に対する評価

授業内の活動 (70%)、「おさらいミニクイズ」 (30%)。

「おさらいミニクイズ」は、各課の内容が身についたどうかを自己チェックするために、口頭または筆記でおこなう。

この授業では、積極的に声を出し練習することが求められる。

§ 3. 保 健 体 育



授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：実技 単位数：1単位	担当教員名
体育実技 (保健体育)	必修	必修	必修	開講期：1学年 通年	堀内弓子 佐久間博子

授業の到達目標及びテーマ

「体育」は、運動と保健・衛生の知識と実践を通して、人間性の発展を企図する教科である。
本授業においては、身体活動の価値を認識し、生涯にわたって体育・スポーツを続けていく素地を養うことを目標とする。

さらに、保育の対象となる子どもの発育発達に必要な基本的な運動の種類やその発達過程を自らの身体活動を通じて理解し、それを展開するための知識や技術を習得することを目指す。

授業の概要

<前期>

体 操・・・自分の身体への「気づき」から、自分の意志通りに、のびのびと正確に動く「からだづくり」「うごきづくり」を目指す。

ダンス・・・音楽に合わせて、イメージを働かせ、豊かな身体表現を身につける。

<後期>

球技スポーツ・・・「サッカー」を通してボールを扱う技術を養うとともに、協力、責任、公正さといった態度を身につける。また、ゲームの進行・運営を自主的に行えるようにする。

大型遊具・・・マット、跳び箱、平均台、巧技台などの用具の特性を生かして、「歩く」「走る」「跳ぶ」「支える」などの基本的な運動を実践し、安全に行う方法を学ぶ。

縄・・・縄を利用した運動を楽しむとともに、自らの体力づくりに役立てる。

体操・・・子どもの体操の実践方法を学ぶ。

事前・事後学習の内容

1年次教育実習において、運動会の準備段階の子どもたちや保育者の様子をよく観察しておくこと。前期に学んだ自分自身の健康を生活の中で維持増進していくために学んだ「体育講義」の内容を復習しておくこと。

授業計画

第1回目：前期授業のオリエンテーション

体力測定Ⅰ 自分の体力の現状を知り、劣っている点を見出し、改善する方法を考える。

第2回目：体操・リズム運動① 正しい姿勢、動きの基本動作を学ぶ。

第3回目：体操・リズム運動② リズムに合わせてからだを動かす楽しさを味わう。

第4回目：体操・リズム運動③ 体幹を大きく使って、大きくのびのびと動く。

第5回目：体操・リズム運動④ 2年生との合同練習。他者の動きを観察することで自らの動きを正す。

第6回目：体操・リズム運動⑤ 音楽のリズムを感じながら楽しくからだを動かす。

第7回目：子どもとの関わり方 だっこやおんぶの安全な方法、スキップ、ギャロップ等の誘導の仕方を学ぶ。

第8回目：デモンストレーション 日頃の授業の成果の発表。実際に、運動を通して子どもとコミュニケーションをはかり、発育発達の状況や、子どもが安全に、かつ、楽しく取り組める運動についての理解を深める。

第9回目：発表の振り返り 自己の動きを振り返り、子どもとの関わりにおける反省、課題を挙げる。

第10回目：伝承遊びを楽しむ。受け継がれる運動あそびの楽しさを知り、体験する。

第11回目：遊具を使って楽しむ運動遊び

第12回目：基本体操① ラジオ体操第一。身体各部位と運動方法を理解する。

第13回目：基本体操② グループ練習を行うことで、正しい動きを習得する。

第14回目：基本体操③ 基本体操で学んできたことの総まとめと評価。

第15回目：体力測定Ⅱ 3か月間の変化を観察し、自己評価を行う。

第16回目：後期授業のオリエンテーション、体育ノートの作成説明。くまさん体操、大型遊具の設定と遊び

第17回目：運動会のリハーサル① 運動会の意義・ねらいを理解する。

- 第18回目：運動会のリハーサル② 当日の流れを理解する。
- 第19回目：運動会 運動を通して、異学年や教職員とかかわる楽しさを味わう。
- 第20回目：レポート課題 図書館を利用して自分にとって興味のある「子どもの運動」について調べる。
- 第21回目：サッカー① 基本技能を習得する。
- 第22回目：サッカー② ゲームの進行・運営の方法を学ぶ。
- 第23回目：サッカー③ ゲームの分析～作戦を立てる。
- 第24回目：大型遊具（マット、平均台）の設定と実践。くまさん体操 レポートの提出
- 第25回目：大型遊具（跳び箱）の設定と実践。くまさん体操。グループメンバーのレポートまとめ
- 第26回目：大型遊具による環境設定。くまさん体操 グループの環境設定の検討
- 第27回目：くまさん体操 縄あそびと体力づくり グループの環境設定と動作の検討
- 第28回目：大型遊具あそびの指導と援助の進行確認と実践準備し、指導案を作成 くまさん体操
- 第29回目：大型遊具あそびの指導と援助の実践（対象：5歳児、4歳児）
- 第30回目：指導と援助の振り返り くまさん体操と縄テスト、体育ノート提出

テキスト

橋本妙子・堀内弓子著『こどもの運動あそび』啓明出版

参考書・参考資料等

授業内で随時、紹介する。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（50%）と運動技術課題やレポート課題等の提出物（50%）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 1単位	担当教員名
体育講義 (保健体育)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	堀内弓子 佐久間博子
授業の到達目標及びテーマ					
自らの健康度や生活習慣の改善を目標とする。また、身体の仕組みや機能を知り、健康維持増進のための運動やスポーツを実践できる知識を習得する。					
授業の概要					
健康の維持増進に必要な知識の習得と日常生活における実践力を養う。さらに、身体の仕組みとその働きおよびトレーニング方法について生理学的な側面から学修する。					
事前・事後学習の内容					
現在の自らの健康管理や日々の身体活動や運動実践を通して理解した自分の体についての弱点を考え、今後どのようなことを生活の中で配慮していけば改善できるかを考えておくこと。					
授業計画					
第 1 回目：健康になるためのライフスタイル 自らの健康をコントロールし、改善していく方法を学ぶ 「健康度・生活習慣診断検査（1回目）」の実施（アルバイトの有無についての調査を含む）					
第 2 回目：運動と食事・からだと飲酒 ・適切な食生活の習慣やアルコールによる健康への悪影響を知る					
第 3 回目：からだのたばこ・運動と休養・健康を脅かすものから身を守る ・たばこの急性と慢性の影響を学ぶ。積極的休養となる運動を知る。					
第 4 回目：薬害・感染症・アレルギー・環境に優しいライフスタイル（小レポート提出） ・健康を脅かすものから身を守るための知識を学ぶ。自分のライフスタイルを見直す。					
第 5 回目：生活習慣病や運動不足がからだに及ぼす影響 運動習慣と高血圧・2型糖尿病・メタボリックシンドロームの関係を学ぶ					
第 6 回目：三大死因（心疾患・脳血管障害・悪性新生物）と運動習慣 健康に生きるために必要な運動の習慣について学ぶ					
第 7 回目：健康づくりのための身体活動基準および運動指針 基準や指針やメッツ表を参考に自分の運動プログラムをつくる					
第 8 回目：ここまでの学びをまとめる（テストの実施） 「健康度・生活習慣診断検査（2回目）」の実施					
第 9 回目：骨の仕組みとその働き ・からだの主な骨の仕組みを理解し、その働きについて学習する。					
第 10 回目：骨格筋の仕組みとその働き ・からだの主な骨格筋の役割とメカニズムを理解する。					
第 11 回目：からだのセルフチェック ・簡単な動作チェックにより、自分のからだの機能を評価して健康づくりに役立てる。					
第 12 回目：「体力」を考える ・生命を維持していくからだの防衛能力と、積極的に仕事をしていくからだの行動力を学ぶ。					
第 13 回目：運動がからだどころに及ぼす影響 ・運動によっておこるからだのメカニズムを理解する。					
第 14 回目：けがの予防と応急処置 ・適切な応急処置（RICE 処置、三角巾の使用法）の理解と実施。					
第 15 回目：トレーニング効果を引き出すための7つの法則 ・運動を安全に、かつ効果的に実施するために必要な知識を習得する。 まとめのテスト					

テキスト

なし。説明用参考資料を授業内で配布。

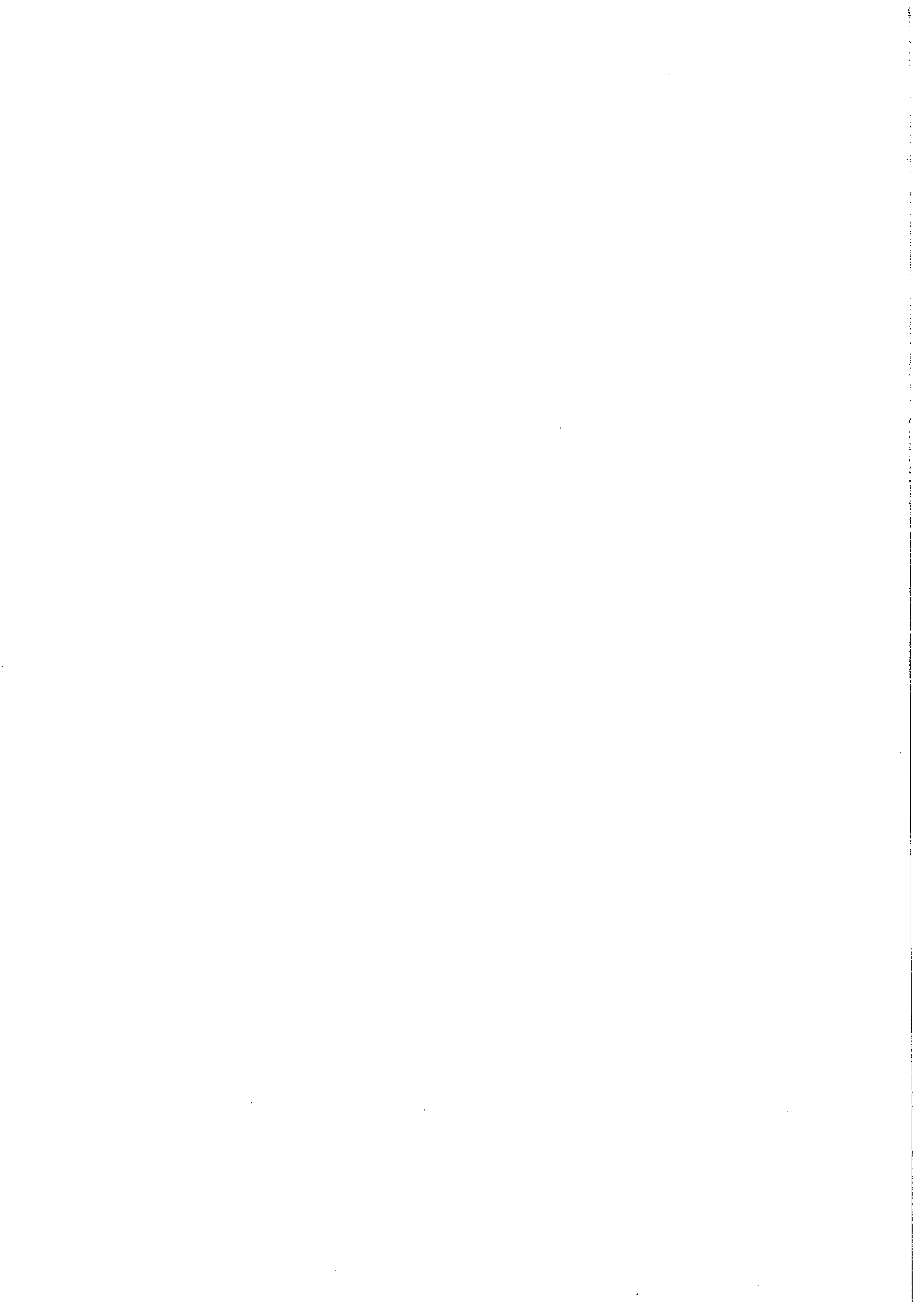
参考書・参考資料等

授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（30%）とレポート試験（70%）の総合評価

§ 4. 專門教育科目



授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名
保育原理 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	二階堂邦子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>幼児教育の根幹は、子どもの生涯にわたる人格形成の基礎を育て、心身の発達を促すことである、この科目は、保育に関する最も基本的な考え方を学ぶ科目である。そのために現在の保育の現状や制度、保育の歴史を知り、保育の主体は子どもであることを理解して、保育のねらい、内容の保育計画の道筋を探究し、保育の原理を理解する。</p>					
授業の概要					
<p>保育の根本は“子どもありき”です。子どもがおかれている環境から、未来に生きる子どもたちに私は何ができるか、学んでいきます。その根底は本学創立者平野恒の保育理念を通して、諸外国、日本の保育思想を学ぶと共に、子どもとかわる専門職であるという自立を持ち、保育の心を学びます。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>保育の専門職につくあなた方は、第一に子どもを知ることです。観察することです。第二に日本社会の保育の現状を知ることです。第三に子どもをとりまく環境の中で私は保育者として何ができるかを考えることです。</p>					
授業計画					
第 1 回目：保育の理念と意識、福祉としての保育					
第 2 回目：保育制度史					
第 3 回目：戦前、戦後の歴史					
第 4 回目：平野恒にみる保育理念					
第 5 回目：諸外国の保育思想					
第 6 回目：日本の保育思想と歴史					
第 7 回目：子どもをとりまく環境、現状					
第 8 回目：子ども理解					
第 9 回目：保護者支援、地域支援					
第 10 回目：幼稚園・保育所・幼保連携型こども園					
第 11 回目：幼稚園教育要領、保育所保育指針・幼保連携型こども園 教育・保育要領					
第 12 回目：保育の目標					
第 13 回目：保育の特性					
第 14 回目：保育の内容					
第 15 回目：保育者の役割					
定期試験					
テキスト					
『誇りある道ひとすじに』（平野恒の保育理念とその軌跡）横浜女子短期大学					
参考書・参考資料等					
保育用語辞典『子どもと保育をみつめるキーワード』ミネルヴァ書房					
学生に対する評価					
授業学習に対して取り組む姿勢（30%） 試験（70%）の総合評価					

授業科目名 教育原理 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名 久保田 力 岡本 眞幸
	選択	必修	必修	開講期：1学年後期	

授業の到達目標・テーマ

本学卒業後、幼稚園教諭や保育士の職に就くことを本気で志望している学生に対して、乳幼児や保護者や同僚保育者、あるいは、地域社会の人々と、協働的実践活動を展開する上で必要不可欠な基礎的・基本的知識や教養を修得させる。理論系科目として、具体的で個別的な保育技術論ではなく、それらの背景となる理念・思想・法的根拠などを広く学ばせる。

授業の概要

授業の到達目標やテーマを効率的に達成するため、「子ども・子育て」感の変遷を追いながら、それが現在社会の中でどのように具現化されているかを、関連諸法規・『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』等をわかりやすく解説する。また、保育・幼児教育に関する現代的諸課題を紹介し、それらに対する考察視点を提案する。

事前・事後学習の内容

- ①就学前後の子どもたちに関する諸問題に幅広い関心を持ち、新聞記事などから情報を収集する
- ②毎時間の授業を必ずふり返り、要点を文章化しておく
- ③別途公開される過去問情報を活用し、授業内容の理解を深めておく

授業計画

- 第1回：当該授業の運営方法（成績評価方法も含む）・受講生と教員とのラポール形成など
- 第2回：学校教育制度①（学校としての幼稚園）
- 第3回：学校教育制度②（保育所と認定こども園）
- 第4回：日本国憲法①（基本的人権の尊重・法の下での平等）
- 第5回：ここまでの授業内容に関する補足説明と質疑応答および学習習熟度確認のための形成的評価Ⅰ
- 第6回：日本国憲法②（生存権・受教育権・義務教育）
- 第7回：幼児教育思想①（開発主義と注入主義）
- 第8回：幼児教育思想②（消極教育論・自然主義教育論・児童中心主義・生涯学習論）
- 第9回：幼児教育思想③（精神白紙説・国家主義的教育論・社会主義的教育論）
- 第10回：ここまでの授業内容に関する補足説明と質疑応答および学習習熟度確認のための形成的評価Ⅱ
- 第11回：教育基本法①（教育の目的・教育の機会均等・学校の公的性質）
- 第12回：教育基本法②（父母の第一義的教育責任・乳幼児期教育・教育の政治的／宗教的中立性）
- 第13回：現代就学前教育問題研究①（家庭教育力の低下・子育て支援・児童虐待）
- 第14回：現代就学前教育問題研究②（特別支援保育・インクルーシブ教育・異文化理解教育）
- 第15回：全授業内容に関する補足説明と質疑応答および学習習熟度最終確認のための総括的評価

テキスト

特定の文献をテキスト指定することはしない。講義に必要な資料は、プリントやスライドやブログ等を用いて、随時、配布または公開する

参考文献・参考資料など

現代の幼児教育・保育・子育て等に関する諸問題をリアルタイムで議論するために、新聞・雑誌・インターネット上の記事を活用する。また、過去の試験問題に関する情報は、下記URLのブログにて行う
<http://blog.ne.jp/kubotagumi2012/>

成績評価の方法

形成的評価（1・2）および総括的評価、計三回の試験の合計得点（100点満点）に基いて成績を評価する。試験は、客観的問題（適語補充など）を基本とし、適宜、小論文を加えることもある。また、600字のミニレポート（自由提出）も成績評価の対象となる

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名
保育者論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 2学年 前期	本田幸
授業の到達目標及びテーマ					
<p>現在、保育者に求められる役割は、子どもの育ちを支える、保護者の育児を支援する等、多様化しています。なぜ、自分は保育者という職業を目指し日々学んでいるのか、保育者となるためにどのような資質や能力が求められるのか、自分が目指す保育者像はどのようなものかについて考え、自身の保育観、保育者像を創り上げていくことを目標とします。</p>					
授業の概要					
<p>保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけについて学びます。保育者の専門性について考察し、学びます。保育者の協働、保育者の専門職的成長について学びます。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>1 学年で学んだ保育原理、保育内容総論、保育課程論、児童家庭福祉、教育実習指導、保育実習指導 I などの学習内容をしっかり復習し、その上で学びを深めていきましょう。さらに、実習や保育現場で今までに出会った保育者の姿や保育実践の事例などを振り返り、自分はどのような保育がしたいか、どのような保育者を目指したいのかについて考えてみて下さい。</p>					
授業計画					
<p>第 1 回目：オリエンテーション ー授業の目的、概要の説明 第 2 回目：保育者の資格と責務 ー保育者になるということ 第 3 回目：保育者の役割、保育者の資質と能力 第 4 回目：保育者の倫理、 第 5 回目：魅力的な保育者とは、理想とする保育者とは ー倉橋惣三の保育論、保育観を学ぶ 第 6 回目：保育者の専門性：子どもをわかるということ 第 7 回目：保育者の専門性：子どもが育つということ 第 8 回目：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 第 9 回目：保護者および地域社会との協働①ー保護者や家庭と一緒に歩む仕事 第 10 回目：保護者および地域社会との協働②ー保護者支援の基本 第 11 回目：保護者および地域社会との協働③ー地域における子育て支援 第 12 回目：学び合う保育者①保育者の専門性と省察 第 13 回目：学び合う保育者②「語り合い」・「学び合いが生み出すもの」 第 14 回目：保育者の成長 第 15 回目：保育者の専門性って何だろうーまとめにかえて</p>					
定期試験					
テキスト					
<p>汐見稔幸・大豆生田啓友編 『新しい保育講座2 保育者論』 ミネルヴァ書房</p>					
参考書・参考資料等					
<p>倉橋惣三著『育ての心(上)(下)』フレーベル館</p>					
学生に対する評価					
<p>授業に関して積極的に取り組む態度・授業後のまとめ(30%) レポート課題(30%) 筆記試験(40%) の総合評価 60 点以上を合格とする</p>					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名
カリキュラム論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	平澤 順子
授業の到達目標及びテーマ					
1) 保育課程・教育課程の意義と内容について理解する 2) 指導計画の作成が出来るようになる					
授業の概要					
保育園や幼稚園にある、入園から終了までの保育の全体的な計画および教育課程の意義と内容などについて理解を深めるとともに、それに基づく指導計画の重要性についても学び、それらを通して就学前の生活や学びが就学後に関連性があることを知る。					
事前・事後学習の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領を熟読しておく。特に、保育所保育指針では、乳児と幼児の保育内容とねらいの違いについても目を通しておく。 ・ 現代社会における子どもを取り巻く環境（自然、情報など）に目を向けていく 					
授業計画					
第1回：教育課程・保育課程で学ぶこと					
第2回：保育の基本（1）：乳幼児期にふさわしい生活					
第3回目：保育の基本（2）：発達に適した環境と遊びを通しての総合的な学び					
第4回目：保育の基本（3）：一人ひとりの発達の個人差と集団の中での学び					
第5回目：教育課程と全体的な計画の意義と役割					
第6回目：保育における指導計画の種類とその役割					
第7回目：幼稚園の教育の特徴					
第8回目：幼稚園の指導計画					
第9回目：保育所の特徴と指導計画：0～3歳未満児を中心に					
第10回目：保育所の特徴と指導計画：3～5歳児を中心に					
第11回目：指導計画の作成の基本とその方法					
第12回目：指導計画の実際：乳児対象					
第13回目：指導計画の実際：幼児対象					
第14回目：保育園・幼稚園と小学校との連携					
第15回目：保育における計画の変遷					
定期試験					
テキスト					
使用しない。必要に応じてプリントを配布する。					
参考書・参考資料等					
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 以上の他、随時授業の中で紹介する					
学生に対する評価					
総合評価：課題レポート（30%） 講義への参加態度（20%） 試験（50%）					

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名
保育方法論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 2学年 後期	二階堂邦子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>子どもたちの育ちを園生活の中で支えていくために子どもの生活とあそびを豊かにする具体的な方法を学ぶ。それには乳幼児の理解、保護者の援助と支援、保育の形態、子どものおかれている環境やメディア、他の機関との連携について知識を習得し、よりよい保育の方法を習得する。学び方は、具体的な事例を通してその手段や手順を探究する。</p>					
授業の概要					
<p>保育所実習を終了し、保育所の保育課程、保育の方法（養護と教育）の基本、まさに「保育の木」を学んだ中で園として、小学校との連携、幼保の連携など「保育の森」をみすえた中で、個としての保育を学んでいきます。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>6月には幼稚園実習があります。保育者によって保育の方法は様々です。このやり方がベストということはありません。保育者の方法を、学びながら模倣しながら、子どもにとってよりよい保育方法を探究して下さい。実習生はなんでもきける、なんでもみられる、なんでも習える特権があります。</p>					
授業計画					
<p>第 1 回目：保育方法論の意義と目的 第 2 回目：幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育方法 第 3 回目：0～2歳児の特性に応じた保育の方法 第 4 回目：3～5歳児の特性に応じた保育の方法 第 5 回目：障がい児における保育の方法 第 6 回目：あそびを通しての保育方法 第 7 回目：環境を通しての保育方法 第 8 回目：小学校にむけての連続性ある保育方法 第 9 回目：園行事と保育者の役割 第 10 回目：個の育ちと集団の育ち 第 11 回目：様々な保育形態 第 12 回目：保育形態による保育方法 第 13 回目：環境と保育の創造 第 14 回目：子どもの文化、メディア、家庭と共に創り出す保育 第 15 回目：幼稚園、保育所、小学校の連携</p>					
定期試験					
テキスト					
浅見均 田中正浩編著 『保育方法の探究』 大学図書出版					
参考書・参考資料等					
授業の中で紹介する 授業内で資料を配布					
学生に対する評価					
課題レポート 2件 (40%×2) 講義への参加態度 (20%)					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名
保育相談支援 (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 後期	亀谷美代子
授業の到達目標及びテーマ					
保育に関する専門的知識、技術や、倫理・価値観等、子どもの保育に関しての専門性に基礎を置いた保育士の保護者支援について学ぶ。					
授業の概要					
保育所、保育士の定義とその役割を踏まえ毎授業を行う中で実例を知りつつ、理解を深め、意義を柱に保育相談支援の基本（Ⅰ～Ⅳ）保育相談支援の実際（Ⅰ～Ⅳ）を進め個々、グループ全体で、折々に演習を行い身につけていく。諸制度等は法等の裏付けを確認する。					
事前・事後学習の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会の最大課題少子化に対する子育て支援を理解する為、新聞を読む。 ・多様な価値観の中の子育て社会を知る、人を知る為に多種の文学に触れる。 ・1年時、2年前期学んでいる保育理論、技術を復習する。 					
授業計画					
第 1 回目：保育相談支援とは：保育士とは、子どもの保育を行う専門職、子育て支援の必要性					
第 2 回目：保育相談支援の意義：科目設定の背景と内容					
第 3 回目：保育相談支援の基本Ⅰ 保育士の倫理及び実践上の価値、子どもの人権と権利					
第 4 回目：保育相談支援の基本Ⅱ 保護者との共感、保育所の特性を生かした支援					
第 5 回目：保育相談支援の基本Ⅲ 信頼関係の形成、プライバシーの保護					
第 6 回目：保育相談支援の基本Ⅳ 地域の関係機関等との連携と協力					
第 7 回目：保育相談支援の実際Ⅰ 保育に関する保護者に対する支援					
第 8 回目：保育相談支援の実際Ⅱ 保護者支援の内容					
第 9 回目：保育相談支援の実際Ⅲ 保護者支援の方法と技術					
第 10 回目：保育相談支援の実際Ⅳ 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス					
第 11 回目：児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ 保育所における実際					
第 12 回目：児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ 保育所における特別な対応					
第 13 回目：児童福祉施設における保育相談支援Ⅲ 児童養護施設における対応					
第 14 回目：児童福祉施設における保育相談支援Ⅳ 障害児施設、母子生活支援施設					
第 15 回目：保育士に求められる保育相談支援と学習内容の振り返り					
定期試験					
テキスト					
使用しません。					
参考書・参考資料等					
『保育福祉小六法』『保育所 保育指針』等、授業中で紹介する。授業内で資料配布。					
学生に対する評価					
授業学習に関しての積極的に組む姿勢、態度（30%）折々の演習、振り返り（70%）の総合評価					

授業科目名 障害児保育 (専門教育科目)	卒業 選択	幼免	保育士 必修	授業形態：演習 単位数：2単位 開講期：2学年 通年	担当教員名 宍戸 幽香里
授業の到達目標及びテーマ					
<p>障害児を保育するうえで必要となる基本的な知識や支援の手立てについて習得する。さまざまな障害の特性について理解し、発達状態や障害特性に応じた保育を実践できるようになる。障害児の保護者や家族の心理を理解し、保健・福祉・教育機関との連携について理解を形成する。</p>					
授業の概要					
<p>障害の捉え方や発達の支援について考え、障害児保育の基本的な考え方を学ぶ。各障害（身体障害、視覚・聴覚障害、知的障害、自閉症、注意欠陥・多動性障害）について、その特性と支援の方法を解説する。発達をうながす生活や遊びの環境づくり、保育のなかで育てる言葉の発達、行動や情動調整のむずかしい子どもの保育における留意点を学ぶ。障害児の評価や保育目標・計画の記録方法について学び、演習する。地域における保健・福祉・教育機関の現状について学び、連携のあり方を考える。保護者や家族の心理について紹介し、支援や対応のあり方について学ぶ。視聴覚教材を用いて障害をもつ子どものイメージがもてるようにし、さまざまな事例を紹介する機会を設ける。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>毎回の授業内容について、テキストの該当部分や配布する資料、紹介する参考文献をもとに予習をしておくこと。実習などで出会う障害をもつ子どもや行動の気になる子どもに対し、関心をもって観察し、その子どもの特性や行動の背景、保育の方法、自分の関わり方について考えるようにすること。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：障害とは 障害の捉え方、その変化や現状、自分の障害観 第2回目：発達とは 発達を規定するもの、発達の可塑性、発達支援とは 第3回目：障害児保育の基本 障害児保育の概要、障害児保育の現状や動向 第4回目：肢体不自由児の理解と支援 障害特性の理解、支援の手立て 第5回目：視覚・聴覚障害児の理解と支援 障害特性の理解、支援の手立て 第6回目：知的障害とは 知的発達の定義、知的発達の評価方法、障害特性の理解 第7回目：知的障害児への支援 支援の手立て、保育の方法、事例の紹介 第8回目：ダウン症候群の理解と支援 障害特性の理解、支援の手立て 第9回目：自閉症とは 診断基準と診断名、障害特性の理解 第10回目：自閉症児への支援 支援の手立て、保育の方法、事例の紹介 第11回目：注意欠陥・多動性障害とは 行動の特徴とタイプ、障害特性の理解 第12回目：注意欠陥・多動性障害への支援 支援の手立て、保育の方法 第13回目：学習障害の理解と支援 幼児期でみられる特徴、障害特性の理解、支援の手立て 第14回目：保健・医療における現状と課題 健康診査や発達相談など保健施策の現状、医療機関の役割 第15回目：まとめ 第1～14回の学習内容の振り返り 事例の紹介とグループ討議 第16回目：生活と遊びの環境① 発達をうながす生活の流れ、障害特性に応じた環境づくり、視覚的構造化 第17回目：生活と遊びの環境② 遊びの意義、発達をうながす遊びの環境、個別の遊び、集団での遊び 第18回目：言葉の遅れのある子どもの保育① 言葉の発達、障害の特性、保育環境と言葉の育ち 第19回目：言葉の遅れのある子どもの保育② 言葉の発達支援、保育における支援、インリアルアプローチ 第20回目：行動と情動の調整のむずかしい子ども① 情動の調整、虐待を受けた子の理解、保育での留意点 第21回目：行動と情動の調整のむずかしい子ども② 気になる子どもと発達障害、発達支援の留意点 第22回目：子ども同士のかかわりと育ち合い 子ども同士のかかわり合い、集団での育ちと課題、事例の検討</p>					

第23回目：障害児保育を支える記録・評価① 記録と評価について、保育目標や保育計画の立て方
第24回目：障害児保育を支える記録・評価② 個別指導計画書作成の演習
第25回目：保護者や家族に対する理解と支援① 保護者や家族についての理解、保護者支援・連携の必要性
第26回目：保護者や家族に対する理解と支援② 保護者への支援の実際、保護者対応の留意点
第27回目：福祉における現状と課題① 発達支援の専門機関との連携、支援内容の理解
第28回目：福祉における現状と課題② 地域の専門機関について、支援や連携の実際
第29回目：教育における現状と課題 学校の種類と就学相談、小学校との連携、保育要録の記入と生かし方
第30回目：まとめ 第16～29回の学習内容の振り返り 事例の紹介とグループ討議

テキスト

藤永保監修 阿部五月ほか著 『障害児保育—子どもとともに成長する保育者を目指して』 萌文書林
※説明用の資料を授業内で配布する事もある

参考書・参考資料等

授業のなかで適宜紹介する

学生に対する評価

授業学習に関して積極的に取り組む姿勢・態度（30%）と授業内で実施するリアクションペーパーの内容（20%）とレポート試験（50%）の総合評価

授業科目名 社会福祉 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名 スティーヴン・トムソン
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	
授業の到達目標及びテーマ					
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉のもつ基本的な意義、役割について理解する。 ・社会福祉の主な法制度や実施体制の概要について理解する。 ・子どもの人権保障や家庭支援についての基礎的理解を形成する。 ・相談援助の基本的な考え方・方法についての基礎的理解を形成する。 					
授業の概要					
<p>保育サービスは、社会福祉の大切なサービスの一つであることに基づき、社会福祉の基本的事項として、その理念、歴史、実施体制、法制度の概要について学習する。また、社会福祉の専門職として、子どもとその保護者への支援を職務とする保育士の役割に着目しながら、子どもの人権保障と家庭支援について、また、相談援助の基本的考え方・方法について学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>テキストの第1章については熟読すること。また、授業計画を明示しているので、(テキストの)その関連箇所にも目を通しておくこと。</p>					
授業計画					
第1回目： 保育と社会福祉： 現代社会の様相、生活課題と社会福祉					
第2回目： 社会福祉の意味： 社会福祉・社会保障の体系、社会福祉の理念					
第3回目： 社会福祉の歴史： 我が国における社会福祉の歴史の変遷					
第4回目： 社会福祉の実施体制①： 行政の組織・機関					
第5回目： 社会福祉の実施体制②： 民間の福祉団体、社会福祉施設					
第6回目： 社会福祉の法制度： 憲法、社会福祉法、福祉六法、その他の主要な法律					
第7回目： これまでの学習内容の確認： 学習定着度のチェック					
第8回目： 前半授業の総括： (前半の) 授業内容のまとめ					
第9回目： 子どもの人権と児童家庭福祉①： 子どもの人権と児童家庭福祉の理念					
第10回目： 子どもの人権と児童家庭福祉②： 児童家庭福祉の実施と動向					
第11回目： 子どもの人権と児童家庭福祉③： 保育施策の動向					
第12回目： 相談援助の意味と方法①： 相談援助(ソーシャルワーク)の種類					
第13回目： 相談援助の意味と方法②： 相談援助(ソーシャルワーク)の意味・原則					
第14回目： 相談援助の意味と方法③： 相談援助(ソーシャルワーク)の視点など					
第15回目： 後半授業の総括： (後半の) 授業内容のまとめ					
定期試験					
テキスト					
<p>橋本好市・宮田徹編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と社会福祉』(株)みらい 毎時間、説明用資料を配布。</p>					
参考書・参考資料等					
『保育福祉小六法 2019年版』(株)みらい、その他、授業内に随時紹介。					
学生に対する評価					
授業に積極的に取り組む姿勢・態度(20%) 試験①(40%) 試験②(70%)の総合評価					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名
相談援助 (専門教育科目)	選択		必修	開講期：2学年 後期	石山 直樹

授業の到達目標及びテーマ

本授業では、保育士として子どもや保護者に対して援助を行う際に必要となる、相談援助（ソーシャルワーク）に関する基本的な知識・技術を習得すること、および保育士として相談援助技術を用いる際の基盤となる、援助者自身の自己覚知（自己理解）を深めていくことを目標とします。そして、これまでに学習してきた他の科目の内容と本授業の内容をふまえ、保育士としての専門的価値観・倫理観をもって「子どもの最善の利益」を考慮した相談援助が展開できるようにします。

授業の概要

本授業では、①保育と相談援助の関係（保育士による相談援助の意義）、②相談援助に関する知識・技術、および相談援助の展開方法、③相談援助を行う専門職者としての自己覚知（自己理解）と利用者理解、④事例検討を通じた相談援助実践の具体的理解の4点について、演習を取り入れつつ学びます。

事前・事後学習の内容

1年次の「社会福祉」および「児童家庭福祉」の授業内容をもとに、「子どもの最善の利益」を念頭に置いた思考・判断のもととなる専門的価値観・倫理観について深く理解するよう心がけておくとともに、社会福祉関係（特に子ども家庭福祉関係）の法制度についても十分復習しておいてください。

なお、毎回の授業には前回の授業の資料（プリント）をよく復習してから臨んでください。また、自分自身も価値観の特徴、そして一人ひとりの人間がもつ価値観の違いを理解できるよう、日頃から自分と家族や友人とのやりとりを「客観的に」見つめる視点をもつよう心がけてみてください。

授業計画

- 第1回目：オリエンテーション（授業内容と展開方法、評価方法などに関する説明）
生活課題とは何か／生活課題の解決を目指す人の動きと専門職者による援助
- 第2回目：専門職者による相談援助と社会福祉固有の視点／保育の特性を活かした相談援助とは何か
- 第3回目：相談援助（ソーシャルワーク）の概要と相談援助（ソーシャルワーク）の視点
- 第4回目：相談援助（ソーシャルワーク）の基礎知識① ケースワークの構成要素とケースワークの原則
- 第5回目：相談援助（ソーシャルワーク）の基礎知識② ケースワークの展開過程①
- 第6回目：相談援助（ソーシャルワーク）の基礎知識③ ケースワークの展開過程②
- 第7回目：相談援助（ソーシャルワーク）の基礎知識④ 計画・記録・評価
- 第8回目：相談援助（ソーシャルワーク）の基礎知識⑤ 社会資源の活用／連携・ネットワーキング
- 第9回目：相談援助（ソーシャルワーク）の基礎知識⑥ グループワーク（福祉・教育分野での実践）
- 第10回目：相談援助（ソーシャルワーク）の基礎知識⑦ コミュニティワーク（福祉・教育分野での実践）
- 第11回目：相談援助（ソーシャルワーク）実践における自己覚知（自己理解）の重要性
- 第12回目：相談援助（ソーシャルワーク）実践における他者理解の重要性
- 第13回目：事例検討（児童虐待ケース）
- 第14回目：事例検討（障がい児ケース）
- 第15回目：まとめ 援助者に求められる要素と、保育士に期待される相談援助者としての役割

テキスト

特に指定しません。毎回の授業では説明用資料を配付します。

参考書・参考資料等

前田敏雄監修、佐藤信隆・中西遍彦編集『演習・保育と相談援助（第2版）』株式会社みらい
児童育成協会監修、松原康雄・村田典子・南野奈津子編集『基本保育シリーズ⑤ 相談援助』中央法規

学生に対する評価

中間テストおよび期末レポート（70%）、演習の振り返りシート（15%）、授業に取り組む姿勢と参加度（15%）

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名
子ども家庭福祉 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期	石山 直樹

授業の到達目標及びテーマ

本授業は、今日の子どもとその家族が直面している生活問題とその社会的背景をふまえて、子ども家庭福祉に関する法制度およびサービスの全体像を的確に把握すること、そして社会福祉の専門職として、保育所以外にもさまざまな施設・機関などで子どもとその家族にかかわる保育士に求められる役割を理解すること、さらに保育士を目指すにあたり「子どもの最善の利益」を念頭に置いた思考・判断ができるようになることを目標とします。

授業の概要

本授業では、①子どもとその家族を取り巻く社会環境の現状、②時代とともに変化している子どもと家族が抱える生活問題、③子ども家庭福祉にかかわる社会福祉制度やサービスの実施体制の現状と課題、④子どもがもつ権利ならびに今日の社会における子ども家庭福祉の意義、という4点について主に解説します。そして、それらを通じてこれからの子ども家庭福祉のあり方と保育士に期待される社会的役割について考えます。

事前・事後学習の内容

毎回、テキストの指定した部分（初回授業で一覧表にして配付）を熟読してから授業に臨んでください。
また、新聞・テレビのニュース・インターネット上のニュースサイトなどを通じて、虐待・DV・障がい・非行・貧困などの子どもとその家族が直面しているさまざまな生活問題の実情と、子どもと家族が生活する今日の社会の状況について、常に関心をもつようにしてください。

授業計画

- 第1回目：オリエンテーション（授業内容と展開方法、評価方法などに関する説明）
子ども家庭福祉の理念と、子どものもつ権利について
- 第2回目：子どもとその家族を取り巻く社会環境の変化とその背景（少子化問題を中心に）
- 第3回目：子どもとその家族の取り巻く社会環境および子どもと家族のライフスタイルの変化とその背景
- 第4回目：日本および諸外国における子ども家庭福祉の歴史
- 第5回目：子ども家庭福祉に関する法制度と行財政
- 第6回目：子ども家庭福祉にかかわる社会福祉施設・機関と専門職者
- 第7回目：子ども家庭福祉の現状と課題① 子育て支援と保育サービス
(日本における少子化対策、次世代育成支援対策について)
- 第8回目：子ども家庭福祉の現状と課題② 子どもへの虐待問題に関する対応策
- 第9回目：子ども家庭福祉の現状と課題③ 社会的養護を必要とする子どもに対する援助
- 第10回目：子ども家庭福祉の現状と課題④ 非行傾向にある子ども・心理的な不安定さを抱える子どもに対する援助
- 第11回目：子ども家庭福祉の現状と課題⑤ 障がいをもつ子どもとその家族に対する援助
- 第12回目：子ども家庭福祉の現状と課題⑥ 配偶者からの暴力(DV)に関する対応策(女性福祉含む)
- 第13回目：子ども家庭福祉の現状と課題⑦ ひとり親家庭に対する援助
- 第14回目：子ども家庭福祉の現状と課題⑧ 母子保健・子どもの健全育成に関するサービス
- 第15回目：諸外国の子ども家庭福祉の動向について
まとめ～これからの子ども家庭福祉、そして保育者に求められるものとは何か～

テキスト

比嘉真人監修、石山直樹・岡本眞幸・田家英二編『輝く子どもたち～子ども家庭福祉論～』株式会社みらい

参考書・参考資料等

参考書については授業内で必要に応じて紹介します。なお、毎回の授業で説明用資料を配布します。

学生に対する評価

中間テストおよび期末レポート(85%)、授業に取り組む姿勢と参加度(15%)

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名
子ども家庭支援論 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1学年 後期	石山 直樹
授業の到達目標及びテーマ <p>本授業では、「子ども家庭福祉」の授業の学習内容を土台として、子どもとその家族に対する理解をより深め、子どもと家族がともに生活を営む、まさに生活の拠点ともいえる「家庭」に対する支援を展開するにあたって求められる知識・技術と、援助者としての姿勢・態度を理解していきます。それにより、社会の状況や個々の家庭の状況を踏まえつつ、保育士として「子どもの最善の利益」を尊重した支援を実践するための力を身につけます。</p>					
授業の概要 <p>本授業では、子育て家庭に対する支援の意義と目的を捉えたうえで、各家庭がもつ多様な子育て支援に関するニーズに対応するための具体的な支援体制（各施設・機関・専門職等の連携・ネットワーク）を理解するとともに、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援のあり方の基本を習得していきます。さらに、子ども家庭支援の現状とこれからの社会における子ども家庭支援の課題を理解していきます。</p>					
事前・事後学習の内容 <p>1年次前期科目の「子ども家庭福祉」および「社会福祉」の授業内容、その中でも子どもとその家族を取り巻く社会の状況について特に重点的に復習してから授業に臨んでください。 また、新聞やテレビなどで取り上げられる子どもに関するニュースを、「子ども」の側からだけでなく「家族」「家庭」といった視点から捉えてみることも、本授業の学びを深めるために役立つでしょう。</p>					
授業計画 <p>第 1 回目：オリエンテーション（授業内容と展開方法、評価方法などに関する説明） 「家族」と「家庭」とは、現代社会における子ども家庭支援の必要性</p> <p>第 2 回目：保育・幼児教育の場における子ども家庭支援の目的と機能</p> <p>第 3 回目：子育て支援、次世代育成支援施策の推進（「子ども・子育て支援新制度」について）</p> <p>第 4 回目：子ども家庭支援の実践を支える社会資源</p> <p>第 5 回目：保育の専門性を活かした子ども家庭支援</p> <p>第 6 回目：子どもの育ちの喜びの共有（その意義と実践方法）</p> <p>第 7 回目：地域における子ども家庭支援の推進における保育士の役割</p> <p>第 8 回目：子ども家庭支援を実践する保育士に求められる姿勢</p> <p>第 9 回目：個々の家庭の状況に合わせた支援の展開</p> <p>第 10 回目：子ども家庭支援における地域の資源の活用と、行政機関・施設などとの連携</p> <p>第 11 回目：子ども家庭支援の内容と対象（相談援助技術を活用した子ども家庭支援）</p> <p>第 12 回目：保育所等を利用する子どもとその家族に対する支援</p> <p>第 13 回目：地域の子育て家庭に対する支援</p> <p>第 14 回目：要保護児童とその家族に対する支援</p> <p>第 15 回目：まとめ（子ども家庭支援の課題と将来展望）</p>					
テキスト <p>特に指定しません。適宜プリントを配付して授業を行います。</p>					
参考書・参考資料等 <p>児童育成協会監修、松原康雄・村田典子・南野奈津子編集『新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論』中央法規出版</p>					
学生に対する評価 <p>中間テストおよび期末レポート（75%）、授業に関するリアクションペーパー（10%）、授業に取り組む姿勢と参加度（15%）</p>					

授業科目名 家庭支援論 (専門教育科目)	卒業 選択	幼児	保育士 必修	授業形態： 講義 単位数： 2単位 開講期： 2学年 後期	担当教員名 スティーヴン・トムソン
授業の到達目標及びテーマ					
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の意義とその機能について理解する。 ・子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ・子育て家庭の支援体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 					
授業の概要					
<p>保育実践では、保育士などは必然的に保護者との関わりを持ち、必要に応じて保護者を支援することが期待される。この授業では、まず家庭に意義と家族機能について学び、家庭を取り巻く社会的状況、家族の多様化、家庭支援の必要性について理解を深める。更に子育て家庭を支援する体制や社会資源について学び、多様な支援の展開について学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>周囲に見かける子どもと保護者の関わり合いに関心を持ち、保育・教育実習においても送迎の場面などでの関わりに注目すること。一年次の児童家庭福祉の授業で取り上げられた「子育て家庭を取り巻く社会環境」を復習しておくこと。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：ガイダンス、家庭の意義 第2回目：家庭の機能 家庭支援の視点、子育て中の家庭の機能、事例の検討 第3回目：社会の基礎単位としての家庭 家庭の変化、現代の家庭、事例の検討 第4回目：保育士等が行う家庭支援の原理Ⅰ 家庭支援の理念、子どもの発達と家族、事例の検討 第5回目：保育士等が行う家庭支援の原理Ⅱ 保育士による家庭支援、家庭支援の展開、事例の検討 第6回目：現代の家庭における人間関係 コミュニケーションと子育て、家庭における人間関係、事例の検討 第7回目：家庭生活を取り巻く社会的状況 地域社会の変容と家庭支援、子どもの放課後、事例の検討 第8回目：男女共同参画社会とワークライフバランス 男女共同参画社会、ワークライフバランス、事例の検討 第9回目：子育て家庭の支援体制 福祉を図るための社会資源、住民による家庭支援活動、事例の検討 第10回目：子育て支援施策・次世代育成支援施策 子育て支援施策、次世代育成、事例の検討 第11回目：子育て支援サービスの概要 子育て支援サービス、課題がある家庭へ支援、事例の検討 第12回目：保育所による家庭支援 保育所の子育て機能、家庭の課題への対応、事例の検討 第13回目：子どもの虐待の早期発見 虐待の危険性（リスク）を高める要因、子どもの早期発見、など 第14回目：子どもの虐待と専門機関との連携 親とその子どもへの支援、ケースマネジメント、事例の検討 第15回目：授業内容の振り返り・確認</p>					
テキスト					
吉田眞理 『子ども家庭支援論：児童の福祉を支える』 萌文書林					
参考書・参考資料等					
授業の中で紹介する					
学生に対する評価					
授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（20%）課題（40%）試験（40%）の総評価					

授業科目名 社会的養護Ⅰ (専門教育科目)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態： 講義 単位数： 2 開講期： 1学年 後期	担当教員名 スティーヴン・トムソン
授業の到達目標及びテーマ					
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会的養護の意義について理解する。 ・社会的養護の歴史的な変遷、展開について理解する。 ・社会的養護の体系（施設養護、家庭的養護、家庭養護）について理解する。 ・社会的養護における子どもの権利擁護を理解する。 ・施設養護における子どもの支援（自立支援）について理解する。 					
授業の概要					
<p>現代社会では、親や家庭環境の問題により家族と生活していない子どもたちがいる。これらの子どもたちは施設養護や家庭養護などの社会的養護を受けている。子どもの保護理由、社会的養護の仕組み（制度）、社会的養護の体系（施設養護、家庭的養護、家庭養護）、施設養護の理念、施設養護の原則、子どもの支援、保育士による支援、子どもの権利擁護、自立支援などについて学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>日頃から新聞などの児童虐待の問題、児童養護施設・里親についての記事に目を通し、虐待や社会的養護にかかわる内容に触れる。一年次前期の子ども家庭福祉の授業の内容、特に「社会的養護を必要とする子どもへのサービス」を復習しておくこと。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：ガイダンス 今の子ども、家庭、社会の状況 第2回目：現代社会の養護問題 養護相談の増加、社会的養護と家庭養育、虐待防止への取り組み 第3回目：児童養護の歴史 ① 古代から近世、明治・大正時代、昭和から戦後まで 第4回目：児童養護の歴史 ② 戦後、高度経済成長期、オイルショック以降から現代まで 第5回目：社会的養護の体系 代替的養護（施設養護、家庭的養護、家庭養護） 第6回目：施設養護 施設養護の特徴、施設養護のスタイル（大舎制施設、小舎制施設、ユニット形式） 第7回目：家庭養護 里親、里親の分類（養育里親、専門里親、親族里親、養子縁組里親）、里親支援 第8回目：第1～7回目の授業内容の振り返り・確認 第9回目：施設養護の基本原則 保護的福祉（welfare）、自己実現を支援する福祉（well-being） 第10回目：施設養護の実践 ① 施設養護の側面、日常生活場面での支援（生活日課の提供など） 第11回目：施設養護の実践 ② 子どもの学習支援 第12回目：施設養護の実践 ③ 親子調整（ファミリーソーシャルワーク） 第13回目：施設養護の実践 ④ 自立支援（自立支援の側面、自立支援計画など） 第14回目：施設養護の実践 ⑤ 活動・お祝いの企画 第15回目：施設養護の実践 ⑥ 地域とのつながり、第9～15授業の授業内容の復習</p>					
テキスト					
櫻井 奈津子（編）「社会的養護の原理」青踏社（第12版）					
参考書・参考資料等					
授業中で紹介する。					
学生に対する評価					
授業学習に積極的に取り組む姿勢・態度（20%）試験 ①（40%）試験 ②（40%）の総評価					

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名
社会的養護内容 (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 前期または後期	岡本 眞幸 スティーヴン・トムソン
授業の到達目標及びテーマ					
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の援助過程（アドミッションケアからアフターケア）を理解する。 ・施設養護を受けている子どもやその保護者の視点やニーズを理解する。 ・施設養護を受けている子どもやその保護者への支援内容を理解する。 ・家庭養護（里親）への理解を深め、里親への支援について理解する。 ・施設養護における子どもの権利擁護について理解する。 					
授業の概要					
<p>社会的養護の授業では、社会的養護の体系、施設養護、家庭的養護などを入門的に取り上げた。この授業では、施設養護を受けている子どもやその保護者の視点やニーズを基に行われる支援について学ぶ。特にアドミッションケアからアフターケアの一連の援助過程で行われる個別支援について理解を深める。様々な事例（ケース）を検討し、子ども・保護者の視点、個別援助、子どもの権利擁護、保育士に求められている倫理観を学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>1年次の社会的養護の授業内容、特に施設養護、施設養護の基本原理や基本的な支援活動、を復習しておくこと。この内容を基礎に授業は展開される。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：ガイダンス、社会的養護の体系、社会的養護の援助過程（アドミッションケアからアフターケア） 第2回目：子どもや保護者が抱える養護問題 養護問題を抱えている家庭の事例 第3回目：子どもの一時保護 一時保護所に保護された兄弟の事例 第4回目：アドミッションケア（児童相談所） 児童相談所における支援の事例 第5回目：アドミッションケア（施設） 入所する子どもの支援、支援内容の検討 第6回目：インケア（施設環境） 施設の養護環境、小規模グループケアの事例 第7回目：インケア（子どもの行動上の問題） 治療的養育、子どもの感情的爆発の事例 第8回目：インケア（親子関係の調整） 親子の面会の事例 第9回目：インケア（子どもの自立支援） 自立支援計画、自立支援計画の内容 第10回目：リービングケア 子どもの退所、リービングケアの内容 第11回目：アフターケア アフターケアの必要性、アフターケアの内容 第12回目：家庭養護 里親、ファミリーホーム、週末里親、週末里親との交流の事例 第13回目：子どもの権利擁護 子どもの権利教育、苦情解決、職員の専門性、施設内虐待の事例 第14回目：保育者の疲労・ストレス 「共感的疲労」、不規則な勤務、「燃え尽き症候群」の事例 第15回目：児童養護施設職員に求められる倫理</p>					
テキスト					
指定しない。プリントなどを授業で配布。					
参考書・参考資料等					
<p>櫻井 奈津子（編）「社会的養護の原理」青踏社 櫻井 奈津子（編）「社会的養護の実践：保育士のための演習ワークブック」青踏社</p>					
学生に対する評価					
授業学習に関して積極的に取り組む姿勢・態度（20%）課題①（40%）課題②（40%）の総評価					

授業科目名 子どもの保健 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名 甲斐 純夫 楠木 陽一 (担当教員別 授業)
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期	
授業の到達目標及びテーマ 子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解し、胎児期より青年期に至るまでの身体発育、運動機能、精神機能の発達およびこれらに影響を与える環境因子、虐待などについて理解を深める。また保育士として知っておきたい、子どもによく見られる疾病の病態とその予防法および適切な対応について学ぶ。					
授業の概要 医学的・保健学的視点から保育を学ぶ授業である。前半は子どもの保健の概要、身体の成長・発達、運動機能の発達、精神機能の発達、症状、児童虐待などについて概説する。後半は感染症、アレルギー、先天異常、各種臓器疾患、発達障害など小児期の代表的な疾患について講義を行う。授業は毎回、ビジュアルなパワーポイントを用いて行い、配布資料に各自書き込みながら理解を進める。					
事前・事後学習の内容 今回の授業内容について教科書で予習しておくことと授業が理解しやすい。授業後は配布プリントを再度読み直して理解を深める。不明な点があれば授業後に担当教員に質問して解決すること。					
授業計画 第1回目：子どもの保健の意義、保健統計 第2回目：子どもたちを取り巻く環境、子育て支援と地域保健 第3回目：身体発育および運動機能の発達 第4回目：生理機能の発達、精神機能の発達 第5回目：子どもの心身の健康状態とその把握、子どもに多い症状 第6回目：子どもの虐待について 第7回目：身体発育の評価、発達検査、乳幼児健康診査 第8回目：感染症 第9回目：アレルギー疾患 第10回目：口と歯の健康 第11回目：先天異常 第12回目：循環器、呼吸器、消化器の病気 第13回目：脳・神経、運動器、血液の病気 第14回目：皮膚、泌尿器、眼、鼻、耳の病気 第15回目：心の病気(心身症など)、発達障害 定期試験：筆記試験；授業内容から出題					
テキスト 遠藤郁夫・曾根眞理枝・三宅捷太編集『子どもの保健I 子どもの健康と安全を守るために』学建書院					
参考書・参考資料等 毎回の授業においてパワーポイントの資料を配付する。					
学生に対する評価 積極的に授業に取り組む態度(20%)と筆記試験(80%)の総合評価。					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名
子どもの保健Ⅱ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 通年	渡邊 悦子

授業の到達目標及びテーマ

小児各期における成長・発達に応じた適切な保育、養護の知識と技術を習得する。保健的な観点から子どもの日常生活援助、生活環境を理解し、異常の早期発見、病気の予防、ケガの対応、救急処置、事故防止が実践できる知識と技術を講義と演習を通して習得する。

授業の概要

保育の現場において実践できる知識・技術と応用能力を講義と演習を通して学ぶ。日常生活援助、疾病予防、感染対策、異常の早期発見および対応、事故防止、救急処置についての学びと演習を通して実践的な能力を養う。

事前・事後学習の内容

1年次に履修した子どもの保健Ⅰと乳児保育を復習しておくこと。演習には、事前学習をして臨むこと。

授業計画

- 第 1 回目：ガイダンス、保育者の健康管理
- 第 2 回目：子どもの保健と母子保健① 妊娠と胎児の成長
- 第 3 回目：子どもの保健と母子保健② 分娩と新生児
- 第 4 回目：乳幼児の養護
- 第 5 回目：乳幼児の身体計測、生理機能の測定
- 第 6 回目：乳幼児の発達、歯の健康
- 第 7 回目：実習 1 抱き方・背負い方・授乳／レポート
- 第 8 回目：実習 1 レポート／抱き方・背負い方・授乳
- 第 9 回目：実習 2 心肺蘇生、気道内異物除去
- 第 10 回目：実習 2 心肺蘇生、気道内異物除去
- 第 11 回目：実習 3 沐浴／レポート
- 第 12 回目：実習 3 レポート・沐浴
- 第 13 回目：子供のけがの現状、野外における注意、ケガの応急手当
- 第 14 回目：集団保育と保健、保健対策
- 第 15 回目：保健医療に関するトピックスと安全対策・事故防止
- 第 16 回目：ガイダンス、危険予知トレーニング
- 第 17 回目：病児・病後児保育、医療保育専門士
- 第 18 回目：健康問題を持つ子どもへのアプローチ ①発熱とその手当、咳とその手当
- 第 19 回目：健康問題を持つ子どもへのアプローチ ②嘔吐とその手当、腹痛とその手当、下痢とその手当
- 第 20 回目：健康問題を持つ子どもへのアプローチ ③けいれんとその手当、発疹とその手当
- 第 21 回目：健康問題を持つ子どもへのアプローチ ④頭痛とその手当、薬の使い方、罨法
- 第 22 回目：実習 4 タッチケア／保健指導
- 第 23 回目：実習 4 保健指導／タッチケア
- 第 24 回目：感染症、予防接種、感染予防、環境衛生
- 第 25 回目：実習 5 包帯法・三角巾の使い方／保健指導
- 第 26 回目：実習 5 保健指導／包帯法・三角巾の使い方
- 第 27 回目：子どもの命
- 第 28 回目：保健指導発表
- 第 29 回目：保健指導発表

第30回目：保健指導の振り返りと全体のまとめ

テキスト

高内正子 編著 『子どもの保健演習ガイド』 建帛社

吉田一心・伊東和雄 『子どもの事故と応急手当』 マスターワークス

参考書・参考資料等

授業の中で紹介する

学生に対する評価

レポート及び課題・小テスト(40%)、講義及び演習に取り組む姿勢・態度(60%)の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名
子どもの保健Ⅲ (専門教育科目)	選択		選択	開講期： 2学年 後期	渡邊 悦子
授業の到達目標及びテーマ					
我が国の児童福祉施設を理解し、慢性疾患・発達障害などの心身のハンディキャップをもつ小児を理解する。そして、それらの小児に対する保健対策や福祉について理解を深めるとともに保育者の役割、姿勢、態度について学習する。					
授業の概要					
施設や保育の現場で働く先生を講師に迎えて、実際の子どもの関わり方及び施設の概要について学ぶ。病児との関わり方を考え、ロールプレイを行い振り返ってみる。講義と演習をとおして、ハンディキャップを持つ子どもとの関わり方を考え、保育者としての役割について考察する。					
事前・事後学習の内容					
ハンディキャップとは何か考えておく。実習で気になる子と出会った経験を振り返っておく。1年前期の社会福祉、児童家庭福祉、1年次の子どもの保健Ⅰ、2年次の障害児保育の内容を復習しておくこと。					
授業計画					
第 1 回目：ガイダンス、母子保健の現状					
第 2 回目：障害の種類 障害とは何か、障害の種類と特性					
第 3 回目：児童福祉施設 各児童福祉施設の理解					
第 4 回目：各施設の理解① 乳児保育施設					
第 5 回目：各施設の理解② 保育所					
第 6 回目：各施設の理解③ 児童養護施設					
第 7 回目：各施設の理解④ 児童発達支援センター					
第 8 回目：各施設の理解⑤ 児童発達支援事業					
第 9 回目：各施設の理解⑥ 障害者支援施設					
第 10 回目：各施設の理解⑦ 病院での保育					
第 11 回目：プレパレーション					
第 12 回目：ロールプレイとプロセスレコード					
第 13 回目：理想の園プロジェクト					
第 14 回目：保育者の役割					
第 15 回目：観察、プロジェクトの発表					
テキスト					
指定しない。講義時に資料を配布する。					
参考書・参考資料等					
国立研究開発法人国立成育医療センター 編集 『基本から実践まで！！すぐに役立つ 医療保育実践マニュアル』 診断と治療社					
梶谷 喬他著 『医療保育 ぜひ知っておきたい小児科知識』 診断と治療社					
及川郁子・田代弘子編 『病気の子どもへのプレパレーション』 中央法規					
学生に対する評価					
課題及び授業に取り組む姿勢・態度(30%)とレポート試験(70%)の総合評価					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	担当教員名 野田 聖子
子どもの食と栄養A (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 前期	
授業の到達目標及びテーマ					
<ul style="list-style-type: none"> ・五大栄養素それぞれの働きと相互作用を理解し、それらを過不足なく摂取することの意義を説明できる。 ・現代の食生活の状況から、子どもにとって望ましい食生活がどのようなものか理解する。 					
授業の概要					
<p>子どもの栄養と食生活は、健やかな発育を支えるだけでなく、生涯にわたる健康と生活の基盤となる。小児期の食生活がその後の心と体の健康に大きな影響を及ぼすことを踏まえ、保育者として子どもの栄養と食生活の課題を把握し、解決するための栄養の基礎的知識を学ぶ。子どもにとって、そして自分自身にとって適切な食生活とは何か考え、実践できるスキルを習得する。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>事前学習：「授業計画」を参照し、テキストの該当箇所をあらかじめ熟読しておくこと。 事後学習：授業内で扱った事項について、わからなかった点については調べてまとめておくこと。</p>					
授業計画					
<p>第 1 回目：オリエンテーション 「子どもの食と栄養」を学ぶ意義 第 2 回目：現代の子どもの食生活の現状と課題 第 3 回目：栄養の基礎知識と五大栄養素の概要 第 4 回目：消化吸収 糖質・脂質・たんぱく質の消化の過程と吸収 第 5 回目：炭水化物（糖質と食物繊維）の栄養学的意義 第 6 回目：脂質の栄養学的意義 第 7 回目：たんぱく質の栄養学的意義 第 8 回目：ミネラルの栄養学的意義 第 9 回目：ビタミンの栄養学的意義 第 10 回目：栄養素の代謝・相互関係 第 11 回目：代謝異常と生活習慣病 第 12 回目：水分と電解質の代謝・エネルギー代謝 第 13 回目：五大栄養素に関する演習 第 14 回目：望ましい食生活のあり方に関する演習 第 15 回目：まとめ 授業の振り返りと知識の定着化を図る</p>					
定期試験					
テキスト					
児玉浩子編集・執筆 太田百合子、風見公子他執筆 『子どもの食と栄養』（改訂第2版）中山書店					
参考書・参考資料等					
授業内で提示					
学生に対する評価					
積極的に取り組む姿勢（20%）、レポート（20%）、定期試験（60%）					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名
子どもの食と栄養ⅠB (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：2学年 前期	中岡 加奈絵

授業の到達目標及びテーマ

- ・妊娠前から妊娠期の食生活が胎児に及ぼす影響について理解する。
- ・子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活の意義と役割を理解し、説明できる。
- ・母乳栄養の利点と留意点を説明できる。
- ・人工栄養の内容を理解し、正しく調乳ができる。
- ・離乳の必要性や離乳の進め方を理解し、保育者としての適切な食事支援の方法を習得する。

授業の概要

生命のスタートとしての胎児期（妊娠期）から、出生後の乳児期（乳汁期・離乳期）における栄養と食生活について、理論と実践の両面から学び、基礎栄養学および小児栄養学に関する知識と技術を習得する。

事前・事後学習の内容

1年次履修科目である「子どもの食と栄養ⅠA」の学習内容を復習し、「保育実習Ⅰ」で学んだ子どもの食の実際をまとめた上で授業に臨むこと。毎回授業後に配布資料の整理を行い、テキストでその範囲を読み、復習しておくこと。不明な箇所や確認事項があればノートに控えておき、授業前後に質問すること。

授業計画

- 第 1 回目：オリエンテーション
- 第 2 回目：食事摂取基準
- 第 3 回目：献立作成と調理の基本
- 第 4 回目：胎児期（妊娠期）の栄養と食生活
- 第 5 回目：子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題
- 第 6 回目：乳汁期の栄養と食生活① 母乳栄養
- 第 7 回目：乳汁期の栄養と食生活② 人工乳栄養・混合栄養
- 第 8 回目：乳汁栄養の実際 調乳実習
- 第 9 回目：離乳期の栄養と食生活① 離乳の必要性和進め方の基本
- 第 10 回目：離乳期の栄養と食生活② 離乳期における食品の選択と留意点
- 第 11 回目：離乳期の食事の実際① 離乳食（5, 6 か月頃）の実習
- 第 12 回目：離乳期の食事の実際② 離乳食（7, 8 か月頃）の実習
- 第 13 回目：離乳期の食事の実際③ 離乳食（9～11 か月頃）の実習
- 第 14 回目：離乳期の食事の実際④ 離乳食（12～18 か月頃）の実習
- 第 15 回目：演習・学習発表会

定期試験

テキスト

児玉浩子編 『子どもの食と栄養』 中山書店 ※毎回、授業時に資料を配布する

参考書・参考資料等

堤ちはる、土井正子編著 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』 萌文書林

学生に対する評価

実践学習に積極的に取り組む姿勢・態度(20%)、課題レポート(30%)、筆記試験(50%)の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名
子どもの食と栄養Ⅱ (専門教育科目)	選択		本学 指定	開講期：2学年 後期	中岡 加奈絵

授業の到達目標及びテーマ

- ・小児期の栄養と食生活が生涯にわたる健康と生活の基礎になることを理解する。
- ・幼児期の発育・発達と食生活の特性を理解し、保育者としての子どもへの関わり方を習得する。
- ・体調不良、食物アレルギー、障がいのある子どもに対する食生活における対応の基本を理解する。
- ・児童福祉施設の給食ならびに給食時の保育者が果たす役割を理解する。
- ・食育の必要性、基本と内容を理解し、食育のための環境づくりに参加できる。

授業の概要

幼児期～学童・思春期の子どもの発育・発達と食生活の特徴や留意点、保育所を主とした児童福祉施設の給食の意義、食育の基本と内容、食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもへの対応について学ぶ。多様化する育児支援のニーズに食の観点から適切に対応できる実践力を、理論と実践を通して養っていく。

事前・事後学習の内容

これまでの「保育実習」や「教育実習」で学んだ子どもの食の実際をまとめておくこと。毎回授業後に配布資料の整理を行い、テキストでその範囲を読み、復習しておくこと。不明な箇所や確認事項があればノートに控えておき、授業前後に質問すること。

授業計画

- 第 1 回目：幼児期の心身の発達と食生活①
- 第 2 回目：幼児期の心身の発達と食生活②
- 第 3 回目：幼児期の食事の実際① 幼児食の実習
- 第 4 回目：幼児期の食事の実際② 望ましい間食の実習
- 第 5 回目：特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良や障がいのある子どもへの対応
- 第 6 回目：特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子どもへの対応
- 第 7 回目：幼児期の食事の実際③ 食物アレルギーに対応した間食の実習
- 第 8 回目：児童福祉施設における食と栄養
- 第 9 回目：学童期・思春期の心身の発達と食生活①
- 第 10 回目：学童期・思春期の心身の発達と食生活②
- 第 11 回目：成人期・老年期の栄養と食生活
- 第 12 回目：食育の基本と内容① 食育の推進施策
- 第 13 回目：食育の基本と内容② 食育実践の事例
- 第 14 回目：食育の実践① 食育発表会
- 第 15 回目：食育の実践② 食育発表会

定期試験

テキスト

児玉浩子編 『子どもの食と栄養』 中山書店 ※毎回、授業時に資料を配布する

参考書・参考資料等

堤ちはる、土井正子編著 『子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養』 萌文書林

学生に対する評価

実践学習に積極的に取り組む姿勢・態度(30%)、課題レポート(20%)、筆記試験(50%)の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名
乳児保育Ⅰ (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	佐野 眞弓
授業の到達目標及びテーマ 乳児保育に必要な基本的な知識や技術を習得します。 人は、人との関わりの中で、人として育っていきます。子どもに関わる大人は、乳児期の発達の特徴を理解し、愛情を持って育てていくことが望まれます。 本授業では、3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と知識を持った望ましい保育者のあり方を学びます。					
授業の概要 乳児保育の意義を理解します。 乳児保育の行われる場における現状と課題について学び、3歳未満児の具体的な保育内容、運営体制などを理解します。 また、乳児保育は、職員間・保護者間・関連機関との連携の下に行われる大切さを理解します。 講義科目ですが、双方向の講義、演習を通し主体的に学んでいきます					
事前・事後学習の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段から、赤ちゃんや赤ちゃんの環境に興味を持つ。(通学途中、赤ちゃん用品売り場、近所の子 etc.) ・ // 赤ちゃんや育児・保育に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。 ・ 授業内容によって、他授業で既に学んだ項目に関しては、復習して授業に出席すること。 ・ 授業内容によって、マイノートにまとめられる内容は(発達等)各自まとめておく。 					
授業計画 第 1 回目：ガイダンス 授業内容、評価の方法、授業の進め方等、当授業を学ぶに当たって必要事項 乳児保育の実際(ビデオ) 第 2 回目：乳児保育の基本的考え方① 子ども・子育てをめぐる状況・乳児保育の歩みと現状 第 3 回目：乳児保育の基本的考え方② 乳児保育の現状と課題 第 4 回目：乳児保育の基本①乳児保育の基本とは、保育の計画と乳児保育 第 5 回目：乳児保育の基本②乳児保育の行われる場 第 6 回目：乳児保育と保育士の専門性 第 7 回目：乳児保育の保育内容①保育所保育指針に準拠した実践とは 第 8 回目：乳児保育の保育内容②保育の視点を明確にする 第 9 回目：乳児保育の保育内容③事例から読み解く保育の実際 第10回目：乳幼児期の心身の発達、ビデオ視聴から発達を理解する 第11回目：身体及び運動の発達～からだの育ち～ 第12回目：認知の発達～見る・聞く・考える～ 第13回目：人間関係の発達～まわりの人々とのかかわり～ 第14回目：言葉とコミュニケーションの発達～言葉を話すようになること～ 第15回目：自己意識の発達～自分への気づき～ 第15回目：グループディスカッション シートを用いての自己の学びの振り返り、グループでの学びの共有 定期試験					
テキスト 茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』					

保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育用語辞典
参考書・参考資料等
必要に応じてプリント配布
学生に対する評価 ・授業態度、参加度、課題の提出等授業に積極的に取り組む姿勢（30%） ・前期後期2回の筆記試験の成績（70%）で総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 1単位	担当教員名
乳児保育Ⅱ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 1学年 後期	佐野 真弓 渡邊 悦子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>乳児保育に必要な基本的な知識や技術を習得します。</p> <p>人は、人との関わりの中で、人として育っていきます。子どもに関わる大人は、乳児期の発達の特徴を理解し、愛情を持って育てていくことが望まれます。</p> <p>本授業では、3歳未満児の発達や乳児保育の基礎を学び、豊かな心根と知識を持った望ましい保育者のあり方を学びます。</p>					
授業の概要					
<p>3歳未満児の発育・発達について学びます。</p> <p>養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法を学びます</p> <p>保育の方法、環境、配慮の実際、保育の計画等について、講義と演習を通して具体的に理解します。</p>					
事前・事後学習の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段から、赤ちゃんや赤ちゃんの環境に興味を持つ。(通学途中、赤ちゃん用品売り場、近所の子 etc.) ・ " 赤ちゃんや育児・保育に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。 ・ 授業内容によって、他授業で既に学んだ項目に関しては、復習して授業に出席すること。 ・ 授業内容によって、マイノートにまとめられる内容は(発達等)各自まとめておく。 					
授業計画					
<p>第 1 回目：ガイダンス 授業内容、評価の方法、授業の進め方等、当授業を学ぶに当たって必要事項 発達過程の全体像を学ぶ</p> <p>第 2 回目：発達過程からみる乳児の理解①</p> <p>第 3 回目：発達過程からみる乳児の理解②</p> <p>第 4 回目：発達過程からみる乳児の理解③</p> <p>第 5 回目：発達過程からみる乳児の理解④</p> <p>第 6 回目：発達過程からみる乳児の理解⑤</p> <p>第 7 回目：援助の実際①(安心・安定) 実習 実習①</p> <p>第 8 回目：援助の実際②(保護者との連携)</p> <p>第 9 回目：援助の実際③(守秘義務)</p> <p>第 10 回目：援助の実際④(保健・安全)</p> <p>第 11 回目：援助の実際⑤(食事) スライド、実習②</p> <p>第 12 回目：援助の実際⑥(排泄) 実習③</p> <p>第 13 回目：援助の実際⑦(環境整備) スライド</p> <p>第 14 回目：援助の実際(清潔)(沐浴)(着脱) 実習④</p> <p>第 15 回目 シートを用いての自己の学びの振り返り、グループでの学びの共有</p> <p>定期試験</p>					
テキスト					
<p>茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』</p> <p>保育所保育指針</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p> <p>保育用語辞典</p>					

参考書・参考資料等

必要に応じてプリント配布

学生に対する評価

- ・授業態度、参加度、課題の提出等授業に積極的に取り組む姿勢（30%）
- ・前期後期2回の筆記試験の成績（70%）で総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名
教育心理学 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：2学年 前期	佐藤寛之
授業の到達目標及びテーマ 教育・保育場面で出会う子どもたちの状態を適切に把握し、問題を見極め、どのような働きかけが必要なのか、適切なかを選択、探究していくために必要な心理学の研究手法、考え方、心理学の理論、概念の基礎を理解する。さらに、教育・保育にかんする実践・支援・指導をおこなう上で必要と思われる心理学の理論、概念、知見を学び、教育・保育の実践に役立てられる知識・技能の基礎を形成する。					
授業の概要 本演習では、まず、教育心理学の果たす役割、意義について学び、心理学の研究手法、考え方が保育・教育の分野においてどのように問題の探究に役立つのかを学ぶ。さらに、教育・保育にかんする実践・支援・指導をおこなう上で必要と思われる心理学の理論、概念、知見を理解する。					
事前・事後学習の内容 事前学習として、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、保育実習Ⅰ（保育所）において、できないことが、できるようになっていく変化の様子や年齢によるできることの違いと、保育者の子どもへの関わり方を観察しておくこと。1年次に学習した、発達心理学Ⅰの学習内容を復習しておくこと。子どもに自信を持たせる関わり方、意欲を持たせる関わり方について事前に調べるなどして、自分なりに有効と思える方法を考えること。事後学習としては、本演習で学習した内容と他教科での学習内容、及び自身の体験、考え等と照合し、発達と教育、学習の関係性の理解と、保育、幼児教育に関する一体的な「知」を形成できるように常に努めること。					
授業計画 第1回目：教育心理学とは 教育と心理学の関係性、歴史、心理学の教育への貢献の仕方 第2回目：現象理解の基礎 自然的観察と実験的観察、教育場面での参与観察の有用性 第3回目：学習の諸理論 発達と学習、学習の基礎的様式の理解 第4回目：適性処遇交互作用（ATI） 処遇と個人の適性・特性の組み合わせがもたらす差異 第5回目：知能概念の再考① 知能とは何か、知能と創造性と学力の関係 第6回目：知能概念の再考② 知能への環境要因の影響；幼稚園、保育所通園と知能発達—早期教育の影響 第7回目：知能概念の再考③ 実際の知能、多重知能理論と発達の個人差、発達障害、個性 第8回目：欲求・動機づけと適応① 欲求、動機づけの諸理論、適応—欲求不満と欲求耐性、葛藤、適応機制 第9回目：欲求・動機づけと適応② 期待効果—ピグマリオン効果、社会的現実の構築 第10回目：欲求・動機づけと適応③ 帰属理論と動機づけ—原因帰属、学習された無力感の克服、自己効力感 第11回目：欲求・動機づけと適応④ 自尊心の維持、高揚と社会的比較過程及び自己提示 第12回目：教育・保育への心理学的アプローチ 発達の最近説領域の考え方と臨床心理学的アプローチ 第13回目：カウンセリング・マインドとその効用① 教師・保育者に求められる特質、臨床家と教師・保育者 第14回目：カウンセリング・マインドとその効用② カウンセリング・マインドの効用 第15回目：カウンセリング・マインドとその効用③ 望まれる教師・保育者となるための準備					
テキスト 藤土圭三 監修『心理学からみた教育の世界』北大路書房 ※別途説明用資料を授業内で配布。					
参考書・参考資料等 授業の中で紹介する。別途説明用資料を授業内で配布。					
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（33%）とレポート試験（67%）の総合評価					

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名 佐藤寛之
保育の心理学（発達） （専門教育科目）	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期	
授業の到達目標及びテーマ 本授業のテーマは、幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解することである。そのために、①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解すること、②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解すること、を到達目標とする。					
授業の概要 幼児の心身の発達過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。具体的には、発達の定義、関連概念、発達の規定因、発達の方向性等、発達の特徴・特質、発達段階と発達課題の考え方について理解し、愛着と人間関係の発達、心身の機能と遊びの発達、言語、思考の発達、自我、自己概念の発達、社会性の発達、道徳性の発達について学ぶ。発達の個人差、多様性を理解する。					
事前・事後学習の内容 事前学習として、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、子どもの日々の変化、年齢によるできることの違いを観察しておくこと。事後学習としては、本授業で学習した内容と他教科での学習内容、及び自身の体験、考え等と照合し、発達の意味、子どもの発達していく過程の全体像を構築するように努めること。					
授業計画 第1回目：発達とは① 発達の定義とその規定因（遺伝と環境の相互作用）、発達段階、生涯発達の考え方、 第2回目：発達とは② 発達の特徴・特質、ヒトの発達の特異性・特殊性 第3回目：発達の諸理論 発達理論の変遷、ピアジェ、ヴィゴツキーの発達説等 発達と成熟、レディネス、学習、文化との関係性 第4回目：発達課題 発達段階と発達課題；ハヴィガーストの考え、エリクソンの心理・社会性の漸成的発達論等 第5回目：愛着と人間関係の発達 愛着と依存、愛着の形成・発達、応答性と相互作用、愛着の発達段階、 初期経験と愛着の形成が発達全般に及ぼす影響 第6回目：心身の機能の発達（概要チャート） 心身の機能発達の相互関連性 第7回目：心身の機能と遊びの発達① 遊びの理論、遊びの特性、遊びの展開、社会的参加度と遊びの発達 第8回目：心身の機能と遊びの発達② 運動機能、認知機能と遊びの発達（乳児期、幼児前期） 第9回目：心身の機能と遊びの発達③ 運動機能、認知機能と遊びの発達 遊びから課題活動の発達へ（幼児後期以降） 第10回目：心身の機能と遊びの発達④ 視点取得能力の発達、社会的な認知的葛藤、対人関係と創造性・問題解決技能の 発達、認知スタイルの発達 第11回目：言語の発達 言語発達の流れ、メタ言語能力の発達、言語発達と思考 第12回目：思考・知能の発達 表象能力の発達、操作的思考・知能の構成 第13回目：自己概念の発達 自他の分化、名前の認識、性同一性、自尊心、社会的自己、自己主張と自己抑制の発達 第13回目：社会性の発達 対人関係、友人関係の発達、社会的技能の発達 第14回目：道徳性の発達 規範意識、道徳行動の発達、向社会性の発達、共感と思いやりの発達 第15回目：発達と障害 多重知能理論と心身の機能発達の個人内、個人間における多様性と適応について					
テキスト 新井邦二郎 編著『図でわかる発達心理学』福村出版 ※別途説明用資料を授業内で配布。					
参考書・参考資料等 小田豊・森眞理 編著『子どもの発達と文化のかかわり』光生館 ※別途参考書を授業の中で紹介する。					
学生に対する評価 課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（33%）とレポート試験（67%）の総合評価					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名 佐藤 寛之
保育の心理学 (学習) (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1学年	

授業の到達目標及びテーマ

本授業のテーマは、学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的考え方を理解することである。そこで、幼児教育・保育実践に必要と考えられる、現代社会に対応した学習能力の育成のために、①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解すること、②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方を発達の特徴と関連付けて理解すること、③乳幼児、児童の心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解すること、を到達目標とする。

授業の概要

本授業では、現代社会に対応した学習能力の育成という観点から、幼児理解の基礎としての観察、学習と知能の理論、適性処遇相互作用と教授学習理論、特にアクティブ・ラーニングと、その基礎となる学習に関わる動機づけの概念、集団づくり、評価と主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。

事前・事後学習の内容

事前学習として、周囲で見かける子どもの行動に関心を持ち、教育実習（1年次）において、できないことが、できるようになっていく変化の様子や年齢によるできることの違いと、保育者子どもへの関わり方を観察しておくこと。前期に学習した、保育の心理学（発達）の学習内容を復習しておくこと。子どもに自信、意欲を持たせる関わり方について事前に調べるなどして、自分なりに有効と思える方法を考えておくこと。事後学習としては、本演習で学習した内容と他教科での学習内容、及び自身の体験、考え等と照合し、発達と教育、学習の関係性の理解を深める努力をすること。

授業計画

- 第 1 回目 教育心理学とは 教育と心理学の関係性、現代社会が必要とする学習能力：問題解決技能の育成
- 第 2 回目 幼児理解の基礎 自然的観察と実験的観察、教育場面での参与観察の有用性
- 第 3 回目 学習と知能の諸理論 発達と学習、学習の基礎的様式を理解、多重知能理論と知能の三部理論
- 第 4 回目 適性処遇相互作用（ATI） 処遇と個人の適性・特性の組み合わせがもたらす学習効果の差異
- 第 5 回目 教授学習理論 一斉学習、バズ学習、プログラム学習、オープン教育、発見学習、有意味受容学習、ジグソー学習、視聴覚教育、メディア教育、体験学習
- 第 6 回目 アクティブ・ラーニング 問題解決技能の育成を図る主体的学習
- 第 7 回目 動機づけと学習① 欲求の階層説、動機づけの要因—外発的動機づけと内発的動機づけ、動機づけと学習過程の関係性
- 第 8 回目 動機づけと学習② 内発的動機づけの諸理論：認知的動機づけ、達成動機づけ—成功追求動機と失敗回避動機、自己決定理論、学習の統制感
- 第 9 回目 動機づけと学習③ 帰属理論と動機づけ—原因帰属、学習された無力感の克服、自己効力感の育成
- 第 10 回目 動機づけと学習③ 動機づけと自他の認知：期待効果—ピグマリオン効果、社会的現実の構築、教師期待効果と学習支援
- 第 11 回目 動機づけと学習④ 自尊心の維持、高揚と社会的比較過程及び自己提示と学習、競争と協同的狀況がもたらす効果、自尊心を高めるかわり方
- 第 12 回目 主体的学習を支える集団づくりアプローチ：発達に沿った支援の流れ
- 第 13 回目 教師・保育者に求められる特質、カウンセリング・マインド：人格を尊重し、自己成長力を育む子どもへのかわり方
- 第 14 回目 カウンセリング・マインドの効用から見た望まれる教師・保育者像
- 第 15 回目 子どもの内面性の理解とそれを踏まえた評価

テキスト

藤土圭三 監修『心理学からみた教育の世界』北大路書房 ※別途説明用資料を授業内で配布。

参考書・参考資料等

渡部雅之・豊田弘司 著『教育心理学Ⅰ：発達と学習』サイエンス社

※別途参考書を授業の中で紹介する。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（33%）とレポート試験（67%）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：講義 単位数：2単位	担当教員名
教育相談 (専門教育科目)	選択	必修		開講期：2学年 後期	小林聡子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>保育士・幼稚園教諭として、子育て支援としての教育相談の重要性を理解し、カウンセリングマインドの姿勢とスキルを身につける。また、乳幼児期の子どもとその保護者をめぐるさまざまな問題に対して、専門的な知識を習得し、柔軟かつ多面的に対応できるように支援方法について、理解を深める。</p>					
授業の概要					
<p>保育士・幼稚園教諭が行う教育相談について、その役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎を学ぶ。カウンセリングの基礎・技法および人間理解への臨床心理学的知識を習得し、子どもおよび保護者支援への理解を深める。配慮の必要な保護者の支援について、ロールプレイや事例を通して学ぶ。また、コミュニケーションスキルを高め、保護者との信頼関係を結ぶための一つの方法として、アサーションの知識と実践について学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>実習や他授業の事例について、子どもの視点や保育者の視点だけでなく、保護者の視点からも考える習慣をつけておくこと。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：教育相談とは ー教育相談の役割と特徴、子どもと保護者への支援について考える 第2回目：カウンセリング態度の基礎および技法①ー来談者中心療法について 第3回目：カウンセリング態度の基礎および技法②ーアセスメントおよびその他の心理療法について 第4回目：人間理解のための臨床心理学概論①ー精神障害への理解（統合失調症、うつ病、不安障害） 第5回目：人間理解のための臨床心理学概論②ー精神障害への理解（パーソナリティ障害、PTSD） 第6回目：子どもの発達理解ー発達段階と発達課題、感情コントロールについて 第7回目：子どもの発達と臨床①ー子どもの問題行動について 第8回目：子どもの発達と臨床②ー虐待への対応、トラウマを受けた子どものケアについて考える 第9回目：子どもの発達と臨床③ー発達障害について 第10回目：配慮の必要な保護者への支援①ー障害やその傾向のある子どもをもつ保護者への支援 第11回目：配慮の必要な保護者への支援②ー障害のある保護者への支援 第12回目：保育者の行う教育相談の具体的展開①ー事例検討を通し、教育相談の進め方について学ぶ 第13回目：乳幼児をもつ家庭への理解ー日本の子育て環境および産後の親のメンタルヘルスについて 第14回目：子どもの社会性を育てるーSSTおよびアサーショントレーニングについて 第15回目：保育者の行う教育相談の具体的展開②ー事例検討を通し、外部専門期間との連携について学ぶ</p> <p>定期試験</p>					
テキスト					
<p>指定しない。資料を授業内で配布する予定である。</p>					
参考書・参考資料等					
<p>吉田圭吾 著 『教師のための教育相談技術』金子書房 平木典子・沢崎達夫・土沼雅子 編著『カウンセラーのためのアサーション』金子書房</p>					
学生に対する評価					
<p>毎回、授業内で提出する小レポート（26%）、 授業に取り組む姿勢・態度（24%）、定期試験（50%）の総合評価</p>					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 講義 単位数： 2単位	担当教員名
子どもの理解と援助 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1 学年 後期	細野 美幸
授業の到達目標及びテーマ					
<p>保育における子どもの理解の意味・意義を理解する。子どもの行為や表現する事柄にもとづいて具体的に子どもを理解する方法や保育者としての対応の仕方を学ぶ。記録をもとにした子ども理解の基礎的な方法と視点を学習する。さらに、子どもを取り巻く家庭・園・地域などの環境と子ども理解についての関連性について理解し、子どもの育ちと子育てを支援する方法について考えていく。</p>					
授業の概要					
<p>子ども理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身に付ける。また、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付ける</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>毎回テキストの該当箇所を事前に読み込んでおくこと。また、授業後は毎回授業の内容について復習し、指定の形式のレポートがある場合は取り組んでおくこと。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：保育の出発点としての子ども理解—保育の場における子ども理解の意味 第2回目：子どもの発達に関わる様々な課題—子どもの気になる行動の課題を捉える 第3回目：子どもの自己表現と受容する他者との関係—「わたし」と保育者との関係 第4回目：子どもの発達や学びの過程を捉える視点—子どもの遊びと発達の関係 第5回目：「自分」の世界と「友達」の世界の広がり—協同性の発達を理解する 第6回目：気になる子どもの事例からの学び—子どものSOSを読み取る 第7回目：気になる行動への教師の対応—理解者・援助者・心の拠り所としての保育者 第8回目：観察・記録の方法と分析・考察の視点—子ども理解のための様々な方法 第9回目：演習：観察・記録の実際—記録の意味と視点を学ぶ 第10回目：観察・記録のまとめについての協議—子どもに対する多様な見方・考え方に気づく 第11回目：観察・記録からの子ども理解と学びの読み取り—子どもの学びを読み取る 第12回目：子育てに関わる現代的な課題—統計資料から子育て支援の課題を理解する 第13回目：カウンセリングの技—保育実践の中のカウンセリングマインド 第14回目：演習：保護者への対応のロールプレイ—保護者・子・保育者の関係について考える 第15回目：支援体制の整備と家庭や地域との連携—子育て支援と地域の関連専門機関との関わり</p>					
テキスト					
『子ども理解とカウンセリングマインド—保育臨床の視点から—』青木久子編、萌文書林					
参考書・参考資料等					
授業内で適宜紹介する。					
学生に対する評価					
定期試験（60％）、授業参加態度（40％）					

授業科目名 保育・教職実践演習 (幼稚園) (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	担当教員名 佐藤寛之、本田幸 (他に専任教員15名 非常勤講師 梅原正美)
	選択	必修	必修	開講期： 2学年 後期	
授業の到達目標及びテーマ 幼稚園教諭・保育士になるために必要な実践力に関して、「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任、使命感 教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」の観点を踏まえた 演習、学習活動を展開することにより、幼稚園教諭、保育士になるために必要な実践力を進化させ、その能力 的統合を図ることで保育・教育実践に必要なコンピテンシーを高める。					
授業の概要 幼稚園教諭・保育士になるために必要な実践力に関して、「幼児教育・保育者の役割、職務内容、責任、使命感 教育的愛情」「社会性、対人関係能力」「幼児理解、クラス経営」「教科、保育内容の指導力」の観点から、各 自の修得状況を総合的に自己分析・診断する。各教科の教員の授業から、保育の理論と実践をもう一度振り返り、 それぞれの専門性を自分のものとする。各授業での実践や演習課題に取り組み、総合的な保育の学びへと結びつ ける。保育内容（5領域）に関する内容については、保育計画、指導案作成に取り組み保育実践力につなげる。					
事前・事後学習の内容 今までの全教科の学習内容、特に2回の教育実習、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ等の学習内容をしっかり再確認して おくこと。今までの学びを通じて、幼児教育者・保育者に求められることは何かを整理しておくこと。					
授業計画 第1回目：この科目の目的・趣旨（履修カルテ、学習成果の振り返り） 保育という営み 第2回目：0才から6歳までの発達過程の理解 第3回目：養護（1）養護は保育・教育の基盤 養護（2）災害への対応と日々の備え 第4回目：教育課程・全体的な計画（保育計画） 第5回目：健康の領域 第6回目：言葉の領域 第7回目：環境の領域（1）自然の領域 環境の領域（2）物的環境 第8回目：表現の領域（音楽リズム） 第9回目：表現の領域（造形） 第10回目：人間関係の領域 保育の総合性・幼保小連携一遊びを通した総合的な学び 第11回目：文化と保育（1）手あそびうたで育ち合う 文化と保育（2）保育の中の多文化 第12回目：乳児保育 第13回目：保育と福祉の接点（1）障害、児童虐待など 保育と福祉の接点（2）施設保育者による子どものアタッチメント形成の支援 第14回目：子育て支援 第15回目：保育者となる私の課題 まとめ（履修カルテ、学習成果の振り返り）					
テキスト 佐藤寛之他編、授業担当教員著『保育・教職実践演習』学校法人白峰会横浜女子短期大学 授業内容に応じて必要な教材資料を配布。必要な図書資料について指示。					
参考書・参考資料等 必要な参考書、参考資料については授業内で紹介をおこなう。					
学生に対する評価 授業に積極的に取り組む態度（10%）、各授業の演習課題評価点の合計（90%）を合わせて総合的に評価する。					

授業科目名 保育環境構成技術(音楽) I (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	担当教員名 篠原万喜子 中村みどり 梅原恵子 佐々木美奈子 中村美雪 丹澤規子 大石由起子 花田えり佳
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 通年	

授業の到達目標及びテーマ

初心者は、楽典の基礎やピアノ実技の基礎的な技術を習得する。並行して、保育現場で必要な、やさしい童謡曲の合奏や伴奏を弾きながら歌えるようにする。前期は主に春と夏の童謡を、後期は主に秋と冬の童謡に取り組む。経験者は、童謡や行事のうたを中心に季節に関わらず、合奏したり弾き歌いができるようにする。また、実習前には実習で行う曲を中心に習得する。

授業の概要

表現活動を行うための技能・知識を習得し、表現力を身に付ける
現場に備えられていることの多いピアノを用いながら、表現する技術を習得する

事前・事後学習の内容

教材とピアノ実技計画一覧をもとに、それぞれの経験の範囲で、授業で取り組む内容を事前に練習し、授業に出席する。事後として次に練習するところを、教員は学生へ伝えておく。

授業計画

- 第 1 回目：・MLシステムの楽器の使い方・〈指番号と、高音部譜表の音符の読み方の習得〉(メト^oロズ^o P. 4～P. 7)
- 第 2 回目：・高音部譜表と低音部譜表の音符の読み方(メト^oロズ^o P. 6～P. 11)
- 第 3 回目：・音符の種類・右手と左手を異なる音部記号を見ながら同時に動かす練習(メト^oロズ^o P. 8～P. 13)
(大譜表が読めるようにする)
- 第 4 回目：・休符の種類〈・スラーとスラーを切る練習〉(メト^oロズ^o P. 12～P. 14) ・0.1才児へ向けた童謡
- 第 5 回目：・拍子記号・リズムソルフェージュ〈左手の分散和音の伴奏形態を習得〉(メト^oロズ^o P. 14～P. 15) ・0.1才児へ向けた童謡
- 第 6 回目：・#・b・q記号の説明 〈・ソのポジションを習得〉(メト^oロズ^o P. 15～P. 17) ・2才児へ向けた童謡
- 第 7 回目：・加線の説明〈・いろいろのポジションを習得〉(メト^oロズ^o P. 17～P. 19) ・2.3才児へ向けた童謡
- 第 8 回目：1年次教育・保育実習の準備・6度音程の習得(メト^oロズ^o P. 20～P. 21) ・3.4才児へ向けた童謡
- 第 9 回目：1年次教育・保育実習の準備〈・付点音符の練習〉(メト^oロズ^o P. 20～P. 23) ・4.5才児へ向けた童謡
- 第10 回目：1年次教育・保育実習の準備〈・シャープ記号の練習第〉(メト^oロズ^o P. 22～P. 25) ・4.5才児へ向けた童謡
- 第11 回目：・楽典前期の復習・休符の練習(メト^oロズ^o P. 24～P. 27) ・4.5才児へ向けた童謡
- 第12 回目：・前期学習内容の振り返り・8分音符の習得(右手のみ)(メト^oロズ^o P. 28～P. 29) ・2才児、5才児へ向けた童謡
- 第13 回目：・前期学習内容の振り返り〈・8分音符の習得(左手にも8分音符を入れる)〉(メト^oロズ^o P. 28～P. 31) 0才児～5才児へ向けた童謡
- 第14 回目：発表の準備 課題曲の練習
- 第15 回目：広い教室で課題曲発表
- 第16 回目：・リズム ・ソルフェージュ〈・付点音符の習得〉(メト^oロズ^o P. 32～P. 33)
- 第17 回目：・長音程と短音程〈・付点音符の習得〉(メト^oロズ^o P. 32～P. 33) ・1.2才児へ向けた童謡
- 第18 回目：・完全音程〈・フラット記号の習得〉(メト^oロズ^o P. 33～P. 35) ・1.2才児へ向けた童謡
- 第19 回目：主要三和音と属七の和音〈・3/8拍子と6/8拍子の習得〉(メト^oロズ^o P. 36) 3.4才児へ向けた童謡
- 第20 回目：・長音階と調号・和音の転回形〈・第19回目の応用曲の練習〉(メト^oロズ^o P. 36～P. 37) 3.4才

児へ向けた童謡

- 第21 回目：・長音階とカデンツ〈・親指をくぐらせる練習〉(メトードローズ P.38) 3.4才児へ向けた童謡
第22 回目：・長音階とカデンツ〈・復習と4課のまとめ〉(メトードローズ P.38～P39) 4.5才児へ向けた童謡
第23 回目：・長音階とカデンツ〈・2つ以上の音を一度におさえる練習〉(メトードローズ P.40) 4.5才児へ向けた童謡
第24 回目：・短音階と調号〈・応用曲の練習〉(メトードローズ P.40～P41) 4.5才児へ向けた童謡
第25 回目：・やさしい伴奏付け〈・復習とラの短調のポジションを習得〉(メトードローズ P.40～P.43) 4.5才児へ向けた童謡
第26 回目：・やさしい伴奏付け〈・復習とソの短調のポジションを習得〉(メトードローズ P.43～P.45) 2才児～5才児へ向けた童謡
第27 回目：・後期学習内容の振り返り〈・復習とレの短調のポジションを習得〉(メトードローズ P.45～P.46) 2才児～5才児へ向けた童謡
第28 回目：・後期学習内容の振り返り〈・5課の復習〉(メトードローズ P.46～P.47) 2才児～5才児へ向けた童謡
第29 回目：発表の準備 課題曲の復習
第30 回目：広い教室で課題曲を発表

テキスト

安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社
吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1. Vol.2』音楽之友社
山本英子著『ぴあののアトリエ楽典レッスン1.2』共同音楽出版社

参考書・参考資料等

基礎的楽典他のプリントやピアノ実技計画一覧を配布する。
必要に応じて弾きやすいプリントを作成し資料として使用する。

学生に対する評価

音楽の基礎知識定着度(40%)、課題発表における音楽表現力(40%)
(グルーブレッスンを受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢(20%)の総合評価)

授業科目名 音楽ⅡB（ピアノ） （専門教育科目）	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 篠原万喜子 中村みどり 梅原恵子 中村美雪 丹澤規子 大石由起子 花田えり佳
	選択	本学 指定	本学 指定	開講期： 2学年 通年	

授業の到達目標及びテーマ

ピアノ教則本を最後まで習得する。終了した学生は、マーチ・小曲集の中から選曲し、音楽の幅広い表現力を身につける。

音楽ⅠBの曲より一段難しくなった童謡や行事のうたを習得する。また、実習前の時期には生活のうたや実習園より指定の曲も学ぶ。

授業の概要

1週間に1回、ピアノ個人レッスンの形で授業を受ける。1グループに約3人だが、それぞれの経験に合わせた内容で学ぶ。

ピアノ教則本と並行して童謡・行事のうた等を習得する。

また、実習園より指定のあった曲を、その時期に合わせて学ぶ。

事前・事後学習の内容

教材とピアノ実技計画一覧をもとに、それぞれの経験の範囲で、授業で取り組む内容を事前に練習し、授業に出席する。事後として次に練習するところを、教員は学生へ伝えておく。

授業計画

第1回目：指を広げる練習と連打音の習得(メト・ローズ P48～P49)

第2回目：強弱をつけて表現を学ぶ(メト・ローズ P50) 3.4 才児へ向けた童謡

第3回目：強弱をつけて表現を学ぶ(メト・ローズ P50～P51) 3.4 才児へ向けた童謡

第4回目：右手と左手を交互に強弱をつける(メト・ローズ P52) 4.5 才児へ向けた童謡

第5回目：右手に表情をつけながら左手の伴奏にも強弱をつける(メト・ローズ P52～P53) 4.5 才児へ向けた童謡

第6回目：和音を押す練習(メト・ローズ P54) 4.5 才児へ向けた童謡

第7回目：2年次教育・保育実習の準備 音をのぼしながら和音を押す練習(メト・ローズ P55)

第8回目：2年次教育・保育実習の準備 音階の習得(メト・ローズ P56)

第9回目：2年次教育・保育実習の準備 全課のまとめ(メト・ローズ P57)

第10回目：2年次教育・保育実習の準備

第11回目：0才～3才児へ向けた童謡 付点音符のリズムとそうではないリズムの組み合わせを習得

第12回目：0才～5才児へ向けた童謡 和音で付点音符のリズムを習得

第13回目：0才～5才児へ向けた童謡

第14回目：発表の準備 課題の練習

第15回目：広い教室で課題曲を発表

定期試験

第16回目：教育・保育実習での音楽表現の振り返り

第17回目：4.5才児へ向けた童謡

第18回目：4.5才児へ向けた童謡

第19回目：4.5才児へ向けた童謡

第20回目：小曲集より幅広く子どもたちへ伝えられる曲

第21回目：小曲集より幅広く子どもたちへ伝えられる曲

第22回目：0才児～5才児へ向けた童謡

第23回目：0才児～5才児へ向けた童謡

第24回目：自分で選んだ3曲をグループごとに発表

第25回目：自分で選んだ3曲をグループごとに発表

第26回目：第17～25回の振り返り、確認 発表会の振り返り

第27回目：現場で行う音楽表現

第28回目：現場で行う音楽表現

第29回目：現場で行う音楽表現

第30回目：現場で行う音楽表現

テキスト

安川加寿子訳編『メトードローズ・ピアノ教則本』音楽之友社

吉田梓監修『子どもとたのしむ童謡カレンダーVol.1. Vol.2』音楽之友社

マーチのプリント配布 吉田梓編著『ピアノ・レッスン』エー・ティー・エヌ

参考書・参考資料等

ピアノ実技計画一覧を、資料として配布する。

必要に応じて弾きやすいプリントを作成し授業内で紹介し、配付する。

学生に対する評価

ピアノ個人（グループ）レッスンを受けるにあたり、事前学習、事後学習を含めた積極的に取り組む姿勢、態度（50%）と半期ごとの課題発表（50%）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名
音楽ⅡA(ML・合奏) (専門教育科目)	選択	本学 指定	本学 指定	開講期：2学年 通年	佐々木美奈子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>音楽ⅠA、ⅠBで学んだことを基に、音楽の基礎知識と技術をより実践的なものに発展させていきます。コードネームの仕組みを理解し、自ら旋律に合うコードと伴奏型を考えて楽譜に書けるようにすることを目標とします。</p>					
授業の概要					
<p>コードネームによる伴奏付けを学習し、保育の現場で役立つ童謡、生活のうたのレパートリーを増やします。また、ピアノ連弾や器楽合奏のアンサンブルを行い、音楽の楽しさ、美しさを味わい、子供たちに伝えられるための感性を養います。ディズニーなど、学生自身も楽しめるジャンルの楽曲にも取り組みます。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>日頃から音楽に親しみ、楽しむ。毎日少しでもピアノに触れるようにする。 音楽ⅠAの復習をしておくこと。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：1年次の復習 音階と調号 第2回目：自然短音階 「おはようのうた」 第3回目：和声短音階 「おべんとう」 第4回目：ダイアトニックコード 第5回目：主要三和音 第6回目：属七の和音 「おかたづけ」 第7回目：2年次教育・保育実習の準備 「おかえりのうた」 第8回目：2年次教育・保育実習の準備 「ハッピーバースデー」 第9回目：2年次教育・保育実習の準備 転回形 第10回目：2年次教育・保育実習の準備 速度記号、強弱記号 並進行の伴奏 第11回目：第1～10回の復習 第12回目：前期実技試験 第13回目：前期筆記試験 第14回目：課題曲の練習 第15回目：ピアノ課題曲発表</p> <p>第16回目：前期の復習 第17回目：ハ長調の3コード 伴奏パターン① 第18回目：ハ長調の伴奏付け 第19回目：ト長調の3コード 伴奏パターン② 第20回目：ト長調の伴奏付け 第21回目：ヘ長調の3コード 伴奏パターン③ 第22回目：ヘ長調の伴奏付け 第23回目：伴奏付け課題演習① 第24回目：伴奏付け課題演習② 第25回目：伴奏付け課題発表、指導、提出 第26回目：ペダルについて 第27回目：コードネーム①</p>					

第28回目：コードネーム②

第29回目：コードネーム小テスト

第30回目：ピアノ課題発表

テキスト

吉田梓監修『童謡カレンダー Vol. 1、2』音楽之友社

山本英子著『ぴあのアトリエ 楽典レッスン1、2』共同音楽出版社

参考書・参考資料等

授業内で配布

学生に対する評価

期末筆記試験（50％）、課題実技試験（30％）、授業への参加度（20％）の総合評価

授業科目名 音楽表現 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 単位	担当教員名 横森弘之
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	

授業の到達目標及びテーマ (簡易リトミック・音楽理論・歌唱指導・重唱)

本授業のテーマは、幼児の表現の発達について理解するとともに、『豊かな感性と表現』の内容を音楽の実体験を通し、領域『表現』に関する専門事項を習得すること、また、幼児の感性の発達の姿や、発達にふさわしい援助を理解し、幼児期の感性と表現の育ちの全体像がとらえられる音楽的表現能力を習得することである。

具体的には、以下の8つの到達目標を設定している。

①幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できること、②表現の生成する過程について理解していること、③幼児の素朴な音楽表現を見出し、受け止め、共感することができること、④様々な音楽表現を感じる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができること、⑤身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした音楽表現ができること、⑥音楽表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができること、⑦協働して音楽表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができること、⑧様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができること。

授業の概要

領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。

事前・事後学習の内容

プリントや教科書の内容を授業終了前に確認し、次回に反映できるよう心掛ける。

授業計画

- 第1回： 領域「表現」のねらい及び内容の理解 教材 P6～8 童謡 P31～36
幼児教育における領域「表現」の位置付けについて理解する。また、自分自身の表現を振り返りその生成過程における内的な作用の重要性やモノとの関わりについて理解する。
- 第2回： 幼児の表現の発達の理解 教材 P10～11 童謡 P37～40
乳幼児の表現の芽生えの発達について理解し、幼児の素朴な表現に気付くことができる。
- 第3回： 環境との対話 教材 P12～13 童謡 P43～46
身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性を豊かにする。自らの感性を環境にひらき、感性的な出会いの豊かな環境と表現の関係について理解する。
- 第4回： 身の周りの音・声・楽器による音楽遊び 教材 P13～14 童謡 P46～49
生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付く。声や動き等、自ら創り出す音の多様性を生かした表現を行う。声や楽器等を用いて、応答的な音楽表現を即興的に行う。
- 第5回： 豊かな表現のために 教材 P14 童謡 P51～53
季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような、表情豊かな歌唱表現を身に付ける。合唱や合奏等のアンサンブルを通じ、音や声の重なり 合う美しさを体験する。
- 第6回： 簡易な楽器を用いて、幼児の発達に即したリズム遊びの展開例の考案 教材 P15 童謡 P54～56
わらべうたや手遊び歌を体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。
- 第7回： イメージを音に表現 教材 P14 童謡 P59～62
心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使い、協働して表現する。言葉のイントネーションやリズムを生かし、協働して簡易な曲を創作する。

- 第8回： ICTの活用と総括 教材 P15 童謡 P63～64
ICTを活用した音楽表現活動を具体的に考える。学習のまとめを発表する
- 第9回： ことばのイメージを創造する 教材 P15 童謡 P64～69
生活や遊びの中で歌っている曲にテーマを決めて、『替え唄』にして楽しむ
- 第10回： 即興表現を考える 童謡 P70～72
生活や遊びの中で使っている子どもたちの言葉から、それを即興で歌にして表現する
- 第11回： ボディーパーカッションの定義と実践 1. 童謡 P75～80
- 第12回： ボディーパーカッションの定義と実践 2. 童謡 P83～85
- 第13回： 幼小接続（乳幼児期に育まれる音楽表現と小学校低学年音楽科での学びとの連続性）の理解と、歌唱の実践 童謡 P86～90
- 第14回： 幼小接続（乳幼児期に育まれる音楽表現と小学校低学年音楽科での学びとの連続性）の理解と、器楽の実践 童謡 P91～110
- 第15回： 幼児期の感性の育ちのまとめ及び学生による発表
- 定期試験 実技試験及び筆記試験

テキスト

「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「たのしく打楽器」共同音楽出版 「童謡カレンダー」東亜音楽出版
及び作成プリント

参考書・参考資料等

授業内で随時紹介する。

学生に対する評価

全授業を通じて、学習内容の様子や気づきをレポートにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に、学びの過程を評価する(70%)。その上で、最終レポートで学びの成果を評価する(30%)

授業科目名 音楽表現の指導法 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 横森弘之
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	
授業の到達目標及びテーマ 音楽表現の指導法 (楽器指導・合奏・即興アンサンブル演奏等) 本授業のテーマは、幼児の豊かな感性や表現する力、創造する力、他者の表現に共感する力、共同する力を援助する技術を習得すること、単に技術的なスキルではなく学生自身の感性を高め、幼児と共に共感できる資質を育成することである。 具体的には、以下の9つの到達目標を設定している。 ①領域「表現」のねらい、内容並びに全体構造を理解していること、②領域「表現」のねらい、内容を踏まえ、(特に音楽表現において) 幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解していること、③幼児教育における評価の考え方を理解していること、④領域「表現」(特に音楽表現) に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解していること、⑤幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解していること、⑥領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができること、⑦指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができること、⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けていること、⑨領域「表現」の特性に応じた(特に音楽表現における) 保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができること。					
授業の概要 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
事前・事後学習の内容 プリントや教科書の内容を授業終了前に確認し、次回に反映できるよう心掛ける。					
授業計画 第1回： 領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連付けながら理解する。 教材 P100～104 第2回： 乳幼児の発達の過程を理解し、表現活動において育みたい能力等について、具体的に考える。 教材 P107～109 第3回： 表現活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けながら、幼児の表現における評価の考え方を理解する。P109～110 第4回： 幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。 教材 P110～111 第5回： 幼児期の表現活動と、小学校の(教科での) 学習内容との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。 教材 P113～116 第6回： 音楽表現における保育実践の動向について学び、保育構想の向上に取り組む。 教材 P116～120 第7回： 音楽表現における保育実践の動向について学び、保育構想の向上に取り組む。 教材 P123～126 第8回： 豊かな感性を育み表現を引き出す言葉掛けについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用を考える。 教材 P126129 第9回： 感性豊かな音環境について、自ら身体の諸感覚を通じた体験を生かし、具体的な環境構成を考える 教材 P129～138 第10回： 表現活動における情報機器及び教材の活用法について学び、実際に体験することを通し、保育構想に活用できる具体案を考える。P138～139 第11回： 指導案作成について学び、音楽的なねらいについて具体的に考えるとともに、様々に教材研究を行う。 教材 P140～144					

- 第12回：モデルとなる指導案に基づいた保育実践をイメージしたり部分的に体験したりすることにより、保育者の援助について考える。 教材 P146～147
- 第13回：3歳未満児の音楽遊びの指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。 教材 P148～152
- 第14回：3歳～5歳児の音楽表現の指導案を作成して模擬保育を行い、その振り返りを通して保育の改善について考える。 教材 P153～157
- 第15回：ポートフォリオ等の作成を通して保育を振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む。 教材 P158～162

定期試験 実技及び筆記試験

テキスト

「幼児のための音楽教育」教育芸術社 「たのしく打楽器」共同音楽出版 「童謡カレンダー」東亜音楽出版
及び作成プリント

参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

学生に対する評価

演習・授業への取り組み・態度(50%) 提出物(50%)

授業科目名 声乐Ⅱ (専門教育科目)	卒業	幼児	保育士	授業形態： 演習 単位数：2 単位	担当教員名 横森弘之
	選択	本学 指定	本学 指定	開講期： 2 学年 通年	

授業の到達目標及びテーマ

2年の前期は1学年で学んだ声乐の基礎を更に発展するために声量・声域の拡大を目標としながら声楽曲・童謡及びハレルヤコーラス等を暗譜する。実習に行く前に授業内において音楽を中心とした模擬実習体験授業を、各グループに分けて実践する。又保育の現場で用いる楽器の扱い方及び実践を行い、合奏に発展していく。

2年の後期は童謡曲・合奏・模擬体験授業の他に卒業記念歌の『大地讃頌』が加わる。

学年のまとめとして、楽譜を見て歌う・弾く・書く・指揮・即興表現・指導計画等が授業の到達目標になる。

授業の概要

1年で学んだ声乐の基礎力を更に高める事と、グループ毎に音楽を中心とした模擬実習体験授業を行う。テーマを決め模擬実習を行うことにより、各自が指導のスキルを磨く。保育現場で必要な楽器の扱い方・子どもの年齢に合わせ童謡・ディズニー曲から選び合奏演奏する。

後期はハレルヤコーラス・大地讃頌の全体の仕上げ。模擬体験授業のまとめ。楽器の扱い方の筆記試験、及び声乐実技試験がある。童謡は世界の名歌も視野に入れて歌い、暗譜を目標に学習する。

事前・事後学習の内容

模擬実習体験授業はグループでの役割が極めて重要になるので、各グループ毎に練習をすること。

合奏はパートに分かれて演奏するので、各自楽譜をよく事前学習しておくことが大切である。

後期は就職後の事を考え、童謡以外の曲も授業に取り入れる。まとめのプリントを参照しながら、事前学習に役立てる。

授業計画

第1回目：春が来た・めだかのがっこう・ぶんぶんぶん・ソルフェージュ・視唱等・実習模擬授業

第2回目：はな・さくら・一年生になったら・いぬのおまわりさん・ソルフェージュ・視唱・実習模擬授業

第3回目：こいのぼり・おかえりのうた・おべんとう・ソルフェージュ・視唱・合奏・実習模擬授業

第4回目：かっこう・花のまち・おぼろ月夜・かえるのがっしょう・視唱・合奏・実習模擬授業

第5回目：せんせいとおともだち・うみ・かたつむり・つき・視唱・合奏・実習模擬授業

第6回目：ハレルヤコーラス・こもりうた・視唱・視唱・合奏・実習模擬授業

第7回目：1回目～3回目までの全復習・視唱・合奏・実習模擬授業

第8回目：4回目6回目までの全復習・視唱・合奏・実習模擬授業

第9回目：たなばたさま・シャボンだま・ミッキーマウスマーチ・視唱・合奏・実習模擬授業

第10回目：ハレルヤコーラス・茶摘み・ドレミのうた・視唱・合奏・実習模擬授業

第11回目：ハレルヤコーラス・われはうみの子・視唱・合奏・実習模擬授業

第12回目：ハレルヤコーラス・夏のおもいで・視唱・合奏・実習模擬授業

第13回目：ハレルヤコーラス・浜辺のうた・浜千鳥・視唱・合奏・実習模擬授業

第14回目：ハレルヤコーラス・9回目～11回目の全復習・視唱・合奏・実習模擬授業

第15回目：ハレルヤコーラスの練習及・12回目～13回目の全復習・視唱・合奏・実習模擬授業

定期試験

第16回目：こぎつね・夕焼け小焼け・七つの子・模擬体験授業・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第17回目：翼をください・赤とんぼ・浜辺のうた・模擬体験授業・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第18回目：四季のうた・サンタルチア・富士山・模擬体験授業・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第19回目：この道・浜千鳥・模擬体験授業・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第20回目：里の秋・もみじ・こおろぎ・模擬体験授業・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第21回目：Caro mio ben・のぼら・大きなくりの木の下で・模擬体験授業・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第22回目：まっかな秋・虫の声・もみじ・まつぼっくり・模擬体験授業・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第23回目：クリスマス曲・ハレルヤ・大地讃頌・合奏

第24回目：クリスマス曲・ハレルヤ・大地讃頌・合奏
第25回目：クリスマス曲・ハレルヤ・大地讃頌・合奏
第26回目：お正月・おしょうがつ・ハレルヤ・大地讃頌
第27回目：思い出のアルバム・まめまき・うれしいひなまつり・ハレルヤ・大地讃頌
第28回目：前期・後期の総復習・ハレルヤ・大地讃頌
第29回目：前期・後期の総復習・ハレルヤ・大地讃頌
第30回目：筆記試験及び解答・ハレルヤ・大地讃頌
定期試験

テキスト

「新版 声楽教本」教育芸術社

『たのしく打楽器』共同音楽出版

『童謡カレンダー』東亜音楽出版

参考書・参考資料等

授業内配布プリント

学生に対する評価

授業に積極的に取り組む姿勢(30%) 声楽実技(40%) 筆記試験(30%)の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：2単位	担当教員名
図画工作 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：2学年 通年	兼子真理

授業の到達目標及びテーマ

幼児の造形に見られる発達を作品や事例を通して理解し、具体的な造形遊び・表現活動の指導法を習得する。

授業の概要

1年次に「表現Ⅱ」で学んだことを基礎に色々な素材の特徴を研究する。また、幼児の造形に見られる発達段階を理解し、造形活動の狙いや留意点を学ぶ。具体的には、パネルシアターの制作、小麦粉ねんど作り、手作り絵本、壁面の装飾等を手掛け、保育者としての想像力、感性を高め、演習を通して表現活動の楽しさを体験する。

事前・事後学習の内容

1年次履修科目である表現Ⅱの学習内容を復習しておくこと
また、子どもと共に豊かな造形表現を楽しむために、どのような援助をしたらよいかを考え、普段の生活から身近な素材に目をむけること。

授業計画

- 第 1 回目：ガイダンス 授業展開、持ち物等についての説明
- 第 2 回目：紙袋を利用し、素材の特徴を考え、パクパク人形をつくる (Ⅰ)
- 第 3 回目：靴下を利用し、簡単な裁縫で装飾し、パクパク人形をつくる (Ⅱ)
- 第 4 回目：靴下のパクパク人形を完成させる
- 第 5 回目：乳幼児のねんど小麦粉ねんどをつくり感触を確かめる
- 第 6 回目：スパッタリングの技法を経験し、繊細な効果を楽しみながら留意点を確認する
- 第 7 回目：実習の準備とし、パネルシアターを各自で制作する (下描き)
- 第 8 回目：パネルシアターの着色をし、完成させる
- 第 9 回目：各自で制作したパネルシアターを発表し、気づき等を述べ合う
- 第 10 回目：タプローオブジェ (イメージを育てる造形あそび)
- 第 11 回目：基本から応用編が折れるように、折り紙を習得する
- 第 12 回目：造形の視点から絵本・紙芝居の違いを学ぶ
- 第 13 回目：実際に絵本・紙芝居を制作する
- 第 14 回目：素材・材料を選び、描画方法について理解し文字の大きさ・配色・配置について考え工夫をする
- 第 15 回目：対象年齢を考え、絵本か紙芝居のどちらかを完成させる
- 第 16 回目：壁面制作 (画用紙に季節を表現し、装飾するデザイン・構成を学ぶ)
- 第 17 回目：廃材利用① 新聞紙と木工用ボンドの特性を生かしコサージュづくり
- 第 18 回目：廃材利用② ごっこ遊びを経験する
- 第 19 回目：グループでお店屋さんごっこの準備をする
- 第 20 回目：実際にお店屋さんごっこを体験する
- 第 21 回目：カードづくり (運動会の案内状)
- 第 22 回目：幼児造形で使用される粘土の特徴を学び、実際に石粘土でキャンドルスタンドをつくる (成形)
- 第 23 回目：キャンドルスタンドの着色
- 第 24 回目：廃材利用③ 身近な廃材を利用し対象年齢を考え、遊べる玩具をつくる
- 第 25 回目：カードづくり (でんぐり紙を使用し、立体のクリスマスカードをつくる)
- 第 26 回目：カードづくり (でんぐり紙を使用し前回の経験を活かし、個人のクリスマスカードをつくる)
- 第 27 回目：カレンダー作り

第28回目：乳児の制作（シール貼りを疑似体験する）

第29回目：化学反応を利用し、スライムをつくり感触を楽しむ

第30回目：三原色と白色を使用し、自画像を描く

定期試験

テキスト

渡辺一洋著「幼児の造形表現」ななみ書房

参考書・参考資料等

宮川萬寿美 他 著「造形表現」青踏社

学生に対する評価

演習への積極的な取り組む姿勢、態度（40%）課題提出物（40%）試験（20%）の総合評価

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	担当教員名 堀内弓子
小児体育 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：2学年 通年	佐久間博子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>保育者として必要な身体づくり・動きづくりをする。また、保育の対象となる子どもの発育発達に必要な運動とその発達過程を自らの身体活動を通じて理解し、それを実践的に指導していく技術を習得することを目指す。</p>					
授業の概要					
<p>実践内容としては、「体操」「リズム運動」「様々な遊具を使った遊び」を取り上げる。それぞれの運動特性、運動遊具の取り扱いの習熟、指導の目標と方法について理解を深める。一方、特に運動発達の視点から保育のねらいである心情、意欲、態度を育てる指導・援助のあり方を考える。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>1年次教育・保育実習における学びで、保育の中の運動がどのように行われていたかを自らの実習日誌から読み取っておくこと。1年後期の「健康Ⅰ」1年通年科目の「体育実技」で学んだことを復習しておくこと。</p>					
授業計画					
<p>第1回目：子どもと共に楽しむ表現とは 前期授業内容の資料配布。</p> <p>第2回目：身体表現と身近な素材遊具① 一年次に学んだ徒手体操の基本を確認し、各動作の目的を正確に捉えて体操を行う。 紙等の特性を生かした運動あそびを知る。</p> <p>第3回目：身体表現と身近な素材遊具② 動的伸展動作と静的伸展動作の動きを習得し、柔軟性を高める。 紙等の特性を生かした運動あそびを考える</p> <p>第4回目：1年生との合同授業 1年生に教えることで、自らの動きを確認する。</p> <p>第5回目：身体表現と身近な素材遊具③ 「リズム運動」で他者と関わり、運動の楽しさを味わう。 グループで身近にあるものを使った運動あそびを発表する。</p> <p>第6回目：身体表現 これまで学習してきた体操やリズム運動を復習し、子どもと一緒に楽しさが共有できる実践方法を学ぶ</p> <p>第7.8回目：体育的行事① 本番の身体表現発表に向けて力を結集して準備する。 だっこ、おんぶ、肩ぐるま等を安全に行う方法や運動を通した子どもとの関わりを学ぶ。 緊急事態が起きた場合に備えて、安全確保のための子どもたちの集団行動のあり方を学ぶ。</p> <p>第9.10回目：体育的行事② これまでの授業の成果を発表。集団で身体表現することの楽しさと、その達成感を共有する。 実際に子どもと1対1でかかわり、心身の発育発達状況や個人差を学ぶ。</p> <p>第11回目：身近な素材遊具を使った遊び・リズム運動・バルーン遊び</p> <p>第12回目：身体表現と固定遊具① 表現Ⅱで制作した旗を使った身体表現を楽しむ。 鉄棒や肋木に親しむ。</p> <p>第13回目：身体表現と固定遊具② 歌詞をきっかけにした表現を楽しむ。 「ぶらさがる」「ささえる」運動遊びを実践的に学ぶ。</p> <p>第14回目：身体表現と固定遊具③ 歌詞からイメージを膨らませて、歌いながら表情豊かに動く。 鉄棒あそびを考える。</p> <p>第15回目：身体表現と固定遊具④ 身体表現で学んだことの総まとめと発表 鉄棒あそびの発表 前期授業内容をまとめた体育ノート提出</p>					

- 第16回目：運動会① 保育における運動会の行事特性や子どもにとっての運動会のメリットとデメリットを挙げ、保育者としての援助の在り方を考察する。
運動会の進行・誘導・審判等の実際を学ぶ。
- 第17回目：運動会② 当日の進行を確認し、運動会全体の流れと自己の役割を理解する。
- 第18回目：運動会③ 運動会に期待感を持ち、主体的に取り組み、身体運動からの感動・達成感・充実感を味わう。
- 第19回目：運動会④ 自らの体験を通して、子どもにとっての運動会についての考察を深める。
- 第20回目：組立体操① 子どもが行う組立体操（既成作品）実施。創作のポイントと注意点を教える。
後期授業内容の資料配布。
- 第21回目：組立体操② 組立体操の創作と発表。他のグループの作品を見て学ぶ。
- 第22回目：身体表現① 身体表現作品を創作するためのポイントを学ぶ
- 第23回目：身体表現② 身体表現を楽しむための創作活動（グループ）
- 第24回目：身体表現③ グループごとに創作した身体表現作品の発表
- 第25回目：ドッジボールと季節に合わせた身体表現を楽しむ
- 第26回目：ドッジボールと身体表現作品のテスト
- 第27回目：ソフトバレーボールを通して全員が楽しく安全に実施できるルール作りを考える
- 第28回目：ソフトバレーボールを通して子どもが楽しめるルール、用具を考える
- 第29回目：伝承遊びと掛け声を楽しむ身体表現作品紹介
- 第30回目：作品のおさらい これまで学んできた身体表現作品を実施。積み重ねてきた後期授業内容の学びをまとめた「体育ノート」を提出。

テキスト

橋本妙子・堀内弓子著『子どもの運動あそび』啓明出版

参考書・参考資料等

授業内で随時、紹介する。

学生に対する評価

課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（50%）と運動技術課題や体育ノート等の提出物（50%）の総合評価

授業科目名 保育内容総論 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 鶴野澤武美
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	
授業の到達目標及びテーマ 保育の基本姿勢と、保育内容の全体構造について理解する。幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育の領域について理解する。さらに、園生活全体を視野に入れて子どもの遊びや活動は総合的なものであることを理解し、指導計画の考え方や具体的な保育実践につなげる。					
授業の概要 乳幼児保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付ける。					
事前・事後学習の内容 保育内容、保育の領域について深く学ぶために、前期に履修した保育原理や各領域のねらい及び内容を復習しておくこと。また、実習で経験したこと、学んだこと、疑問点などを整理し、自分が保育者であったらどうするかというイメージを持って授業に臨むこと。					
授業計画 第 1 回目：幼児教育における遊びを通した指導 ー園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解する 第 2 回目：子どもの遊びを分析して、どのような経験をしているのか話し合う ー視聴覚教材を活用し、幼児の自由遊び場면을観察し理解する 第 3 回目：幼児教育における環境構成を通した実践 ー園生活全体を通して遊びの中でどのような経験をしているかについて話し合う 第 4 回目：環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う ー視聴覚教材を活用しながら、外遊びでの環境構成を観察し理解する 第 5 回目：幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながり ー遊びを通して総合的に育つことを理解する 第 6 回目：乳児・低年齢児の子ども理解と子どもの生活 ー乳児・低年齢児の子ども生活・遊びを理解する 第 7 回目：支援を要する子ども理解とクラス運営および指導上の配慮 ー支援を要する子どもの生活・遊びと保育者の役割や環境構成を理解する 第 8 回目：「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と活動のつながり ー乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する 第 9 回目：幼保小の連携について考え、幼児教育における見方・考え方を話し合う ー幼児教育と小学校教育の違いについて学ぶ 第 10 回目：幼児教育における教育課程・指導計画について ー実際の教育課程・指導案について調べ、指導法について学ぶ 第 11 回目：幼児教育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について ー実際の長期指導計画・短期指導計画について調べ、指導法について学ぶ 第 12 回目：行事に向けての長期指導計画・短期指導計画について ー視聴覚教材を活用しながら、行事の在り方や指導法について学ぶ 第 13 回目：「はじめてのお弁当（給食）」をどのように指導するのか学ぶ ー日案を作成し、子どもの食事の在り方や指導法について学ぶ 第 14 回目：模擬保育を目指して指導案を作成する ー子ども理解、目標、保育の内容、保育者の役割、評価について学ぶ 第 15 回目：模擬保育をグループで実施する ーねらい及び内容に沿って指導することを実践で学ぶ 定期試験					
テキスト 神蔵幸子 宮川満寿美 編『保育内容総論』青踏社					

参考書・参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

厚生労働省『保育所保育指針解説書』

内閣府 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

『保育用語辞典』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業に関して積極的に取り組む態度、レポート課題（30%）と筆記試験（70%）の総合評価

授業科目名	卒業	幼児	保育士	授業形態：演習 単位数：2単位	担当教員名 二階堂 邦子・石山 直樹
保育内容研究 (専門教育科目)	選択		必修	開講期：2学年 通年	三田 沙織 ※一部、関連科目担当教員による指導あり
授業の到達目標及びテーマ <p>子どもの発達、保育内容の成り立ちについて学習してきたことをもとに、子どもの視点を通じた表現活動をグループで行います。それを子どもたちの前で発表することによって、保育の総合性を理解します。また、グループ活動のなかで互いに認め合い・助け合い・高めあっていくことを通じて、学生一人ひとりの人間性や保育者としての資質を高めていきます。さらに、活動を通じて達成感を得ることで、保育者となるにあたっての自信をもてるようにします。</p>					
授業の概要 <p>子どもたちにとってよりよい表現活動を展開するにはどうしたらよいかをグループで考え、テーマの選定と発表内容の構成を行います。その後、メンバー一人ひとりの役割(舞台上の出演者および音響、照明など)を決め、脚本、衣装・大道具・小道具などをグループのメンバー全員での協力のもとで制作します。そして、最終的には1月に実施する「保育内容研究発表会」において、附属・関連施設の子どもたちの前で発表をします。</p>					
事前・事後学習の内容 <p>実習や就職活動が入るなど、限られた時間で活動することになりますので、放課後や空き時間、さらには自宅などでも小道具や衣装の作成、台本や動きを覚えるなどの準備を進めるよう心がけてください。また、自分だけではなくグループ内の他のメンバーの様子にも気を配り、お互いに助け合う姿勢をもつようにしてください。</p> <p>なお、時間があれば、プロが行う演劇やミュージカルなどを鑑賞してみてください。よりよい発表を行うための参考となるでしょう。</p>					
授業計画 (前期) 第1回目：オリエンテーション (授業のねらいと評価) 第2回目：グループ分け、「お話」の構成について 第3回目：テーマの選定に向けた教材研究 第4回目：テーマ、発表内容の調整 (発表内容の決定) 第5回目：グループでの活動 (活動計画書の作成) 第6回目：グループでの活動 (脚本、衣装ラフ画作成) 第7回目：グループでの活動 (脚本、小道具ラフ画作成) 第8回目：グループでの活動 (脚本完成、読み合わせ) 第9回目：グループでの活動 (脚本の修正、読み合わせ) 第10回目：グループでの活動 (音響・照明に関する説明) 第11回目：グループでの活動 (立ち稽古、小道具制作) 第12回目：グループでの活動 (他のグループの立ち稽古の鑑賞) 第13回目：グループでの活動 (立ち稽古を鑑賞しての振り返り) 第14回目：グループでの活動 (立ち稽古、小道具制作) 第15回目：前期の取り組みについての振り返りとまとめ			授業計画 (後期) 第16回目：オリエンテーション (後期の授業の進め方) 第17回目：グループでの活動 (立ち稽古) 第18回目：学年全体での立ち稽古の相互鑑賞と評価 第19回目：グループでの活動 (立ち稽古、衣装制作) 第20回目：グループでの活動 (立ち稽古、衣装制作) 第21回目：グループでの活動 (立ち稽古、大道具制作) 第22回目：グループでの活動 (立ち稽古、大道具制作) 第23回目：グループでの活動 (立ち稽古、大道具制作) 第24回目：グループでの活動 (立ち稽古、大道具制作) 第25回目：グループでの活動 (リハ前の最終立ち稽古) 第26回目：リハーサル (音響業者立会い) 第27回目：リハーサルを経ての、発表内容の最終調整 第28回目：直前通しリハーサル (音響業者立会い) 第29回目：「保育内容研究発表会」本番 第30回目：1年間の取り組みの振り返りとまとめ		
テキスト 特に指定しません。適宜プリントを配付して授業を行います。					
参考書・参考資料等 グリム童話、アンデルセン童話、イソップ物語、日本や海外の国々の昔話など。 その他、劇、オペレッタ、紙しばい、影絵、手あそび歌など、各グループの発表内容に応じて適宜紹介します。					
学生に対する評価 グループ活動 (プロセス・発表) の内容 (60%)、グループ活動への参加度 (20%)、レポート (自己の振り返り) (20%)					

授業科目名 健康 (専門教育科目)	卒業 必修	幼免 必修	保育士 必修	授業形態： 演習 単位数： 1単位 開講期： 1学年 後期	担当教員名 堀内弓子
授業の到達目標及びテーマ					
乳幼児の「からだ」と「こころ」の発達と健康についての現状や問題点を理解し、保育実践に役立つ領域「健康」の指導の知識を学び、技能を身につける。科学的な視点から実践事例を分析する力と各種事例報告をグループ討議により、「健康」の指導上の留意点について深く考える力を身につける。					
授業の概要					
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。					
事前・事後学習の内容					
これまでの教育実習で学んできた保育の中の子どもの運動あそび場面の環境や保育者の援助の在り方について、自分の実習日誌に記述したことを復習しておくこと。1年次前期の授業「体育講義」・「体育実技」で学修した自分自身の「からだ」と「こころ」の健康維持増進のために必要な実践的知識と技能について復習しておくこと。					
授業計画					
第 1 回目：乳幼児期の健康課題 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康 その1					
第 2 回目：乳幼児期の健康課題 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康 その2					
第 3 回目：乳幼児の身体の発達の特徴 乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達 その1					
第 4 回目：乳幼児の身体の発達の特徴 乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達 その2					
第 5 回目：乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の獲得及び生活リズムの形成とその意義 その1					
第 6 回目：乳幼児期の生活習慣の形成 乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の獲得及び生活リズムの形成とその意義 その2					
第 7 回目：幼児の安全教育と危険（リスクとハザード） 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理					
第 8 回目：幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防 幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置の基礎及び病気の予防					
第 9 回目：乳幼児期の運動発達の特徴 運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味、及び両者の関係 その1					
第 10 回目：乳幼児期の運動発達の特徴 運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味、及び両者の関係 その2					
第 11 回目：乳幼児期の運動発達の特徴 運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味、及び両者の関係 その3					
第 12 回目：日常生活における運動 社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方 その1					
第 13 回目：日常生活における運動 社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方 その2					
第 14 回目：遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方 その1					
第 15 回目：遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方 その2					
定期試験					
テキスト					
吉田伊津美著『乳幼児教育・保育内容シリーズ 保育内容 健康』光生館、2018					

参考書・参考資料等

近藤充夫著『幼児の運動と心の育ち』世界文化社、1994

幼児期運動指針ガイドブック 文部科学省編

その他、授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。

学生に対する評価

授業への取り組み・討論への貢献度（40%）、発表・レポート（30%）、筆記試験（30%）

授業科目名 健康Ⅱ（指導法） （専門教育科目）	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 堀内弓子
	選択	選択	選択	開講期： 2学年 後期	
授業の到達目標及びテーマ					
主に運動的な視点から「領域 健康」を考える。子どもの「からだ」と「こころ」の発達と健康についての現状や問題点を理解し、保育実践に役立つ「健康」の指導法を学ぶ。また、科学的な視点から実践事例を分析する力と各種事例報告をグループ討議により、考えを深めていく力を身につける。さらに幼児を対象とした運動遊びの指導案を作成、実践し、評価し、今後の課題を見つける					
授業の概要					
幼児の生活習慣の確立に役立つ運動指導の知識や、遊びの中で十分な運動の実施に必要なリーダー役の保育者となるために必要な実践的な知識を学ぶ。					
事前・事後学習の内容					
これまでの教育・保育実習で学んできた保育の中の子どもの運動あそび場面の環境や保育者の援助のあり方について、自分の実習日誌に記述したことを復習しておくこと。1年次に学習した「健康Ⅰ」で得た知識や「体育実技」で運動実践を通じた学びと、2年次前期に学習した「小児体育」で学んだ子どもの運動あそびとそれを支える実践理論について復習しておくこと。					
授業計画					
第 1 回目：オリエンテーション/具体的実践例を読み込み、幼児教育、保育の基本を捉える					
第 2 回目：幼児の健康とは 具体的実践例を読み、分析する					
第 3 回目：保育所運動会見学（観察レポート作成、提出）					
第 4 回目：運動会見学の振り返り 現任保育士の運動会までの過程を知る					
第 5 回目：子どもにとっての運動会を考える					
第 6 回目：運動遊びに関わる指導について学ぶ 具体的実践例を読み、分析する					
第 7 回目：運動指導のポイントを学ぶ					
第 8 回目：指導案作成の資料探し（図書館活用）					
第 9.10 回目：指導案作成のため仲間と実践し試行錯誤して内容を精選。指導案作成					
第 11 回目：指導案提出					
第 12 回目：指導のための事前準備					
第 13 回目：4.5 歳児対象 運動遊び指導体験					
第 14 回目：実践の振り返り 現任保育士の方からの助言を参考に考える					
第 15 回目：実践の反省を基に、新たに指導案を立て提出					
テキスト					
なし。説明用参考資料を授業内で配布。					
参考書・参考資料等					
授業の中で紹介する。また、説明用参考資料を授業内で配布。					
学生に対する評価					
課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度（30%）とレポート試験（70%）の総合評価					

授業科目名 人間関係 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 本田 幸
	必修	必修	必修	開講期： 1学年 前期	
授業の到達目標及びテーマ 人と関わる力を身に付けることは、人の生涯にとって重要です。現代社会の中で、人と関わることの意味を考え、乳幼児期の子どもの人間関係の育ちについて学びます。 それらを踏まえ、保育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容について学習します。					
授業の概要 現代社会の中で、乳幼児期の子どもが人と関わる力を育む上での問題点や課題を考えます。また、乳幼児期の子どもの人間関係の発達の大まかな道筋について学習します。 さらに、保育の基本である遊びを通して子どもが人との関わりをどのように広げていくのかについて具体的に学習します。					
事前・事後学習の内容 人との関わりを豊かにすることは、子どもにとっても大人にとっても大切なことです。横浜女子短期大学での新たな生活の中でも、様々な人との関わりを丁寧に考えることで、学生生活も豊かになると思います。 また、授業内で紹介する参考図書なども積極的に手に取り、読んでみることをお勧めします。					
授業計画 第 1 回目：オリエンテーション 第 2 回目：人と関わることの意味 第 3 回目：保育の基本 第 4 回目：乳児期の「人への関心」「人との関係の始まり」 第 5 回目：人との関わり方の基盤－アタッチメント関係の形成 第 6 回目：自我の発達 第 8 回目：道徳性・規範意識の芽生え 第 9 回目：遊びの中での関わり方の育ち 第 10 回目：保育内容の構造と領域「人間関係」 第 11 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助①－3 歳児 第 12 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助②－4 歳児 第 13 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助③－5 歳児 第 14 回目：遊びの中で育つ人との関わり 第 15 回目：まとめ：人と関わる力を育てるために 定期試験 テキスト： 小櫃智子、谷口明子編『新版実践保育内容シリーズ② 人間関係』 一藝社					
参考書・参考資料等 佐々木正美著『子どもへのまなざし』ミネルヴァ書房					
学生に対する評価 授業に取り組む姿勢（30％）、中間レポート課題（30％）、定期試験（40％）の総合評価 60 点以上を合格とする					

授業科目名 人間関係の指導法 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位 開講期： 1学年 後期	担当教員名 本田 幸
授業の到達目標及びテーマ 保育内容の構造から領域「人間関係」のねらい及び内容を理解します。 乳幼児期の発達と照らし合わせながら保育場面での子どもが人との関わりを広げていくプロセスと人との関わりを豊かにしていくための保育者の役割と具体的援助について学びます。					
授業の概要 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領をもとに、保育において育みたい資質・能力、幼児期のおわりまでに育てほしい姿を確認し、保育の総合性をふまえて、領域「人間関係」との関連について学びます。 特に「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」に関連する保育内容について考えていきます。 その上で、子どもが生活や遊びを通して人と関わる力を育む具体的な保育実践について学びます。					
事前・事後学習の内容 前期に学習した「人間関係」の内容をしっかりと復習し、乳幼児期の人間関係の発達等、基本的な知識は身に付けておいて下さい。また、保育の基本、保育内容の構造、5領域、については保育を行う上での基本的事項になります。繰り返し復習しておきましょう。					
授業計画 第 1 回目：オリエンテーション 第 2 回目：保育内容の構造 第 3 回目：領域「人間関係」のねらいと内容① 第 4 回目：領域「人間関係」のねらいと内容② 第 5 回目：3歳未満児の保育における人との関わり 第 6 回目：幼児の自立心を育む援助 第 8 回目：ルールのある遊びと保育者の援助 第 9 回目：協同的遊びの中で育ち合う 第 10 回目：自己調整力の育ち—子どもの折り合う姿 第 11 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助①—3歳児 第 12 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助②—4歳児 第 13 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助③—5歳児 第 14 回目：園、家庭、地域の生活と人との関わり 第 15 回目：まとめ—人と関わる力を育むための保育者の役割					
テキスト 小櫃智子、谷口明子編『新版実践保育内容シリーズ② 人間関係』 一藝社					
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省					
学生に対する評価 授業への参加度 (30%)、授業後の小レポート課題及び提出物 (30%)、レポート課題 (40%) の総合評価 60 点以上を合格とする					

授業科目名 人間関係（指導法） （専門教育科目）	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 本田 幸
	必修	必修	必修	開講期： 2学年 後期	

授業の到達目標及びテーマ

人と関わる力を身に付けることは、人の生涯にとって重要です。現代社会の中で、乳幼児期の子どもの人間関係の育ちを取り巻く社会的背景や課題について理解します。合わせて、乳幼児期の子どもの人間関係の発達について学びを深めていきます。

それらを踏まえ、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における保育の基本、領域「人間関係」のねらい、および内容の全体構造について今まで学習したことを確認していきます。

さらに、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育について学習します。

授業の概要

現代社会の中で、乳幼児期の子どもが人と関わる力を育む過程の問題点や課題を考えます。また、これまでに学習した子どもの発達過程を確認しながら、乳幼児期の子どもの人間関係の発達を整理していきます。

さらに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領をもとに、保育において育みたい資質・能力、幼児期のおわりまでに育てほしい姿を確認し、保育の総合性をふまえて、領域「人間関係」との関連について学びます。

その上で、人と関わる力を育む具体的な保育実践について考えていきます。

事前・事後学習の内容

今まで授業で学んだことや、実習で経験したことが基盤になります。保育内容の構造や、領域についての考え方をしっかりと復習しておきましょう。

さらに、人との関わりを豊かにすることは、子どもにとっても大人にとっても大切なことです。日々の生活の中でも、様々な人との関わりを丁寧に考えることで、学生生活も豊かになると思います。

また、授業内で紹介する参考図書なども積極的に手に取り、読んでみることをお勧めします。

授業計画

- 第 1 回目：オリエンテーションー現代社会と幼児をとりまく人間関係について考える
- 第 2 回目：領域「人間関係」の基本構造について学ぶ
- 第 3 回目：3歳未満児における人間関係の発達ー身近な大人との関係を基盤として育つ
- 第 4 回目：幼児期の園生活の中で見られる人と関わる力の育ち
- 第 5 回目：人と関わる力を育てる保育の実践ー具体的な指導場面を想定してみる
- 第 6 回目：幼児の自立心を育む援助
- 第 7 回目：友だちとの遊びを楽しむ中で互いの気持ちに気付く援助の在り方
- 第 8 回目：ルールのある遊びと援助
- 第 9 回目：協同的な遊びの中で育ち合う
- 第 10 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助①ー3歳児
- 第 11 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助②ー4歳児
- 第 12 回目：幼児期の子どもの人と関わる力の育ちと保育者の援助③ー5歳児
- 第 13 回目：幼児期から小学校へのつながりを考える
- 第 14 回目：園、家庭、地域の生活と人との関わり
- 第 15 回目：まとめ：人と関わる力を育てるために

テキスト：なし 適宜プリントを配布します。

参考書・参考資料等

佐伯胖著『幼児教育へのいざない 増補改訂版』ミネルヴァ書房

佐々木正美著『子どもへのまなざし』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業に取り組む姿勢（40%）、中間レポート課題（30%）、期末レポート課題（30%）の総合評価 60点以上を合格とする

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1 単位	担当教員名
環境 (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期： 1 学年 前期	平澤 順子
授業の到達目標及びテーマ					
<p>1) 幼児を取り巻く環境とその関わり的重要性、乳幼児の発達にとっての環境の意義を理解する</p> <p>2) 乳幼児期の思考・科学的概念の発達を理解し、それらを育むための環境構成について知る</p> <p>3) 幼児期の標識・文字などや情報・施設との関わりを通しての学びを理解する</p>					
授業の概要					
子どもを取り巻く環境(物的環境、人的環境、自然環境、社会的環境)についての理解を深め、乳幼児がそれらに自ら心を動かし、主体的に関わる事の重要性についても学び、それらを通して子どもの活動が豊かになるための環境構成を知る					
事前・事後学習の内容					
乳幼児に身近な地域の公園に行き、実際に遊ぶ姿を観察し、子どもたちがどのように環境と関わっているのかについて調べてみる					
授業計画					
第1回：オリエンテーション、領域「環境」で学ぶこと					
第2回：幼児教育の基本(1)：乳幼児期にふさわしい生活					
第3回：幼児教育の基本(2)：発達に適した環境とそれを通しての教育					
第4回：人的環境としての保育者の役割					
第5回：保育内容「環境」のねらいと内容					
第6回：乳幼児の育ちと領域「環境」					
第7回：乳児・1～2歳児の発達の特徴と環境との関わり					
第8回：幼児と自然環境との関わり(1)：自然物を用いた制作					
第9回：幼児と自然環境との関わり(2)：身近な野菜の栽培					
第10回：幼児と物的環境との関わり：地域の公園を参観					
第11回：幼児と文字や標識、数量・図形との関わり：地域の探索と地図の作成					
第12回：幼児と身近な情報及び施設との関わり					
第13回：子どもを取り巻く環境における今日的課題：ポスターの作成					
第14回：子どもを取り巻く環境における今日的課題：ポスターの発表					
第15回：現代における保育の課題と領域「環境」の重要性					
定期試験					
テキスト					
使用しない。必要に応じてプリントを配布する。					
参考書・参考資料等					
福元真由美 編者代表 事例で学ぶ保育内容『領域環境』 萌文書林					
学生に対する評価					
総合評価：課題レポート(30%) 講義の参加態度(20%) 試験(50%)					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名 梅原正美
環境の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期：1学年 後期	
授業の到達目標及びテーマ					
<p>幼児は遊びの中で周囲の環境と親しみ、自然と触れ合う中でさまざまな事象に興味関心をもち、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようと経験を積み重ねる。幼児のこの主体性を育むために、どのような環境構成が適切なのか、遊び環境、自然環境における保育者の援助を考える。</p>					
授業の概要					
<p>人的環境や物的環境を通して、幼児期の五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）を豊かにする方法を探り、好奇心や探求心を深めながら生きる力について学ぶ。また、地域の社会環境を活用しながら、幼児期の遊びを豊かなものにすることを学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>五感を研ぎ澄まし、四季の変化による自然環境の移り変わりを、植物や昆虫などを通して感じ取りながら、気づいたことについて調べてみる。</p>					
授業計画					
第 1 回目：子どもの育ちと「環境」の関りを知り、領域「環境」のねらいと内容について学ぶ					
第 2 回目：環境構成と子どもの発達について学ぶ					
第 3 回目：子どもを取り巻く人的環境について学ぶ					
第 4 回目：子どもを取り巻く物的環境について学ぶ					
第 5 回目：子どもを取り巻く社会的環境について学ぶ					
第 6 回目：子どもを取り巻く自然環境について学ぶ					
第 7 回目：子どもの生きる力を育む環境①（自立する心や好奇心、探究心を育む環境について）					
第 8 回目：子どもの生きる力を育む環境②（表現する心や道徳心を育む環境について）					
第 9 回目：季節に合った植物や昆虫の採集した標本を発表し、身近な自然環境の知識を深める					
第 10 回目：子どもの守り育てる環境や気になる子どもとの環境の設定について考える					
第 11 回目：子どもの発達にかかわる数・量・形（年齢における数量や図形への関心）					
第 12 回目：保育者にかかわる数・量・形（消毒液のつくり方、濃度、割合）					
第 13 回目：園生活でみられる数学（野菜から学ぶ形や大きさ、数量）					
第 14 回目：遊びの中でみられる数学（サイコロのづくりとすごろく遊び、紙や鉄の図形遊び）					
第 15 回目：保育における「環境」の重要性についてのまとめ					
テキスト					
酒井幸子・守巧 編著 保育内容『環境』 萌文書林					
吉田明史・田宮縁 編著 保育者が身につけておきたい『数学』 萌文書林					
参考書・参考資料等					
福元真由美 編著 事例で学ぶ保育内容『領域 環境』 萌文書林					
学生に対する評価					
課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(40%)と レポート試験(60%)の総合評価					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名
環境(指導法) (専門教育科目)	必修	必修	必修	開講期：2学年 前期	梅原正美
授業の到達目標及びテーマ					
<p>幼児は遊びの中で周囲の環境と親しみ、自然と触れ合う中でさまざまな事象に興味関心をもち、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようと経験を積み重ねる。幼児のこの主体性を育むために、どのような環境構成が適切なものか、遊び環境、自然環境における保育者の援助を考える。</p>					
授業の概要					
<p>人的環境や物的環境を通して、幼児期の五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる）を豊かにする方法を探り、好奇心や探求心を深めながら生きる力について学ぶ。また、地域の社会環境を活用しながら、幼児期の遊びを豊かなものにするを学ぶ。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>五感を研ぎ澄まし、四季の変化による自然環境の移り変わりを、植物や昆虫などを通して感じ取りながら、気づいたことについて調べてみる。</p>					
授業計画					
第 1 回目：子どもの育ちと「環境」の関りを知り、領域「環境」のねらいと内容について学ぶ					
第 2 回目：環境構成と子どもの発達について学ぶ					
第 3 回目：子どもを取り巻く人的環境について学ぶ					
第 4 回目：子どもを取り巻く物的環境について学ぶ					
第 5 回目：子どもを取り巻く社会的環境について学ぶ					
第 6 回目：子どもを取り巻く自然環境について学ぶ					
第 7 回目：子どもの生きる力を育む環境①（自立する心や好奇心、探究心を育む環境について）					
第 8 回目：子どもの生きる力を育む環境②（表現する心や道徳心を育む環境について）					
第 9 回目：季節に合った植物や昆虫の採集した標本を発表し、身近な自然環境の知識を深める					
第 10 回目：子どもの守り育てる環境や気になる子どもとの環境の設定について考える					
第 11 回目：子どもの発達にかかわる数・量・形（年齢における数量や図形への関心）					
第 12 回目：保育者にかかわる数・量・形（消毒液のつくり方、濃度、割合）					
第 13 回目：園生活でみられる数学（野菜から学ぶ形や大きさ、数量）					
第 14 回目：遊びの中でみられる数学（サイコロのづくりとすごろく遊び、紙や鉄の図形遊び）					
第 15 回目：保育における「環境」の重要性についてのまとめ					
テキスト					
酒井幸子・守巧 編著 保育内容『環境』 萌文書林					
吉田明史・田宮縁 編著 保育者が身につけておきたい『数学』 萌文書林					
参考書・参考資料等					
福元真由美 編者 事例で学ぶ保育内容『領域 環境』 萌文書林					
学生に対する評価					
課題を含め、授業学習に関して積極的に取り組む姿勢、態度(40%)と レポート試験(60%)の総合評価					

授業科目名 言葉 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名 本田 幸
	必修	必修	必修	開講期：1学年 前期	
授業の到達目標及びテーマ 人間にとって言葉がどのような意味を持つものかを考えます。さらに子どもの言葉を豊かに育むためにどのようなことが大切なのかを理解するために、子どもの言葉が発達していく道筋について学習します。特に子どもが言葉を獲得する上で、言葉の楽しさやおもしろさに対する感覚を磨いていくことが大切です。そのような、言葉に対する感覚を豊かにする「言葉遊び」や絵本、紙芝居等の児童文化財についてもその意義を理解し、保育実践の基盤となる事柄を学びます。					
授業の概要 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を学びます。具体的には、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識や技術について学びます。					
事前・事後学習の内容 日常生活の中で、言葉に関心を持ち、言葉の美しさや楽しさを見つけることを心がけること。子どもの言葉に着目して、子どもが言葉を獲得していく姿や言葉を楽しみ、味わっている様子など観察してみましょう。絵本や紙芝居などの子どもの言葉を育む児童文化財について興味・関心をもって下さい。					
授業計画 第1回目：オリエンテーション ー身近な生活から言葉の意義について考えるー 第2回目：人間にとって「言葉」とは何か？ 第3回目：子どもにとって言葉 ー言葉の世界が広がるときー 第4回目：言葉の発達過程を学ぶⅠ（乳児期から幼児期前期） 第5回目：言葉の発達過程を学ぶⅡ（幼児期後期） 第6回目 言葉の発達過程を学ぶⅢ（書き言葉が育つ過程） 第7回目：「言葉に対する感覚」について学ぶ 言葉の美しさ、楽しさとは何か？絵本を通して言葉の楽しさを味わう。 第8回目：言葉に対する感覚を豊かにする実践 「言葉遊び」を楽しむ（演習） 第9回目：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅰ（絵本） 絵本の構造と子どもと絵本の関わりについて学ぶ 第10回目：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅱ（絵本） 絵本の与え方について学ぶ 第11回目：児童文化財を用いた保育実践（絵本） 絵本の読み聞かせの実践（演習） 第12回目：言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財Ⅲ（紙芝居） 紙芝居の特徴、歴史などについて理解を深める 第13回目：児童文化財を用いた保育実践（紙芝居） 紙芝居の実践（演習） 第14回目：子どもにとっての児童文化財の意義 子どもの生活を豊かにする児童文化財について学ぶ 第15回目：子どもの言葉を育むこと（まとめ）					
テキスト 駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」[第2版]』株式会社みらい					
参考書・参考資料等 今井和子『子どもとことばの世界』ミネルヴァ書房					
学生に対する評価：授業に積極的に取り組む姿勢（30%）、授業後の小レポートおよび提出物（30%）、レポート課題（40%）、の総合評価60点以上を合格とする					

授業科目名 言葉の指導法 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名 本田 幸
	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	
授業の到達目標及びテーマ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」について理解します。その上で子どもの言葉の育ちを踏まえた保育のあり方や子どもの言葉を育む保育者の関わりについて学びます。さらに、絵本の読み聞かせや紙芝居、言葉遊びなどの具体的な指導案作成、実践、振り返りを通して保育実践力を高めていきます。					
授業の概要及びテーマ 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けます。保育者と子どもとの関わりから生まれる言葉、友達との関わりを通して豊かになる言葉など、事例を通して学んでいきます。保育活動として行われる絵本の読み聞かせや、紙芝居の演じ方、児童文化財の活用など計画・実践・評価を含む実践から、互いに学び合いにつなげていきます。					
事前・事後学習の内容 前期に履修した「言葉」を含む関連する科目の内容をきちんと復習し整理しておいて下さい。 さらに、実習体験などを通して、子どもの言葉が育つ過程や、子どもの言葉の面白さなどに着目し、自分なりに記録、考察すると学びがさらに深まる。絵本や紙芝居など保育教材についても積極的に知識を広げていきましょう。					
授業計画 第 1 回目：保育における「言葉」とは？ 一保育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容 第 2 回目：子どもの言葉の発達過程(1) 一言葉の発達のプロセスと保育(乳児期から幼児期前期) 第 3 回目：子どもの言葉の発達過程(2) 一言葉の発達のプロセスと保育(幼児期後期) 第 4 回目：子どもの言葉の発達過程(3) 一書き言葉の発達の道筋と保育。小学校への連携 第 5 回目：言葉を育む環境構成と援助(1) 一養育者と子どもをつなぐ言葉 第 6 回目：言葉を育む環境構成と援助(2) 一保育者とのかかわり 第 7 回目：言葉を育む環境構成と援助(3) 一友達とのかかわり 第 8 回目：言葉を豊かにする保育者の役割(1) 一言葉による伝え合いを育む援助 第 9 回目：言葉を豊かにする保育者の役割(2) 一文字などで伝える楽しさを生み出す援助 第 10 回目：子どもの言葉を豊かにする教材 一絵本・物語・紙芝居などの実際と保育の中での生かし方 第 11 回目：言葉に対する感覚を豊かにする実践 一言葉遊びの実際と保育の中での生かし方 第 12 回目：子どもの言葉を育む保育の構想 一具体的な保育場面を想定した指導案の作成 第 13 回目：子どもの言葉を育む保育の実践 一指導案に基づく保育実践の発表 第 14 回目：子どもの言葉を育む保育の評価と改善 一保育実践の振り返り 第 15 回目：言葉の育ちに関する諸問題・まとめ 一特別な配慮が必要な幼児に対する保育					
テキスト： 駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」[第2版]』株式会社みらい					
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説』厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省					
学生に対する評価 授業への参加度(30%)、授業後の小レポート課題及び提出物(30%)、レポート課題(40%)の総合評価60点以上を合格とする					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態：演習 単位数：1単位	担当教員名
造形表現 (専門教育科目)	必須	必修	必修	開講期：1学年 前期	兼子真理
授業の到達目標及びテーマ					
<p>つくり出す喜びとは何かを考え、様々な表現の基礎的な知識・技能について学ぶ。また、保育現場で役立つよう各自でスケッチブックにまとめる。</p>					
授業の概要					
<p>領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学ぶ。幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につけると同時に演習を通して表現活動の楽しさを体験する。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>スケッチブックに学びの内容・過程を課題ごとに視覚的にわかりやすくまとめておくこと。</p>					
授業計画					
第1回目：ガイダンス 5領域 表現のねらい等授業展開の説明					
第2回目：「新聞紙であそぶ」意義、目的を学ぶ					
第3回目：「泥ねんど」を体験する					
第4回目：描画材料 クレヨン・クレパス・コンテパステルの種類と特徴					
第5回目：絵の具の性質を学ぶ					
第6回目：絵の具の機能と技法あそびを体験					
第7回目：技法あそびの目的と意義					
第8回目：絵の具の導入① 指導法を学ぶ					
第9回目：絵の具の導入② 筆を使用する前段階					
第10回目：模造紙に描く（協同制作）					
第11回目：版画①糸引き模様					
第12回目：版画②デカルコマニー					
第13回目：版画③マーブリング					
第14回目：版画④スタンピング					
第15回目：実習で活用できる制作					
定期試験					
テキスト					
宮川萬寿美 他 著「造形表現」青踏社					
参考書・参考資料等					
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
学生に対する評価					
演習・授業への取り組み・態度（50%）提出物スケッチブック課題（50%）					

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名
造形表現の指導法 (専門教育科目)	選択	必修	必修	開講期： 1学年 後期	兼子真理
授業の到達目標及びテーマ					
<p>保育内容の各領域を総合的に促え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導方法を学ぶ。表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発達を考え実践を重ね、総合的な表現活動を計画・指導・実践する力を身につける。</p>					
授業の概要					
<p>乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>課題ごとに学びの内容や過程をスケッチブックに視覚的にわかりやすくまとめる。</p>					
授業計画					
第1回：身の周りの紙（折り紙・ハترون紙・広告紙）の特徴を学ぶ					
第2回：折り紙を使用した制作					
第3回：紙版画					
第4回：スチレン版画①（一版一色）					
第5回：スチレン版画②（一版多色）					
第6回：紙粘土①（成形）					
第7回：紙粘土②（着色）					
第8回：クリスマスカード（ステンシル）					
第9回：クリスマスの飾り①					
第10回：クリスマスの飾り②					
第11回：実践を踏まえた制作①					
第12回：実践を踏まえた制作②					
第13回：指導案を作成					
第14回：指導案に沿って模擬保育を行う					
第15回：振り返りを通して改善点を考える					
定期試験					

テキスト

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

参考書・参考資料等

授業内で紹介する。

学生に対する評価

全授業を通じての取り組む姿勢（４０％）学習内容の様子や気づきをスケッチブックにまとめ、学生自身の学びが可視されたものを評価する（６０％）

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 2単位	担当教員名 佐野 真弓 岡本 真幸 スティーブントムソン 滝口 節子 鶴野澤 武美 平澤 順子 三田 沙織
保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 1・2学年 通年	

授業の到達目標及びテーマ

- ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。
- ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。
- ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。

授業の概要

保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅰ（施設）の事前・事後の学習を中心に行います。実習の意義・目的の理解、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項（人権・プライバシーの保護と守秘義務等）の理解、実習の計画・実践と記録・評価の理解、事後指導における実習の総括と課題の明確化を行います。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。

また、2年11月までに各自が創意工夫して「私の実習ノート」を仕上げます。これは、保育者になるための、実習による学びの記録です。

事前・事後学習の内容

教科書の指定箇所および実習ガイドの予習

授業計画

- 第1回： 授業オリエンテーション
- 第2回： 実習の意義・目的・内容の理解
- 第3回： 実習の段階・内容・方法の理解
- 第4回： 子どもの生活と遊びの理解
- 第5回： 子どもの生活と発達の理解
- 第6回： 保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ①
- 第7回： 保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ②
- 第8回： 実習記録日誌・（部分）指導案の意義と書き方①
- 第9回： 実習記録日誌・（部分）指導案の意義と書き方②
- 第10回： 保育技術の実践①
- 第11回： 保育技術の実践②
- 第12回： 指導案に基づく保育実践
- 第13回： 映像による児童養護施設の理解
- 第14回： 児童養護施設の概要
- 第15回： 映像による保育所の理解
- 第16回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事前学習①（日誌）
- 第17回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事前学習②（学ぶべきこと）
- 第18回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事前学習③（課題を立てる・日々の目標）
- 第19回： 1年次・2年次の話し合いによる学びの強化（1・2年合同）
- 第20回： 実習オリエンテーション（冬期集中）①
- 第21回： 実習オリエンテーション（冬期集中）②
- 第22回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事前学習①（日誌）
- 第23回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事前学習②（学ぶべきこと・課題と目標）
- 第24回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事後学習① 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価）
- 第25回： 保育実習Ⅰ（保育所） 事後学習②
- 第26回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事後学習①実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価）
- 第27回： 保育実習Ⅰ（児童養護施設） 事後学習②
- 第28回： 実習記録日誌の書き方の振り返り
- 第29回： 指導計画の立て方の振り返り

第30回：指導計画の実践

定期試験

- ・保育実習Ⅰとして保育所（1年2月～3月）、保育所以外の児童福祉施設（2年4月～翌年1月）で各12日間の実習を行う。

テキスト

横浜女子短期大学 実習ガイド

太田光洋編「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」ミネルヴァ書房

「保育所保育指針解説書」厚生労働省

「幼稚園教育要領解説」文部科学省

「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府

参考書・参考資料等

「最新保育資料集」ミネルヴァ書房

「保育用語辞典」ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業参加態度（提出物含む）（20%）2、定期試験（30%）、マイノート（50%）

授業科目名	卒業	幼免	保育士	授業形態： 演習 単位数： 1単位	担当教員名
保育実習指導 保育実習Ⅱ (専門教育科目)	選択		必修	開講期： 2学年 通年	佐野 真弓 滝口 節子 鶴野澤 武美 平澤 順子 三田 沙織
授業の到達目標及びテーマ					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。 					
授業の概要					
<p>保育実習Ⅱの事前・事後の学習を中心に行います。保育所での具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育所の子どもと保育、保護者支援、指導計画の作成から評価までの過程、保育士の業務内容や職業倫理について理解し、併せて実習における自己の課題を明確化します。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。</p> <p>また、2年11月までに各自が創意工夫して「私の実習ノート」を仕上げます。これは、実習者になるための、実習による学びの記録です。</p>					
事前・事後学習の内容					
教科書の指定箇所および実習ガイドの予習					
授業計画					
第1回： 児童福祉施設と保育士の仕事の理解					
第2回： 保育実習Ⅱ 事前学習①（日誌）					
第3回： 保育実習Ⅱ 事前学習②（指導案）					
第4回： 保育実習Ⅱ 事前学習③（学ぶべきこと・課題と目標）					
第5回： 実習オリエンテーション（夏期集中）①					
第6回： 実習オリエンテーション（夏期集中）②					
第7回： 実習オリエンテーション（夏期集中）③					
第8回： 保育実習Ⅱ 事後学習① 実習体験の振り返り（観察力・着眼点・行動等の自己評価）					
第9回： 保育実習Ⅱ 事後学習②					
第10回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）①					
第11回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）②					
第12回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）③					
第13回： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）④					
第14回： 実習報告会					
第15回： 1年次・2年次の話し合いによる学びの強化（1年・2年合同）					
定期試験					
・保育実習Ⅱとして2年9月に保育所で12日間の実習を行う。					
テキスト					
横浜女子短期大学 実習ガイド					
太田光洋編「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」ミネルヴァ書房					
「保育所保育指針解説書」厚生労働省					
「幼稚園教育要領解説」文部科学省					
「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府					
参考書・参考資料等					
「最新保育資料集」ミネルヴァ書房					
「保育用語辞典」ミネルヴァ書房					
学生に対する評価					
授業参加態度（提出物含む）（20%）、定期試験（30%）、マイノート（50%）					

授業科目名 保育実習指導 保育実習Ⅲ (専門教育科目)	卒業 選択	幼免 	保育士 選択 必修	授業形態： 演習 単位数： 1単位 開講期： 2学年 通年	担当教員名 岡本 眞幸 スティーブン・トムソン
授業の到達目標及びテーマ					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。 ・施設の保育者の専門性（価値・知識・技術）と職業倫理について理解できる。 ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。 					
授業の概要					
<p>保育実習Ⅲの事前・事後の学習を中心に行います。施設での具体的な実践を通して、施設の役割と機能、支援の実際（受容・共感の態度、子ども理解、個別支援計画策定、家庭関係調整、施設内外の連携等）、保育士の業務と職業倫理について理解し、自己の課題を明確化します。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。</p> <p>また、2年11月までに各自が創意工夫して「私の実習ノート」を仕上げます。これは、保育者になるための、実習による学びの記録です。</p>					
事前・事後学習の内容					
教科書の指定箇所および実習ガイドの予習					
授業計画					
<p>第1回目： 児童福祉施設と保育士の仕事の理解</p> <p>第2回目： 保育実習Ⅲ 事前学習①（日誌）</p> <p>第3回目： 保育実習Ⅲ 事前学習②（学ぶべきこと）</p> <p>第4回目： 保育実習Ⅲ 事前学習③（課題を立てる・日々の目標）</p> <p>第5回目： 実習オリエンテーション（夏期集中）①</p> <p>第6回目： 実習オリエンテーション（夏期集中）②</p> <p>第7回目： 実習オリエンテーション（夏期集中）③</p> <p>第8回目： 保育実習Ⅲ 事後指導①</p> <p>第9回目： 保育実習Ⅲ 事後指導②</p> <p>第10回目： 保育実習Ⅲ 事後指導③</p> <p>第11回目： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）①</p> <p>第12回目： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）②</p> <p>第13回目： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）③</p> <p>第14回目： 実習体験のまとめ（実習報告会に向けて）④</p> <p>第15回目： 実習報告会</p>					
定期試験					
<ul style="list-style-type: none"> ・保育実習Ⅲとして、2年次9月に、保育所以外の児童福祉施設で12日間の実習を行なう。 ・実習後に、実習体験（観察力、着眼点、行動等の自己評価）の振り返りを行う。 					
テキスト					
<p>横浜女子短期大学 実習ガイド</p> <p>太田光洋編「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」ミネルヴァ書房</p> <p>説明用資料を授業内で配布。</p>					
参考書・参考資料等					
<p>「社会的養護」で使用したテキスト、その他授業内で紹介。</p> <p>「保育福祉小六法（2018年度版）」（株）みらい</p>					
学生に対する評価					
授業参加態度（提出物含む）（20%）、定期試験（40%）、マイノート（40%）					

授業科目名 教育実習指導 教育実習 (専門教育科目)	卒業	幼免	保育士	授業形態： 実習 単位数： 1単位	担当教員名 佐野 眞弓 滝口 節子 鵜野澤 武美
	選択	必修		開講期： 1・2学年 通年	

授業の到達目標及びテーマ

- ・実習や既習教科の学びを通して、保育実践力が向上する。
- ・施設の保育者の専門性(価値・知識・技術)と職業倫理について理解できる。
- ・実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識が明確化する。

授業の概要

教育実習の事前・事後の学習を中心にを行います。その他、実習に臨む学生として必要となる知識・技術・能力を習得し、実習を通しての育ちを確かなものにする活動等に取り組みます。特に各実習の事後指導で、報告書を提出させ、教育実習生としての観察力・着眼点・行動等について自己評価を行います。いずれの授業も実習を充実したものにするために必要不可欠な内容であるため、全出席が原則になっています。

また、2年11月までに各自が創意工夫して「私の実習ノート」を仕上げます。これは、保育者になるための、実習による学びの記録です。

事前・事後学習の内容

教科書の指定箇所および実習ガイドの予習

授業計画

- 第1回： 授業オリエンテーション
- 第2回： 観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方①
- 第3回： 幼稚園と附属幼稚園実習の理解
- 第4回： 実習体験の振り返り(観察力・着眼点・行動等の評価・指導)
- 第5回： 観察と記録の方法：実習記録日誌の書き方②
- 第6回： 実習の流れ・手続き・書類作成
- 第7回： 幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育保育要領を学ぶ
- 第8回： 教育実習 事前学習①(日誌)
- 第9回： 教育実習 事前学習②(日誌)
- 第10回： 実習に生かす保育技術
- 第11回： 教育実習 事前指導③(指導案)
- 第12回： 教育実習 事前指導④(学ぶべきこと)
- 第13回： 教育実習 事前指導⑤(課題を立てる・日々の目標)
- 第14回： 教育実習 事後学習①
- 第15回： 教育実習 事後学習②
- 第16回： 教育実習 事前学習①(日誌)
- 第17回： 教育実習 事前学習②(指導案)
- 第18回： 教育実習 事前学習③(学ぶべきこと・課題と目標)
- 第19回： 教育実習 事前学習④(実習の心得)
- 第20回： 教育実習 事後指導①
- 第21回： 教育実習 事後学習②

定期試験

- ・夏期集中オリエンテーション2日間
- ・教育実習として1年9月に幼稚園10日、2年6月に幼稚園で15日の実習を行う。
- ・実習後に、実習体験(観察力・着眼点・行動等の自己評価)の振り返りを行う。

テキスト

横浜女子短期大学 実習ガイド

太田光洋編「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」ミネルヴァ書房

「保育所保育指針解説書」厚生労働省

「幼稚園教育要領解説」文部科学省

「幼保連携型認定こども園教育保育要領解説」 内閣府

参考書・参考資料等

「最新保育資料集」ミネルヴァ書房

「保育用語辞典」ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業参加態度（提出物含む）（20%）、定期試験（30%）、マイノート（50%）



発行 横浜女子短期大学
〒234-0054
横浜市港南区港南台4-4-5
TEL 045-833-7100(代表)
FAX 045-832-7246
発行日 2019年4月1日

学籍番号

氏 名
